

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学特論 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP5135
2. 授業担当教員	中里 克治		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	高度専門職業人としての臨床心理士の役割と社会性について理解する。臨床心理士を目指す場合、学部で心理学と臨床心理学の基礎を学ぶことが望ましい。しかし、本学はその前提を置かないので、臨床心理学の歴史、アセスメント、介入、研究法についての基礎知識についても学ぶ。専門家としての成長、社会的責任、他職種との連携についても学ぶ。		
8. 学習目標	臨床心理士としての意識を確立し、その責任のあり方を自覚し、卒業後の学習に向けての基礎を作ることを目指す。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	随時、小レポートを課します。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』、ミネルヴァ書房、2009。 また、随時、プリントを配布する。 <b>【参考文献】</b> 1. 「講座臨床心理学 1 臨床心理学とは何か」2001 下山晴彦・丹野義彦編、東京大学出版会 2. 「臨床心理学原論」2004 大塚義孝編、誠信書房		
11. 成績評価の方法	レポート 50% 授業参加態度 50% ※通学、通信共通		
12. 受講生へのメッセージ	新しい知識や理論を取り入れることも大切であるが、臨床心理士としての勉強は、文字通り、「生涯教育」であるので、臨床心理士としての勉強の仕方を身につけてほしい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	臨床心理学と心理臨床：オリエンテーション		
	<b>【学習の目標】</b> 臨床心理学の位置づけについて学ぶ。 <b>【学習の内容】</b> 臨床心理学の理念と全体構造。 <b>【キーワード】</b> 定義、基本構造、理念、インフォームド・コンセント <b>【学習の課題】</b> 臨床心理学的査定と介入の基本的考え方、正しいインフォームド・コンセントとは何かを理解する <b>【参考文献】</b> 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房 <b>【学習する上での留意点】</b> カウンセリング、心理療法と臨床心理学の関係を整理しておく		
2. テーマ	臨床心理学の実際		
	<b>【学習の目標】</b> 臨床心理学の実際を知る。 <b>【学習の内容】</b> 臨床心理学における実践、研究と専門性について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 精神分析療法、分析心理学、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、コミュニティ心理学 <b>【学習の課題】</b> 心理臨床の実践活動、種々の職域におけるコラボレーション <b>【参考文献】</b> 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房 <b>【学習する上での留意点】</b> 臨床心理学の幅の広さについて理解する		
3. テーマ	臨床心理学の歴史		
	<b>【学習の目標】</b> 臨床心理学の歴史を学び、将来の方向性を知る。 <b>【学習の内容】</b> 世界と日本における臨床心理学の歴史を学ぶ。その延長線上にある自分の臨床心理士に向かった成長の方向性について考える。 <b>【キーワード】</b> 心理学の歴史、実験心理学、差異心理学、精神分析、コミュニケーション論 <b>【学習の課題】</b> 世界と日本における臨床心理学の歴史について学ぶ <b>【参考文献】</b> 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房 <b>【学習する上での留意点】</b> 臨床心理学が実験心理学をはじめとする基礎心理学の上に成り立つことを理解する。また、周辺分野との関係をも理解する。		
4. テーマ	臨床心理学の基本理論 1		
	<b>【学習の目標】</b> 臨床心理学の基本理論について学ぶ。 <b>【学習の内容】</b> ナラティブ・アプローチ、社会構成主義、エンパワメントについて学ぶ。 <b>【キーワード】</b> ナラティブ・アプローチ、社会構成主義、エンパワメント <b>【学習の課題】</b> カクアプローチがどのようにして生まれてきたかを調べる。 <b>【参考文献】</b> 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房		
5. テーマ	臨床心理学の基本理論 2		
	<b>【学習の目標】</b> 臨床心理学の基本理論の発展について学ぶ。 <b>【学習の内容】</b> 実証性、科学者－実践家モデル、コラボレーションについて学ぶ。		

	<p>【キーワード】 エビデンスベースト・アプローチ、科学者－実践家モデル、コラボレーション</p> <p>【学習の課題】 心理臨床の基礎としての実証的心理学の持つ意味、専門職間の連携の必要性和その在り方</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 基礎心理学がどのように臨床心理学の基礎づけをしているか調べよう</p>
6 . テーマ	アセスメントの目的と方法
	<p>【学習の目標】 アセスメントの目的と方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 アセスメントとは何か、ケース・フォーミュレーション、初回面接について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 アセスメント、診断、ケース・フォーミュレーション、初回面接</p> <p>【学習の課題】 アセスメントの方法、ケースフォーミュレーションの過程、初回面接の進め方。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 心理臨床がどのように進められるか実際場面を想定しながら考えてみよう。</p>
7 . テーマ	アセスメント・データの収集法
	<p>【学習の目標】 アセスメント・データの収集法の基礎について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 面接法、観察法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 面接、自然観察法、実験観察法、参加観察法、非参加観察法</p> <p>【学習の課題】 面接の過程、観察におけるサンプリングと記録法について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 データ収集の客観性の担保について考えてみよう。</p>
8 . テーマ	アセスメント・データの収集法 2
	<p>【学習の目標】 さまざまなアセスメント・データの収集法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 質問紙法、投影法、知能検査法、神経心理学的検査、脳画像について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 質問紙法、投影法、知能検査法、神経心理学的検査、脳画像</p> <p>【学習の課題】 データ収集法の多様性とそれぞれの長所と短所。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれのアセスメント・データの収集法の効用と限界について考えてみよう。</p>
9 . テーマ	アセスメント・データの分析技法
	<p>【学習の目標】 アセスメント・データの分析技法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメントについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメント</p> <p>【学習の課題】 認知行動療法とコミュニティ心理学などにおけるそれぞれの方法の使われ方。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 生態学的アセスメントが一般的な心理臨床でどのように生かされるかを考えてみよう。</p>
10 . テーマ	異常心理学 1
	<p>【学習の目標】 異常心理学とは何かを学習する。</p> <p>【学習の内容】 異常心理学とは何か、DSM の歴史と将来、精神症状と薬物療法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 異常心理学、DSM-IV-TR、DSM-5、診断分類</p> <p>【学習の課題】 正常と異常の区別についてさまざまな考え方があることを知る、DSM-IV から DSM-5 への変化を知る。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 異常心理学の守備範囲を知ろう。</p>
11 . テーマ	異常心理学 2
	<p>【学習の目標】 さまざまな精神障害について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 不安障害や統合失調症などの精神障害について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 統合失調症、気分障害、不安障害、性同一性障害、パーソナリティ障害</p> <p>【学習の課題】 精神障害と正常なパーソナリティの関係について考えてみる。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 ボーダーラインの問題について考えてみよう。</p>
12 . テーマ	発達臨床心理学 1
	<p>【学習の目標】 発達およびそれと関わる臨床的諸問題を学習する。</p> <p>【学習の内容】 生涯発達、発達障害、胎児期と乳幼児期における発達と臨床的問題について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 生涯発達、胎児期、乳児期、幼児期、発達障害、基本的信頼、自律、自主性</p> <p>【学習の課題】 生涯発達の視点から、胎児期から幼児期までの正常な発達と生涯発達について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 6 年ほどの間に目覚ましい変化がみられる。発達の遅れの問題について考えてみよう。</p>
13 . テーマ	発達臨床心理学 2
	<p>【学習の目標】 児童期の発達について学習する。</p> <p>【学習の内容】 児童期における発達と臨床的問題について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 児童期、学校、学び、遊び、勤勉性、友達、いじめ、不登校</p> <p>【学習の課題】 児童期の発達と特有の問題について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 学校が生活の場として重要な意味を持つようになる。家庭と学校の間を調べてみよう。</p>

14. テーマ	発達臨床心理学 3
【学習の目標】	青年期の発達について学習する。
【学習の内容】	青年期の発達と臨床的問題について学ぶ。
【キーワード】	青年期前期、青年期後期、アイデンティティ、モラトリアム、友達集団
【学習の課題】	青年期前期と青年期後期におけるアイデンティティの発達の相違を学ぶ。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	青年期はモラトリアムで特徴づけられる。この期間は時代とともに変わってきた。今はどうだろうか。
15. テーマ	発達臨床心理学 4
【学習の目標】	成人期の発達について学習する。
【学習の内容】	成人発達の各時期における発達と臨床的問題について学ぶ。
【キーワード】	成人初期、中年期、親密性、生殖性
【学習の課題】	成人期の正常な発達と病的な発達について理解する。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	成人期は社会の中となつて社会を担ってゆく時期である。その意味を考えてみよう。
16. テーマ	発達臨床心理学 5
【学習の目標】	老年期の発達について学習する。
【学習の内容】	老年期における発達と臨床的問題について学ぶ。
【キーワード】	老年期、統合、死、認知症
【学習の課題】	老年期の正常な発達と病的な発達について理解する。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	老年期は衰退期としての意味だけではなく、人生の完結期でもある。
17. テーマ	発達障害 1
【学習の目標】	知的障害と自閉症スペクトラムからはじめて、発達障害を統合的に理解する。
【学習の内容】	知的障害と自閉症スペクトラムについて理解する。
【キーワード】	知的障害、広汎性発達障害、自閉症スペクトラム
【学習の課題】	知的障害と自閉症スペクトラムを DSM-5 の新しい視点から学ぶ。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	DSM-5 の新しい視点から発達障害のとらえ方が、これまでとどのように変わったかを押さえよう。
18. テーマ	発達障害 2
【学習の目標】	その他の発達障害を統合的に理解する。
【学習の内容】	学習障害、注意欠陥・多動性障害について理解する。
【キーワード】	学習障害、注意欠陥・多動性障害
【学習の課題】	学習障害、注意欠陥・多動性障害を DSM-5 の新しい視点から学ぶ。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	それぞれの対応法について学ぼう。
19. テーマ	虐待、不登校、非行
【学習の目標】	必ずしも、発達の問題ではないが発達途上に発生しがちな様々な問題を理解する。
【学習の内容】	虐待、不登校、非行の原因と対処について学ぶ。
【キーワード】	虐待、不登校、非行、発達障害
【学習の課題】	発達期に生じやすい問題とその原因について、社会という視点も含めて理解する。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	いずれも古くて新しい問題である。最近の現状を調べてみよう。
20. テーマ	いじめ、ひきこもり、自殺
【学習の目標】	前講にひきつづき、いじめ、ひきこもり、自殺について学ぶ。
【学習の内容】	いじめ、ひきこもり、自殺の原因と対処について学ぶ。
【キーワード】	いじめ、ひきこもり、自殺
【学習の課題】	発達期に生じやすい問題とその原因について、社会という視点も含めて理解する。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	いじめをなくせるかを考えてみよう。
21. テーマ	介入の理論モデル 1
【学習の目標】	古典的な介入の理論モデルについて学ぶ。
【学習の内容】	精神分析、分析心理学、クライエント中心療法について学ぶ。
【キーワード】	精神分析、分析心理学、クライエント中心療法
【学習の課題】	精神分析から始まる現代の心理療法の源流について学ぶ。
【参考文献】	「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	すべての心理療法は精神分析から始まっている。それぞれの精神分析との関係は。
22. テーマ	介入の理論モデル 2
【学習の目標】	比較的新しい介入の理論モデルについて学ぶ。
【学習の内容】	家族療法、コミュニティ心理学、ナラティブ・セラピーについて学ぶ。

	<p>【キーワード】 家族療法、コミュニティ心理学、ナラティブ・セラピー</p> <p>【学習の課題】 現代の心理療法の源流から生まれてきた比較的新しい介入法について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 新しい介入法はなぜ生まれてきたのだろうか。</p>
23. テーマ	個人への介入法 1
	<p>【学習の目標】 基本となる個人への介入法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシング、自律訓練法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシング、自律訓練法</p> <p>【学習の課題】 それぞれの療法の適応対象と特徴について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれの方法の効用と限界について調べてみよう。</p>
24. テーマ	個人への介入法 2
	<p>【学習の目標】 引き続き、基本となる個人への介入法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 曝露法、催眠療法、認知リハビリテーション、アサーション・トレーニングについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 曝露法、催眠療法、認知リハビリテーション、アサーション・トレーニング</p> <p>【学習の課題】 それぞれの療法の適応対象と特徴について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 自分が比較的使えそうな方法をどれか考えてみよう。</p>
25. テーマ	集団・社会への介入法
	<p>【学習の目標】 介入は個人を対象とするだけではない。集団・社会への介入も大切である。その方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 集団療法から始まり、危機介入、コンサルテーション、心理教育、SST などについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 集団療法、危機介入、コンサルテーション、心理教育、SST</p> <p>【学習の課題】 それぞれの介入法の適用対象と特徴について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 近い将来にはすべてマスターする必要があるものばかりである。</p>
26. テーマ	コミュニティにおける相談活動
	<p>【学習の目標】 スクールカウンセリング、特別支援地域で行われているさまざまな相談活動について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育、被害者相談、職場のカウンセリング、デイケア、ターミナルケアについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 スクールカウンセリング、特別支援教育、被害者相談、産業カウンセリング、デイケア、ターミナルケア</p> <p>【学習の課題】 さまざまな領域で行われている相談業務の実態を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 自分が行うことだという意識を持って学ぼう。</p>
27. テーマ	臨床心理学的研究
	<p>【学習の目標】 臨床心理学における研究について学習する。</p> <p>【学習の内容】 臨床心理学における研究の意義について考える。また、質的研究や事例研究などのさまざまな研究についても学ぶ。</p> <p>【キーワード】 臨床実践、質的研究、事例研究</p> <p>【学習の課題】 臨床実践に研究の視点がなぜ必要かを理解し、研究を行うために必要な工夫を考えてみる。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 心理臨床と研究は違ったことだろうか。共通点を探してみよう。</p>
28. テーマ	社会的専門性：職域
	<p>【学習の目標】 臨床心理士が働く職域は多様である。どのような職域があるかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 医療・保健、教育だけでなく、福祉、司法・矯正、産業、家庭など実に様々な領域があることを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 医療・保健、教育、福祉、司法・矯正、産業、家庭</p> <p>【学習の課題】 多様な職域でどのような心理実践が行われているかを理解する。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれの職域で、臨床心理士として、どのような仕事があるかを調べてみよう。</p>
29. テーマ	社会的責任：専門職、倫理、法規
	<p>【学習の目標】 臨床心理士は専門職としての社会的責任を持つ。その責任とは何かを学習する。</p> <p>【学習の内容】 説明責任とインフォームド・コンセント、そして、その裏づけとなる生涯（継続）学習についての理解を深める。</p> <p>【キーワード】 説明責任、インフォームド・コンセント、生涯（継続）学習、倫理、法規</p> <p>【学習の課題】 臨床心理士が専門職としての社会的責任を果たすとはどういうことかを具体的に理解する。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 社会的責任とは、クライアントを大切にすることでもある。</p>
30. テーマ	振り返りとまとめ
	<p>【学習の目標】 振り返りとまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】 入学時に自分の抱いていた心理臨床についてのイメージと現在のイメージを対比し、今後の課題について考える。</p> <p>【キーワード】 臨床心理士、実践、職域（職場）、スーパーバイザー、勉強会</p> <p>【学習の課題】 あらかじめ、レポートを作成しておくこと。</p> <p>【参考文献】 「よくわかる臨床心理学」改訂新版 2009 下山晴彦編、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 自分がどのような臨床心理士になりたいかをできるだけ具体的にイメージしてみる。</p>

1. 科目名 (単位数)	臨床心理基礎実習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5183
2. 授業担当教員	大澤 靖彦・大島 朗生・新井 雅人		
4. 授業形態	実習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SP
7. 講義概要	臨床心理の専門家として必要なクライアントとの援助的かかわりの基礎を実習する。「援助の枠組み」や「見立てと援助の関係」、「クライアント・家族並びにチームスタッフとの協働」、「倫理問題」などから実際の対応方法を体得する。		
8. 学習目標	本講座は4つのテーマで構成する。まず、基本的な面接の技法を押さえた上(テーマ1:1~6回)で、各論としてリラクゼーションについて学び実践できるようにする(テーマ2:7~10回)。これらの基本を踏まえた上で、クライアントの行動・認知・感情の特徴について理解を深める(テーマ3:11~20回)。このクライアントの理解を基にして、個人面接のロールプレイを行いながら、より実践的な面接ができるようする(テーマ4:21~30回)。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	3人の担当者によって、適宜レポート課題または試験を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院(11~16回の授業で使用) 【参考書】 マイクロカウンセリング 基本のかかわり技法 丸善(1~4回の授業で使用)		
11. 成績評価の方法	担当者全員による合議で評価する。 学習への意欲 30% レポート 30% 実技 40%		
12. 受講生への メッセージ	自分についてのいろいろな発見や気づきがあるので、楽しく参加してください。 今後の仕事に直結する内容を中心として学びますので、積極的な参加を望みます。		
13. オフィスアワー	大澤 木曜日 9:30~12:30 大島 火曜日 12:00~16:00【学生相談業務と兼任のため、来室前にメール等で予約を取ること 新井 水曜日 15:00~18:00		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
テーマ1	クライアントとの基本的なかかわり方を学ぶ		担当 新井 雅人
第1・2回 かかわり技法を学ぶ(I)			
【学習の目標】	カウンセラー/セラピストがクライアントにどのように映っているか、また言外にどのようなメッセージを伝えているかを常にモニタリングすることは、専門性を持った臨床心理学的面接には欠かせない条件である。ここでは、マイクロカウンセリングの“基本のかかわり技法”をとりあげ、順を追って学んでいく。誤って発してしまいやすいノンバーバルなサイン、適切な問いかけのしかた、カウンセラーの反応により話題が誘導されていることなど、クライアントと対面した際にまず発生することがらについて、受講生どうして演習を行い体験的に確認していく。		
【アサインメント】	各回でとりあげたかかわり技法を日常生活の中で試してみる(授業内の練習だけでは不足です)。		
【参考書】	Allen E.Ivy 他著、福原真知子訳『マイクロカウンセリング 基本のかかわり技法』丸善		
第3・4回 かかわり技法を学ぶ(II)			
【学習の目標】	前回に続き“基本のかかわり技法”を学び進める。ここで扱われるのはまだ介入法ではなく傾聴の技法である。カウンセラーとは異なる文化に生き、またカウンセラーが経験したことのない病的体験を語るクライアントの話をどのように聴くことができるのだろうか。ここではエンコラージュ、いいかえ、要約などについて、ロールプレイを通して学ぶ(そしてロールプレイ自体に慣れる)。また、傾聴の技法のみで面接を行う(よってクライアントを害する危険性の少ない)マイクロカウンセリングの“5段階の面接”を知っておく。		
【アサインメント】	各回でとりあげたかかわり技法を日常生活の中で試してみること。		
【参考書】	Allen E.Ivy 他著、福原真知子訳『マイクロカウンセリング 基本のかかわり技法』丸善 福島脩美『カウンセリング演習』金子書房		
第5・6回 大学附属臨床心理相談室での内部実習に向けて			
【学習の目標】	通学課程は修士1年生の終盤、通信課程は2年生の後半より、附属相談室で行われているケースのインテークへの陪席が始まる(時期についてはクライアントの都合によります)。それに備え、基礎知識の確認、陪席の心構え、面接記録の書き方などを確認する。また、附属相談室の雰囲気や設備に慣れるため、空いている相談室で短いロールプレイを行う予定である。この回はこれまでの演習のまとめの意味も含め、受講生各人の面接の長所や特徴についても話し合う。		
【アサインメント】	内部実習が始まる前でも、院生の皆さんは相談室受付に自由に入出入りできます。院生図書室をご利用の際にはいらしてください。また、さまざまな心理テストや道具も揃えてありますので、学習に活用してください。		
テーマ2	リラクゼーション技法		担当 新井 雅人
第7~10回 リラクゼーション技法を学ぶ			
【学習の目標】	心理臨床においてリラクゼーション技法の応用の幅は広い。単体で練習を重ねることが直接的・間接的に効果のある場合、系統的脱感作法など弛緩状態を利用する技法、イメージ体験への導入など。また、自律訓練法やフォーカ		

	<p>シングの兄弟分でもあるので、独学ではつかみづらい感覚を体験し、他の受講生とシェアすることは有用であろう（個人により感覚が異なるため）。</p> <p>はじめにリラクゼーションの考え方を学び、次いで“ジェイコブソンのリラクゼーション(簡略版)”を行う。これは短時間で行えるリラクゼーション法のひとつとして開発されたものであり、初学者でも取り組み易く、また弛緩の感覚を得やすい。面接での利用を想定し、まず教示による誘導で感覚をつかんだあと、個人で行ってみる。その後の展開については受講生と話して決めるが、ひとつとしては学んだばかりのリラクゼーションを利用できるイメージ体験の実習を考えている。イメージとして個人の固有の体験が得られるので、併せてその体験を正確に聴くことの難しさについても実習できる。</p> <p>【学習する上での留意点】 “経験にひらかれた”態度（理屈は置いておき、感じられるものを素直に受け取ること）で臨んで欲しい。</p> <p>【アサインメント】 リラクゼーションを夜寝る前に何度か試してみる（クライアントに勧める前に自身がよく知っておくこと）。</p> <p>【参 考 書】 門前進『入門自己催眠法—生き方をリフレッシュするために』誠信書房 門前進『イメージ自己体験法—心を味わい豊かにするために』誠信書房 佐々木雄二『自律訓練法の実践—心身の健康のために』創元社</p>
<p>テーマ 3</p>	<p>クライアントの行動・認知・感情の特徴とその理解 <span style="float: right;">担当 大澤 靖彦</span></p>
<p>第 11～16 回</p>	<p>クライアントの理解と面接の流れ</p> <p>【学習の目標】 事例を通して、クライアントの行動・認知・感情の特徴について理解し、面接をより実りのあるものにする。具体的には、テーマ 1 や臨床心理面接で学習した面接の基本的技術に加え、よりクライアントの視線でかかわられるようになることを目標とする。</p> <p>【学習の内容】 不安障害や人格障害の症例について、以下の内容を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①事例と DSM を照合する</li> <li>②クライアントになりきるにはどのようなポイントを押さえればよいか</li> <li>③問題を誘発している要因、維持している要因は何か</li> <li>④条件づけられた反応／イラショナル・ビリーフと考えられるものは何か</li> <li>⑤問題の構造はどうなっているのか</li> <li>⑥ロールプレイ</li> </ol> <p>【アサインメント】 提示した事例について、行動・認知・感情・維持要因・問題の構造から分析する。</p> <p>【教科書】 DSM-V 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院</p>
<p>第 17・18 回</p>	<p>クライアントを発達面から理解する</p> <p>【学習の目標】 不適応を起こしているクライアントの理解を発達課題の視点から理解する。</p> <p>【学習の内容】 乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達課題と諸問題について考究する。</p> <p>【アサインメント】 各発達段階の課題と問題についてのレポート（分担し、授業で発表）</p> <p>【参 考 書】 武田武『カウンセリングの進め方』誠信書房</p>
<p>第 19・20 回</p>	<p>面接の流れとケースフォーミュレーション</p> <p>【学習の目標】 面接の過程にみられるクライアントの行動や感情について理解する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①面接の流れ</li> <li>②面接のプロセスで生じる諸問題</li> <li>③ケースフォーミュレーション</li> </ol> <p>【アサインメント】 面接の段階とそこで起こる諸問題についてのレポート（分担し、授業で発表）</p>
<p>テーマ 4</p>	<p>面接のロールプレイから学ぶ <span style="float: right;">担当 大島 朗生</span></p>
<p>第 21～30 回</p>	<p>面接のロールプレイから学ぶ</p> <p>【学習の目標】 意図を持ったかかわりについて体験的に学ぶ。心理臨床のプロセスで生じていることを理解する。</p> <p>【学習の内容】 模擬臨床面接場面のロールプレイをビデオ撮りし、ビデオを再生しながら面接プロセスで何が生じているのかをディスカッションする。面接の検討にあたっては、「対人関係プロセス想起法」という手法を用いる。この手法は、適宜ビデオを止めて、援助者が具体的な援助スキルをどのような意図で用い、それを受けた被援助者はどのような体験をしたのかをそれぞれが想起する。そうして、具体的に面接場面で何が起きていたのかを確認しながら、面接の効果を検証するという方法である。面接プロセスで、具体的にどのようなことが展開しているのかを援助者自身が意識する良い練習になる。</p> <p>【アサインメント】 「テーマ 1」で学習するマイクロカウンセリングの技法について、各自で復習し理解を深めておくこと。疑問点があれば明らかにし、各技法のポイントを意識した上で講義に臨むことが望ましい。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。（講義に際して、必要な資料は用意する。）</p> <p>【学習する上での留意点】 授業外の時間を活用して、学会誌等に掲載されている事例論文を丁寧に読み込んでほしい。 事例論文を丁寧に読み解く読解力と、実際の面接場面での理解力とはパラレルな関係にあると考えるからである。</p>

1. 科目名 (単位数)	臨床心理査定演習 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP5185
2. 授業担当教員	大島 朗生		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	<p>臨床心理査定演習では、臨床心理学において、必須の知識の 1 つである心理査定技術の基礎を習得する。心理査定としては、1.発達検査、2.ビネー式知能検査、3.ウェクスラー式知能検査、4.YG 性格検査、5.エゴグラム、6.ロールシャッハテスト、7.SCT、8.バウムテスト、9.HTP、10.風景構成法 という 10 種類を取り上げる予定でいる。心理検査法の基礎的な事項 (理論や施行法) を身に付けるために演習を重視する。それぞれの検査について、1.理論的背景、2.実施方法、3.結果の整理方法、4.解釈方法、5.利用上の注意点、6.適応範囲と限界などを理解し、可能であれば実際にテスターとして施行できるようになることを目的とする。</p> <p>授業の進め方としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。</li> <li>2.心理検査の事例等に関して、グループディスカッションを行う</li> <li>3.実施した心理検査に関して、レポートを提出する</li> </ol> <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1.査定法の選び方、2.環境の整え方、3.結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって、心理査定を施行する際の基礎的な技術を習得することを目指す。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>担当になった心理検査に関しては、心理検査の手引きなどを熟読し、実際に皆の前で施行できるように準備してくること。</p> <p>代表的な心理検査について、基礎的な知識が身につけていることを確認するためのレポート課題を課す。レポート課題は 2 回程度課す予定でいる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b> 特に指定しない</p> <p><b>【参考書】</b> 上里一郎 編 2001 心理アセスメントハンドブック 第 2 版 西村書店 松原達哉 編 2013 臨床心理アセスメント 新訂版 丸善出版 松原達哉・福島脩美 編 2011 カウンセリング心理学ハンドブック (下巻) 金子書房 氏原寛・亀口憲治・馬場禮子 他 2006 心理査定実践ハンドブック 創元社</p> <p>※必要に応じて適宜資料を配布するが、参考書として挙げた書籍の中から最低 1 冊は購入し、手元に置いて、必要に応じて参照するという習慣を身に付けてもらいたい。</p> <p>※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費 (検査用紙代等) が必要になる。</p> <p>取り扱う心理検査の委細に関しては、開講時に改めて説明する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度・授業への参加度 70%</p> <p>心理査定に関するレポート 30%</p> <p>特に授業態度・授業への参加度を重視する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>心理検査に関する知識があるということは、心理臨床家にとって極めて重要な素養だと考えている。実際のところ、心理検査は「習うより慣れる」という要素が強い。初心者は、まず「手引きに書かれたように施行できること (真似ること)」が重要な学びになると考える。手引きや解説書を熟読して、積極的に学んでほしい。心理検査の実習を通じて、自分自身を再発見することを期待している。</p>		
13. オフィスアワー	学生相談業務と兼任のため、授業開講時に周知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	臨床心理査定概論		
	<p><b>【学習の目標】</b> 臨床心理査定について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 臨床心理査定が、心理臨床活動において必要な理由を学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> アセスメント、心理検査、心理療法</p> <p><b>【学習の課題】</b> 心理査定の特長と限界について説明できるようになる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 『カウンセリング心理学ハンドブック (下巻)』 pp.64-67</p>		
2. テーマ	臨床心理査定の種類		
	<p><b>【学習の目標】</b> 臨床心理査定で取り扱う心理検査について概観する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 主要な心理検査について概観する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 心理検査法、観察法、面接法</p> <p><b>【学習の課題】</b> 主要な心理検査について説明できるようになる。</p> <p><b>【参考文献】</b> 『カウンセリング心理学ハンドブック (下巻)』 pp.68-71</p>		
3～4. テーマ	心理検査各論 I 発達検査		
	<p><b>【学習の目標】</b> 発達検査について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 発達検査を体験する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 遠城式発達検査、津守式乳幼児精神発達診断法、K 式発達検査</p> <p><b>【学習の課題】</b> 発達検査の施行方法や採点の手順について理解する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 『カウンセリング心理学ハンドブック (下巻)』 pp.71-75</p>		

5～6.テーマ	心理検査各論Ⅱ ビネー式知能検査
【学習の目標】	ビネー式知能検査について理解する。
【学習の内容】	知能検査の歴史や開発の経緯、対象の違い等を理解する。
【キーワード】	知能の定義、個別式知能検査、IQ
【学習の課題】	ビネー式知能検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.81-83
7～8.テーマ	心理検査各論Ⅲ ウェクスラー式知能検査
【学習の目標】	ウェクスラー式知能検査について理解する。
【学習の内容】	ウェクスラー式知能検査を体験する。
【キーワード】	ディスクレパンシー、偏差IQ、下位検査
【学習の課題】	ウェクスラー式知能検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.83-87
9～10.テーマ	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（YG 性格検査）
【学習の目標】	YG 性格検査について理解する。
【学習の内容】	YG 性格検査を体験する。
【キーワード】	性格の測定、質問紙法、強制法
【学習の課題】	YG 性格検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.97-102
11～12.テーマ	心理検査各論Ⅴ 質問紙法（新版 TEGⅡ）
【学習の目標】	新版 TEGⅡ について理解する。
【学習の内容】	新版 TEGⅡ を体験する。
【キーワード】	交流分析、自我状態、標準化
【学習の課題】	新版 TEGⅡ の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.125-128
13～22.テーマ	心理検査各論Ⅵ 投影法（ロールシャッハテスト）
【学習の目標】	ロールシャッハテストについて理解する。
【学習の内容】	ロールシャッハテストを体験する。
【キーワード】	スコアリングシステム、片口式、エクスター法
【学習の課題】	ロールシャッハテストの施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.107-110
23～24.テーマ	心理検査各論Ⅶ 投影法（SCT）
【学習の目標】	SCT について理解する。
【学習の内容】	SCT を体験する。
【キーワード】	投影水準、テストバッテリー、テストフィードバック
【学習の課題】	SCT の施行手続き等について理解する。
【参考文献】	『心理査定実践ハンドブック』 pp.231-235
25～26.テーマ	心理検査各論Ⅷ 描画法（バウムテスト）
【学習の目標】	バウムテストについて理解する。
【学習の内容】	バウムテストを体験する。
【キーワード】	描画法、バウムテストの解釈、自己像
【学習の課題】	バウムテストの施行手続き等について理解する。
【参考文献】	『心理査定実践ハンドブック』 pp.302-306
27～28.テーマ	心理検査各論Ⅸ 描画法（HTP）
【学習の目標】	HTP について理解する。
【学習の内容】	統合的 HTP 法を体験する。
【キーワード】	描画法、HTP 法、統合的 HTP 法
【学習の課題】	統合的 HTP 法の施行手続き等について理解する。
【参考文献】	『心理査定実践ハンドブック』 pp.312-316
29～30.テーマ	心理検査各論Ⅹ 描画法（風景構成法）
【学習の目標】	風景構成法について理解する。
【学習の内容】	風景構成法を体験する。
【キーワード】	描画法、枠付け法、箱庭療法
【学習の課題】	風景構成法の施行手続き等について理解する。
【参考文献】	『心理査定実践ハンドブック』 pp.317-325



1. 科目名 (単位数)	臨床心理実習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6186
2. 授業担当教員	鶴 光代・松坂 秀雄・齋藤 瞳・新井 雅人		
4. 授業形態	実習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	<p>大学附属臨床心理相談室における学内実習を通して、インテーク面接陪席、心理面接陪席、ケース担当による実習をおこなう。また、医療機関における学外実習を通して、臨床心理活動の実際を学ぶ。</p> <p>各学生は、大学附属臨床心理相談室にてスーパーヴィジョンを受けながらケースを担当する。また、インテーク面接陪席や心理面接陪席の記録と報告、担当ケースの記録、ケースカンファレンスにおける発表を行う。学外実習においては、医療・保健領域や福祉領域等における実習施設にて、心理臨床の技能や態度、倫理を学ぶ。事前指導としてのガイダンス、学外実習施設における見学、陪席、一部参加、補助的担当、実習報告書提出等をおこなう。</p>		
8. 学習目標	<p>心理面接の実践を通して、実際場面で起こる心理援助のさまざまな側面について対処力を身につける。</p> <p>学内実習では、スーパーヴィジョンを受けながらケースを担当し、ケース報告をまとめ、ケースカンファレンスで発表することにより、臨床心理学的援助における実践能力の向上を図る。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ケースを担当する前後に、ケースに関連した文献を検索し、読んでおくこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書】 特になし</p>		
11. 成績評価の方法	学外実習報告等 30%、ケース担当の状況 40%、授業への参加態度 30%		
12. 受講生への メッセージ	<p>1. 実際のケースに触れる中で実践的な能力を身につけることを目指す。実習においては実際のクライアントを担当し、援助を行うこととなる。気を引き締めて真摯に取り組むことが求められる。</p> <p>2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</p>		
13. オフィスアワー	各教員から周知する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	春期授業のオリエンテーション		
2～14. テーマ 【学習の目標】 【学習の内容】	<p>大学附属臨床心理相談室において、インテーク面接の陪席を行い、陪席の記録をまとめて指導を受け、インテークカンファレンスで報告するという一連の活動をおこなう。</p> <p>心理面接の陪席に関しても、同様の活動をする。</p> <p>実際にケースを担当し、その記録をまとめ、スーパーヴィジョンを受け、ケースカンファレンスで報告し、検討するという一連の活動をおこなう。</p> <p>学外実習にて、心理臨床活動のほか、組織での働き方、仕事を行う上での倫理等に触れ、体得していく。</p> <p>心理臨床における倫理について、具体的に検討し、そのセンスを二につける。</p>		
15. テーマ	春期授業のふりかえりとまとめ		
16. テーマ	秋期授業のオリエンテーション		
17～29. テーマ 【学習の目標】 【学習の内容】	<p>ケースを単独で担当し、スーパーヴィジョンを受けながら、見立て、クライアントとの関係性構築、クライアント理解、心理的援助の実践、援助プロセスの把握、援助結果を検討し、心理臨床力を身につけていく。</p> <p>大学院修了に伴う担当ケースの引継について検討し、スーパーヴィジョンを受けながら、引き継いでいく。</p>		
30. テーマ	秋期授業のふりかえりとまとめ		

1. 科目名 (単位数)	臨床心理面接特論 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP5184
2. 授業担当教員	鶴 光代		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR (スクーリング15 回)
7. 講義概要	臨床心理面接の理論と方法についての論文や事例研究論文を通して、面接の方法とプロセスについて講義する。また、臨床心理面接の実際を、ロールプレイングや体験的学習を通して指導する。クライアント中心療法等における洞察原理と臨床動作法における体験原理について等を論じ、受講者全員と討議し、臨床心理面接についての実感的学習を促す。		
8. 学習目標	臨床心理面接における理論と方法について、文献や討議を通して学ぶとともに、ロールプレイングにより臨床心理面接の実際を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	各回のキーワードについて下調べをしてくること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考文献】 C.R.ロジャース著 末武泰弘他訳『カウンセリングと心理療法』岩崎学術出版社、2005 年。 成瀬悟策「動作のこころ」誠信書房、2007 年。 成瀬悟策編『動作のこころ 臨床編』誠信書房、2007 年。 鶴光代『臨床動作法への招待』金剛出版、2007 年。		
11. 成績評価の方法	授業への参加度	50%	
	レポート	50%	
12. 受講生への メッセージ	臨床心理面接に関する事例の実感的読み取りやロールプレイング等を通して心理臨床のセンスを養ってください。		
13. オフィスアワー	木曜日 12:50~14:50		
15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1~2. テーマ	受理面接、初回面接の実際		
	【学習の目標】 心理面接における受理面接、初回面接の意味と留意点について考える。 【学習の内容】 受理面接、初回面接の方法、留意点について学ぶ。 【キーワード】 受理面接、初回面接、来談者、面接者 【学習の課題】 来談者の立場および面接者の立場から受理面接、初回面接の意味と留意点を理解する。		
3~4. テーマ	ロジャースの紹介事例記録に見る面接の進め方		
	【学習の目標】 臨床心理面接とは何かについて、ロジャースの紹介事例記録から学ぶ。 【学習の内容】 クライアント中心療法の面接記録を通して、臨床心理面接の特徴を理解する。 【キーワード】 ロジャース、クライアント中心療法、受容と共感 【学習の課題】 臨床心理面接の特徴とその専門性について学習する。 【参考文献】 C.R.ロジャース著 末武泰弘他訳 (2005)「カウンセリングと心理療法」岩崎学術出版社		
5~6. テーマ	臨床動作法にみる心理面接の実際		
	【学習の目標】 言語面接を主とする方法と、動作面接を主とする方法の違いについて学ぶ。 【学習の内容】 クライアントの問題を動作不調からみる。言語的・非言語的コミュニケーション、面接の枠組みを学ぶ。 【キーワード】 動作と言語、言語的・非言語的理解、面接の枠組み 【学習の課題】 面接を進めていく際に面接者が注意すべき点について考える。		
7~8. テーマ	臨床心理面接の展開について		
	【学習の目標】 臨床心理面接は、どのように展開していくかについて、事例記録から考える。 【学習の内容】 クライアントの問題と、援助の仕方について学ぶ。 【キーワード】 事例アセスメント、クライアントの問題 【学習の課題】 クライアント理解と面接を進めていく際の留意点について考える。		
9~10. テーマ	面接の流れを読み取る		
	【学習の目標】 面接が進んでいく際の、あるテーマを持った流れを読み取り、その意味するところを考える。 【学習の内容】 面接時の内容の流れを把握し、その方法について学ぶ。 【キーワード】 面接の流れ、来談者の意識的・無意識的語り 【学習の課題】 面接内容の有意義な展開を援助するとはどういうことかを考える。		
11~12. テーマ	クライアントの有意義な変化と終結について		
	【学習の目標】 心理面接におけるクライアントの変化・成長について考える。 【学習の内容】 クライアントの変化とその意義に関する検討と終結について学ぶ。 【キーワード】 クライアントの変化、終結		

	【学習の課題】 中断と終結の違いについて考える。
13～15.テーマ	精神分析理論による面接
	【学習の目標】 精神分析理論に沿った面接過程からその特徴について考える。 【学習の内容】 精神分析の事例を基にその面接方法を学ぶ。 【キーワード】 無意識世界、抵抗、転移、洞察 【学習の課題】 精神分析による面接の特徴について理解する。
16～18.テーマ	行動理論による面接
	【学習の目標】 行動療法と認知行動療法の特徴について考える。 【学習の内容】 行動理論による事例を基にその面接方法を学ぶ。 【キーワード】 学習理論、行動療法、認知行動療法 【学習の課題】 行動理論による面接の特徴について理解する。
19～20.テーマ	臨床催眠法による面接
	【学習の目標】 臨床催眠法の特徴を活かした面接について考える。 【学習の内容】 臨床催眠法による事例を基にその面接方法を学ぶ。 【キーワード】 メスメル、催眠イメージ法、催眠誘導療法 【学習の課題】 臨床催眠法についてその特徴を理解する。
21～22.テーマ	臨床動作法による面接（理論と技法）
	【学習の目標】 臨床動作法の理論と技法を通して臨床心理面接の意義について学ぶ。 【学習の内容】 臨床動作法における動作の心理臨床的意義を理解する。 【キーワード】 動作、動作課題、体験治療論 【学習の課題】 臨床動作法の理論を通して臨床心理面接の特徴を理解する。 【参考文献】 鶴光代（2007）「臨床動作法への招待」金剛出版
23～24.テーマ	臨床動作法による面接（援助の仕方）
	【学習の目標】 臨床動作法の援助の仕方を通して臨床心理面接の要点を実際的に学ぶ。 【学習の内容】 臨床動作法による、クライアント理解と援助を体得する。 【キーワード】 動作課題、リラクゼーション動作課題、自己コントロール動作課題 【学習の課題】 臨床動作法の技法を通して臨床心理面接の要点を身につける。 【参考文献】 成瀬悟策編（2007）「動作のこころ 臨床編」誠信書房
25～28.テーマ	心理面接の体験的学習
	【学習の目標】 臨床心理面接の実際を、ロールプレイングを通して体験的に学習する。 【学習の内容】 クライアントロール役とセラピストロールを通して、臨床心理面接の実際を学ぶ。 【キーワード】 相手理解、受容、共感、応答 【学習の課題】 臨床心理面接のロールプレイングを通して、相手理解、受容・共感、応答等、心理援助の要点を身につける。
29～30.テーマ	全体のまとめ
	【学習の目標】 臨床心理面接を総体的に理解し、今後の心理臨床活動に活かすことを目標とする。 【学習の内容】 これまで学んだ臨床心理面接の中で体得できたことについて討議し、その学びを深める。 【学習の課題】 これまでの学びを前提として、これからの学びの方向を明らかにする。

1. 科目名 (単位数)	家族心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5264
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義 (発表とディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>フロイトは乳幼児期という (何も分からないような) 時期の育ちこそ人格形成の基盤となっているという発見をしたとすることができよう。後々の数々の心理療法の発展は、その対処法にバリエーションができたと言ってもよいと思う。</p> <p>家族というものは、このように我々人間には不可欠なものであり、十分に研究対象になるものであり、かつ治療にも家族療法という道が生じてきている。</p> <p>ここでは、家族の基本的な問題を概観していく。</p>		
8. 学習目標	家族にまつわる様々な問題や課題を心理学的に考察できる力を養う。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポートテーマは以下のようである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族システム理論について述べよ。</li> <li>2. 乳幼児を育てる家族のストレスとその対処法について述べよ。</li> <li>3. 家族の中のコミュニケーション病理について述べよ。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 中釜洋子他著『家族心理学』有斐閣ブックス</p> <p>【参考文献】 岡堂哲雄編『家族心理学入門』培風館</p> <p>柏木恵子他著『家族心理学への招待』ミネルヴァ書房</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 30%</li> <li>・レポート 35%</li> <li>・テーマ毎の理解度 35%</li> </ul> <p>*出席が4分の3を満たしてはじめて評価の対象となる。(レポートのみ提出しただけでは、その内容にかかわらず評価対象とならない。注意)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	学部で家族心理学を学んでいることが望ましいが、授業では基本的なことから始めていくから興味と関心のある学生なら受講が可能である。また、教科書もわかりやすいものを採用しているので学びやすい。しかし、発表やレポートの記述の際には、自ら関係のある論文を探して欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	第Ⅰ部 家族とは何か 家族システム理論		
	<p>【学習の目標】 家族とは何か、その意味の変遷を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族心理学の誕生並びに家族システム理論を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 家族の定義、家族心理学の誕生、システム理論</p> <p>【学習の課題】 家族から個人の時代をどう考えるか。</p> <p>【参考文献】 平木典子 (1998) 「家族との心理臨床——初心者のために」 垣内出版</p>		
2. テーマ	家族を理解するための鍵概念		
	<p>【学習の目標】 家族理解のための3つの属性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族の構造・発達を考察する。</p> <p>【キーワード】 家族の構造・機能・発達、ジェノグラム、エコマップ</p> <p>【学習の課題】 家族の多様化、並びに少数派 (同性愛家族) への配慮</p> <p>【参考文献】 佐藤悦子 (1995) 「夫婦療法——二者関係の心理と病理」 金剛出版</p>		
3. テーマ	第Ⅱ部 家族の発達 独身の若い成人期		
	<p>【学習の目標】 家族ライフサイクルから見た独身の若い成人期の重要性を理解する。</p> <p>【学習の内容】 親密な人間関係の確立について考察する。</p> <p>【キーワード】 職業選択、心理的自立、配偶者選択、親密性</p> <p>【学習の課題】 成人前期の過ごし方のポイント</p> <p>【参考文献】 野末武義 (2008) 「夫婦関係におけるアサーションの意味」 至文堂</p>		
4. テーマ	結婚による家族の成立期		
	<p>【学習の目標】 現代の結婚事情と若者層の離婚の動向を理解する。</p> <p>【学習の内容】 新婚期の発達課題を考察する。</p> <p>【キーワード】 夫婦関係の特質、相互信頼感、カップルダンス</p> <p>【学習の課題】 垂直的関係と水平的関係のバランス</p> <p>【参考文献】 平木典子 (1991) 「新婚時代のカウンセリング」 現代のエスプリ別冊</p>		
5. テーマ	乳幼児を育てる段階		
	<p>【学習の目標】 子どもの誕生に伴うストレスを理解する。</p> <p>【学習の内容】 妊娠、出産・子育てによる夫婦関係の変化を子どもの発達促進させる機能面から考察する。</p> <p>【キーワード】 夫婦が直面する危機、満足度の変化、子育てのあり方</p> <p>【学習の課題】 子育て支援のポイント</p> <p>【参考文献】 柏木恵子 他 (1994) 「親になることによる人格発達——障害発達の見地から親を研究する試み」</p>		

6 . テーマ	小学生の子どもとその家族
<p>【学習の目標】現代の小学生事情を理解する。</p> <p>【学習の内容】子どもの習い事や塾通いを考察する。</p> <p>【キーワード】学校という新しい環境、家族内の三角関係、仲間作り</p> <p>【学習の課題】スクールカウンセラーという立場からの家族支援</p> <p>【参考文献】近藤邦夫（2000）子どもの成長・変容をうながす心理教育」新曜社</p>	
7 . テーマ	若者世代とその家族
<p>【学習の目標】思春期と青年期の子どもがいる家族の特徴を理解する。</p> <p>【学習の内容】親達の思秋期を考察する。</p> <p>【キーワード】移行期の家族システム、自我同一性の確立、中年期の危機</p> <p>【学習の課題】子どもの心理的・経済的に独り立ちに伴う親側の課題</p> <p>【参考文献】斉藤 環（1998）「社会的ひきこもり——終わらない思春期」PHP 研究所</p>	
8 . テーマ	老年期の家族
<p>【学習の目標】高齢化の現状と家族との関係を理解する。</p> <p>【学習の内容】家族による高齢者介護の問題点を考察する</p> <p>【キーワード】人生の統合、高齢者虐待、夫婦関係の再構築</p> <p>【学習の課題】家族介護者への支援の方法</p> <p>【参考文献】竹中星郎（2000）「高齢者の孤独と豊かさ」日本放送出版協会</p>	
9 . テーマ	第三部 家族と臨床的諸問題 家族への臨床的アプローチ
<p>【学習の目標】家族療法を理解する</p> <p>【学習の内容】他の臨床的アプローチと家族療法との違いを考察する。</p> <p>【キーワード】内面の整理、関係性の調整、リフレーミング</p> <p>【学習の課題】関係療法という視点からみえてくるもの</p> <p>【参考文献】下坂幸三編（2001）「心理臨床としての家族援助」金剛出版</p>	
10 . テーマ	夫婦関係の危機と援助
<p>【学習の目標】夫婦関係の危機を理解する。</p> <p>【学習の内容】カップルセラピーを考察する。</p> <p>【キーワード】葛藤、離婚、再婚</p> <p>【学習の課題】夫婦という人間関係の再構築のためのセラピーのあり方</p> <p>【参考文献】日本家族心理学会編（2006）「夫婦・カップル関係——新しい家族のかたちを考える」（家族心理学年報 24）金子書房</p>	
11 . テーマ	子育てをめぐる問題と援助
<p>【学習の目標】育てにくい子ども達を理解する</p> <p>【学習の内容】育児不安、児童虐待の現実とその支援法を考察する</p> <p>【キーワード】問題を抱える子ども、虐待の背景、家族支援</p> <p>【学習の課題】情緒障害児短期治療施設での援助活動</p> <p>【参考文献】石川実編（1997）「現代家族の社会学——脱制度化時代のファミリー・スタディーズ」有斐閣</p>	
12 . テーマ	家族が経験するストレスと援助
<p>【学習の目標】災害・喪失・病気など家族が遭遇するストレスを理解する。</p> <p>【学習の内容】喪失の乗り越え方を考察する</p> <p>【キーワード】連続性、災害、喪失、</p> <p>【学習の課題】家族レジリエンスとコネクテッドネス</p> <p>【参考文献】清水将之（2006）「災害の心理——隣に待ち構えている災害とあなたはどうか付き合うか」創元社</p>	
13 . テーマ	家族の中のコミュニケーション
<p>【学習の目標】家族におけるコミュニケーションの役割を理解する</p> <p>【学習の内容】コミュニケーションの意味を考察する</p> <p>【キーワード】ダブルバインド、DV、解決志向アプローチ</p> <p>【学習の課題】アサーションという観点</p> <p>【参考文献】長谷川啓三（1987）「家族内パラドックス」彩古書房</p>	
14 . テーマ	女性と家族
<p>【学習の目標】家族における女性の役割を理解する</p> <p>【学習の内容】誰が女性を援助するか考察する</p> <p>【キーワード】役割期待、三歳児神話、ラジャー・システム</p> <p>【学習の課題】多重役割葛藤の問い直し考える</p> <p>【参考文献】園田雅代他編（2007）「女性の発達臨床心理学」金剛出版</p>	
15 . テーマ	男性と家族
<p>【学習の目標】家族における男性の役割を理解する</p> <p>【学習の内容】父親並びに夫の理解とその援助法を考察する</p> <p>【キーワード】仕事、男らしさ、企業社会</p> <p>【学習の課題】ジェンダーという観点</p> <p>【参考文献】柏木恵子他編（2008）「日本の男性心理学——もう一つのジェンダー問題」有斐閣</p>	

1. 科目名 (単位数)	学校臨床心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6265
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	学校教育を巡る状況はさまざまな問題を含んでいる。こども達が学び育つ過程で生起する問題は、私たち大人に何を問いかけているのか、そして、臨床心理学が学校という場でどのような役割を果たし得るのか考究する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場に存在する諸問題について、原因とその対処法を指摘できる。</li> <li>2. 世界経済のグローバル化に伴う新しい教育のあり方を確認し、子どもの健全な心の発達に関し考察できる。学校環境における子どもの人間関係と自尊感情要因について理解できる。</li> <li>3. 子どものウェルビーイングを考え、地域・学校・家庭における理想的な学校臨床の姿を考察し、教育現場で実践できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14.学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>川島一夫・勝倉孝治 「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004 年          吉田武男・中井考章著 「カウンセラーは学校を救えるか」昭和堂、2003 年          斎藤久子(監) 「学習障害」ブレーン出版、2000 年          内田照彦・増田公男編著 「要説 発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000 年          村山正治編集「現代のエスプリ」別冊「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」至文堂、2000 年          山下英三郎著 「エコロジカル子ども論 教育から共生へ」学苑社 1999 年          北尾倫彦他 5 名共著『学校教育の心理学 明日から教壇に立つ人のために』北大路書房、1999 年          Cross, Jerry &amp; Cross, P.J Knowing Yourself Inside Out. Crystal Publications, 1998          岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ別冊」『親子の心理とウェルネス：21 世紀の幸福な親子関係を目指して』至文堂、1994 年          山本和郎 「コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実践」東京大学出版会、1986 年          岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ：家族療法と親教育」215 号、至文堂、1985 年          Spiegelberg, Herbert Phenomenology in Psychology and Psychiatry Northwestern University Press, 1972.</p>		
11. 成績評価の方法	(評価基準) 報告レジュメ(15 課題) 100% (評価点) A: 100~90 B+: 89~80 B: 79~70 C: 69~60 F: 59 点以下		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 各課題に対し臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の研究状況を把握していることは必要不可欠です。したがって、文献検索作業を徹底してください。</li> <li>* 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。</li> <li>* 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。</li> </ul>		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	教育臨床心理学とは何か		
【学習の目標】	教育臨床心理学とは何か。なぜ学校臨床心理学が学校という環境に必要となったのか、その経路を理解する。		
【学習の内容】	海外のスクールカウンセリングと教育臨床心理学の状況を比較し、日本の学校におけるカウンセリングの現状を把握する。		
【キーワード】	教育臨床心理学・スクールカウンセラー		
【学習の課題】	日本の教育現場の現状を踏まえて、教育臨床心理学の問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。		
【参考文献】	<p>横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          石隈利紀 学校における心理教育的サービスの現状と展望「学校臨床そして生きる場への援助」沢崎俊之他(篇)23-56 日本評論社、2002 年          河合隼雄 「臨床教育学入門」岩波書店 1999 年          村山正治・山本和郎 「スクールカウンセラー」ミネルヴァ書房、1995 年</p>		
【学習する上での留意点】	報告レジュメ (2 ページ) 作成においては、表題をつけて、どの観点から討論をしているのかが分かるように配慮してください。なお、引用文献は、少なくとも 3 つ、そのうち一つは、研究論文であること。研究論文は、コピーしたものを添付してください。		
2. テーマ	学校臨床心理学の可能性		
【学習の目標】	学校という生活環境を理解し、学校における心理教育的援助サービスの在り方を解明する手がかりを得る。		
【学習の内容】	学校臨床心理学と学校心理学の合流を目指す、心理教育的援助サービスの現状を把握する。		
【キーワード】	学校臨床心理学・学校心理学・学校教育・心理教育的援助サービス		

<p><b>【学習の課題】</b> 心理教育的援助サービスの具体例を先行研究より調査し、その結果から考えられる今後の方向性を指摘しなさい。</p> <p><b>【参考文献】</b>          沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002 年          馬場謙一 「学校臨床心理学」財団法人放送大学教育振興会 22-31、2002 年          高澤健司 「学校心理学に基づく児童生徒の援助」発達研究会、2002 年          石隈利紀 「学校心理学に基づく学校カウンセリングとは」『カウンセリング研究』No.29,226-239, 1996 年.          村山正治編集 「現代のエスプリ」別冊「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」至文堂 2000 年          保阪 亨 「学校を欠席する子どもたち」東京大学出版会、2000 年          森田洋司 「不登校」現象の社会学 学文社、1991 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>          報告レジュメ（小論文）の書き方は上記(課題 1)の通りですが、課題 2 からは各課題に関して教科書を読んだ上で、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する方法論・結果・考察から比較検討し、レポート内で考察してください。</p>	
3 . テ ー マ	教育現場の現実：攻撃性とその対応
<p><b>【学習の目標】</b> 学校教育の実状を把握する。その一環として、子どもの攻撃性への対応を理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 学習環境における子どもの望ましい発達について考察し、学習の場における諸問題に関し、その原因と対処法を考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 人間理解・攻撃性・危機感</p> <p><b>【学習の課題】</b> 子どもの攻撃性とその対応に関し、効果的な対応方法について近年の先行研究結果から指摘しなさい。</p> <p><b>【参考文献】</b>          横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          岡本淳子 2001 「学校危機に取り組むスクールカウンセラー」 亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407 号、40-51 至文堂          今泉博 1999 「崩壊クラスの再建」 学陽書房</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 課題 1・2 を参照</p>	
4 . テ ー マ	教育現場の現実：いじめ・いじめられ、暴力問題
<p><b>【学習の目標】</b> 教育現場の現実を直視する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 学習環境における問題の一つとして、いじめ・いじめられることによる子ども達の暴力問題を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> いじめ・いじめられ・暴力問題・ストレス障害・スクールソーシャルワーカー</p> <p><b>【学習の課題】</b> 学習環境における子ども達の諸問題は彼らの学習意欲を減退させる原因ともなる。従って、学校臨床家にとって、問題対応のあり方は重要な問題である。最近の実証研究を調査し、まとめなさい。</p> <p><b>【参考文献】</b>          横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002 年          河合隼雄 いじめと暴力 臨床教育学入門 170-180 岩波書店、1995 年          福田博行 いじめ問題に取り組む教師の実践的展開 亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407 号、63-72 至文堂、2001 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 課題 1・2 を参照</p>	
5 . テ ー マ	教育現場の現実：見え隠れする子どもの虐待
<p><b>【学習の目標】</b> 教育現場の現実を直視する</p> <p><b>【学習の内容】</b> 虐待問題における問題意識のルーツの解明をはかる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 児童虐待・身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・ネグレクト・登校拒否・家庭内暴力</p> <p><b>【学習の課題】</b> 近年増加する虐待について、この問題解決にあたっての日本の現状を調査しなさい。</p> <p><b>【参考文献】</b>          横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002 年          三沢直子 「児童虐待問題を抱えた学校への心理的支援」亀口憲治(篇) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407 号、82-91 至文堂、2001 年          津崎哲郎 指導相談所の今 発達 No.98,Vol.25, pp.28-34、ミネルヴァ書房、2004 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 課題 1・2 を参照</p>	
6 . テ ー マ	教育現場の現実：教師の苦しみ、癒しを、求める声
<p><b>【学習の目標】</b> 教育現場の現実を直視する</p> <p><b>【学習の内容】</b> 教師の苦しみについて理解を深め、その癒し方、対応について考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 癒し・ストレス・燃え尽き症候群・ストレスマネジメント</p> <p><b>【学習の課題】</b> 近年教師の質の低下を指摘する保護者の声を良く耳にする。しかし、日本の社会は着実に複雑化し、学校環境もまた同様に変容してきている。その様な中、学校に対する保護者の期待は多大であり、教師のストレスに関する研究は重要である。問題を設定し、先行研究結果から自己の問題を分析しなさい。</p> <p><b>【参考文献】</b>          落合美貴子「教師バーンアウト研究の展望」教育心理学研究、No.51(3), pp.351-364、2003 年          横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          河野友信・田中正敏 「ストレスと科学と健康」改訂版 朝倉書店、1998 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 課題 1・2 を参照</p>	
7 . テ ー マ	まとめ（1）
<p><b>【学習の目標】</b> 前半の講義内容から、臨床心理学・社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 各自の問題意識に従って、討論していく。</p> <p><b>【学習の課題】</b> 近年の学校が直面する問題に関して、先行研究から自己の見解を確認する。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 各自の問題意識に従ってテーマは自由に設定し、文献により分析・考察しておく。</p>	
8 . テ ー マ	学校という場でできること
<p><b>【学習の目標】</b> 離婚がもたらす家庭の危機について理解する。また、入所施設における学校教育との協働の試みを理解する。</p>	

	<p>【学習の内容】 子どもの危機を乗り越える為に学校臨床心理士としてできる対応・支援について近年の傾向を把握し、問題点を考察しなさい。</p> <p>【キーワード】 母子家庭・父子家庭・一人親家族・離婚家庭・情緒障害児・グループプレクレーション・キッズスクールプログラム・危機介入・教育コミュニティ・入所治療施設</p> <p>【学習の課題】 子どもの心理的危機を乗り越える為に、学校においてどのような対応・支援が行われているか、先行研究をもとに最近の傾向をまとめなさい。</p> <p>【参考文献】 沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年 岡堂哲雄編集 「現代のエスプリ：家族療法と親教育」215号、至文堂、1985年 堀田香織 「学校という場でできること」「学校臨床そして生きる場への援助」沢崎俊之他(編) 141-158 日本評論社、2002年 内田江里・遊佐安一郎 学校臨床そして生きる場への援助 亀口憲治(編) 現代のエスプリ：学校心理臨床と家族支援 407号、pp.151-160 至文堂、2001年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>
9 . テー マ	思春期・青年期へのアプローチ：自己の解体と再編成
	<p>【学習の目標】 地域精神保健福祉ネットワークづくりを理解する。</p> <p>【学習の内容】 地域における障害を持つ子ども達の精神保健の在り方を考える。更に、福祉支援ネットワークづくりを考える。</p> <p>【キーワード】 精神保健福祉・ネットワーク・就労支援</p> <p>【学習の課題】 地域精神保健福祉ネットワークづくり実践状況を把握し、臨床心理士としてコミュニティへのかかわり方をどうすべきか述べなさい。</p> <p>【参考文献】 門田光司 「学校ソーシャルワーク」中央法規、2002年 沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>
10 . テー マ	思春期・青年期へのアプローチ：「悪」的なるもの、秘密の共有
	<p>【学習の目標】 思春期・青年期の主たる概念を理解し、アプローチの在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 思春期・青年期の主たる問題を理解し、彼らの自我統合へ向けてのアプローチの在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 思春期・青年期・自我統合（自己の解体と再編成）・スチューデントアパシー・自殺・登校拒否</p> <p>【学習の課題】 思春期・青年期における子供たちの問題において、特に彼らのウェルビーイングを目指しどのような対応がなされているか、実証研究の結果をもとに今後の研究のあり方を述べなさい。</p> <p>【参考文献】 溝上慎一「焦点モデルの教育・臨床：実践への適用と課題」発達、No.98,Vol.25,pp.83-85,ミネルヴァ書房,2004年 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年 平石賢二・杉村和美「中学生の役割緊張に関する研究：コンピテンス及びストレス反応との関連から」青年心理学研究、8号、pp.27-40、1996年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>
11 . テー マ	思春期・青年期へのアプローチ：聴きとられること、語るということ
	<p>【学習の目標】 教育コミュニティにおける援助活動の在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルを考察する。</p> <p>【キーワード】 教育コミュニティ・学生相談・サポート</p> <p>【学習の課題】 教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイルに関する研究を調査し、まとめなさい。</p> <p>【参考文献】 川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年 沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002年 斎藤憲司 「ひととあうことの専門性」垣内出版、2002年 斎藤憲司 「教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイル：学生相談の現場から」沢崎俊之他(編) 「学校臨床そして生きる場への援助」pp.87-112、日本評論社、2002年 内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000年 藤原勝紀 「学生相談の大学における位置と役割：これからの学生相談を求めて」河合隼雄、藤原勝紀(緑)「学校相談と心理臨床：心理臨床の実際」pp.11-12、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>
12 . テー マ	スクールカウンセリングを考える
	<p>【学習の目標】 21世紀の日本の現状に伴うスクールカウンセリングの在り方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 スクールカウンセリングの役割、援助活動について考察する。</p> <p>【キーワード】 スクールカウンセリング・スクールカウンセラー・臨床心理士・コンサルテーション</p> <p>【学習の課題】 スクールカウンセリングの役割、援助活動に関する研究を調査し、今後の役割の在り方を討論しなさい。</p> <p>【参考文献】 川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年 吉田武男・中井考章著 「カウンセラーは学校を救えるか」昭和堂、2003年 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年 内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題1・2を参照</p>
13 . テー マ	スクールカウンセリングの実際
	<p>【学習の目標】 スクールカウンセリングの実際を理解する。</p> <p>【学習の内容】 スクールカウンセリングの実際として、専門職としての倫理観、予防的対応としての教育等について考える。</p> <p>【キーワード】 人間関係・プライバシー・コンサルテーション・スーパーバイザー</p> <p>【学習の課題】 現状を踏まえて、スクールカウンセリングを実施していく上での問題点を把握し、その改善に関する先行研究及び実践活動の結果から見られる要因を指摘しなさい。</p> <p>【参考文献】 川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004年 横湯園子 「教育臨床心理学」東京大学出版、2002年</p>



<p>内田照彦・増田公男編著 「発達・学習・教育臨床の心理学」北大路書房、2000 年          黒澤幸子 「スクールカウンセリング 5 本柱」村山正治（編）「臨床心理士によるスクールカウンセラー：実際と展望」『現代のエスプリ別冊』pp.89-99、至文堂、2000 年          伊藤美奈子「学校側から見た学校臨床心理士（スクールカウンセラー）活動の評価：前項アンケート調査の結果報告」臨床心理士報、No.11(2), pp.21-42、2000 年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>	
14. テーマ	<p>生きている場への援助：家族臨床</p> <p>【学習の目標】 家族援助の重要性を理解する。          【学習の内容】 生きている場への援助として、家族援助の在り方を考察する。          【キーワード】 家族臨床・セラピストチーム・ジョイニング（参入）・システムアプローチ・人権尊重          【学習の課題】 学校臨床心理学においては、子どもと家族・家庭を切り離して対応することはできない。近年の家族臨床に関する研究の傾向を把握し、家族への支援の在り方に関して、先行研究結果をもとに指摘しなさい。          【参考文献】 岡田弘「保護者とのつき合いはなぜ必要か」 国分康孝他(監) 「保護者との対応」図書文化社、2003 年          横湯園子「教育臨床心理学」東京大学出版、2002 年          内田江里・遊佐安一郎 「学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携」『現代のエスプリ』407 号、pp.151 - 160、至文堂、2001 年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>
15. テーマ	<p>教師の実践に学ぶ</p> <p>【学習の目標】 教師の実践を理解する。          【学習の内容】 本科目のまとめとして、教師と心理臨床家の協働の在り方を考察する。          【キーワード】 ライフコース・協働          【学習の課題】 教師と心理臨床家の協働の在り方について、現状を踏まえて問題点を指摘し、改善すべき点をまとめなさい。          【参考文献】 川島一夫・勝蔵孝治 「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」ブレーン出版、2004 年          吉田武男・中井考章著 「カウンセラーは学校を救えるか」昭和堂、2003 年          沢崎俊之他 「学校臨床そして生きる場への援助」日本評論社、2002 年          内田江里・遊佐安一郎「学校心理臨床と家族：システムアプローチによる学校と家族の連携」亀口憲治(編)『現代のエスプリ』407 号、pp.151-160、至文堂、2001 年          村山正治 「校内システムの問題」 河合隼雄他(監)『心理臨床の実際』第 2 巻 pp.207-208、1999 年</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1・2 を参照</p>

1. 科目名 (単位数)	教育心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5232
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	教育心理学とは「教育」をめぐる人の心の発達を心理学の知識と方法を用いて明らかにし、教育の改善に資するための学問である。教育哲学や心理学の視点より基礎領域について概説し、最近の教育現場においてみられる思春期および青年期の諸事例を教育心理学的見地から取り上げ考察・分析する。できる限り各自の研究テーマに沿った事例を取り上げながら、社会的・文化的変容と事前の問題点と解決過程について検討する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学の基礎知識を学習するとともに、発達のメカニズム・学習のメカニズム・学習環境と教育実践の領域における研究動向を知り、いくつかの論文購読を進める。</li> <li>2. 子どもが青年期に向け心理的ウェルビーイングを維持しつつ、必要な基礎学力を身につけていくための施策を考察する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房</p> <p>【参考文献】</p> <p>三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会 速水俊彦ほか 2001 年 「 Richard D. Parsons, et. al. 2001 Educational Psychology: A Practitioner-Researcher Model of Teaching. West Chester University. 内田照彦・増田公男 2000 年『要説発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房</p>		
11. 成績評価の方法	発表レジュメ 40%、討論への参加度 20%、ファイナルペーパー 40%。 100～90 : A, 89～80 : B+, 79～70 : B, 69～60 : C, 59～ : F		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の教育環境で起きている社会問題を心理学的視点より把握していることは重要です。したがって、各課題に対し文献検索作業を徹底してください。</li> <li>* 通信生は特に疑問が生じたときには、大学に来校するかその他の手続きによって、教授より指示を仰いでください (E-mail による質問等を受けつけます。kiishika@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)。</li> <li>* 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。</li> <li>* 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。</li> </ul>		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	現代の教育心理学とは何か		
【学習の目標】	教科書「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」序章より以下の点を学んでいく。 1. 教育心理学という学問がみる「教育」を概観し、教育とはどのような営みを意味しているのか理解する。 2. 教育心理学の理念、目的について学ぶ。		
【学習の内容】	教育心理学が持つべき社会的役割について歴史背景を視野に入れ学ぶ。		
【キーワード】	教育心理学・教育・社会的成長		
【学習の課題】	教育心理学が直面している問題点を確認する。		
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会		
【学習する上での留意点】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 報告レジュメ (3,000 字) 作成においては、表題をつけて、どの観点から討論をしているのかが分かるように配慮してください。なお、引用文献は、少なくとも 3 つ、そのうち一つは、研究論文であること。研究論文は、コピーしたものを添付してください。</li> <li>2. 各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</li> </ol>		
2. テーマ	教育心理学がみる「発達」とは何か		
【学習の目標】	教科書「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 1 章と「心理学からみた教育の世界」2 章より以下の点を学んでいく。 1. 発達とは何か、発達することとは何か 2. 知性の発達と文化的影響 3. 道徳感情の「感謝」の意味とは		
【学習の内容】	教育心理学がみる発達を理解し、教育現場との見解の違いについて考察する。		
【キーワード】	知性を個人差・ヒトの知性・教育現場との協働		
【学習の課題】	教育心理学が社会に果たす役割を確認する。		
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会		
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。		

3 . テ ー マ	言語発達における最近の研究動向
【学習の目標】	教科書「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 2 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の言語発達に関する研究の動向を知る。 2. デジタル化した社会における言語性に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	言語の発達・思考の発達・コミュニケーションスキル
【学習の課題】	子どもの言語の発達・思考の発達における研究の動向とデジタル化した社会教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
4 . テ ー マ	教育心理学がみる「社会性の発達」
【学習の目標】	教科書「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 3 章と「心理学からみた教育の世界」4 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の社会性の発達に関する研究の動向を知る 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	社会性の発達・社会関係・社会的認知・個性化
【学習の課題】	社会性の発達および個性化において重要な人間関係の在り方をもとに発達における研究の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
5 . テ ー マ	教育心理学がみる「パーソナリティ」
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」5 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 1 部第 4 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の学校適応に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	学校不適応・自尊感情・遺伝と環境
【学習の課題】	子どもを取り巻く学校ストレスと学校不適応について理解し、その研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年「心理学からみた教育の世界」北大路書房 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
6 . テ ー マ	教育心理学がみる「学習」
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」3 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 2 部 1 章 2 章より以下の点を学んでいく。 1. 知的獲得の意味を確認する。 2. 思考に関わる研究の動向を知る。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	記憶の 3 段階・メタ認知・問題解決
【学習の課題】	思考力を育む環境要因について理解し、その育成の在り方について考察し、その研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年「心理学からみた教育の世界」北大路書房 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
7 . テ ー マ	学習と動機づけにおける最近の研究動向 1
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」3 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 2 部 3 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の学習と動機づけに関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	学習・動機づけ・随伴性認知・自己効力
【学習の課題】	学習の機能について理解し、子どもの動機づけの在り方について考察する。本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年「心理学からみた教育の世界」北大路書房 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会 荒木紀幸 2011 年「教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実」あいり出版

松原達也編 2013 年 「教育心理学」丸善出版 【学習する上での留意点】 第 1 回目の内容を確認してください。	
8 . テ ー マ	学習と動機づけにおける最近の研究動向 2
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」3 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 2 部 3 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の学習と動機づけに関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文講読をする。
【キーワード】	動機付け・自己効力感・生きる力・人間関係・本来性・ウェルビーイング
【学習の課題】	人間関係論の視点より見た子どもの動機づけとの関連を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 Kernis, M.H. 2003 Toward a conceptualization of optimal self-esteem. <i>Psychological Inquiry</i> , 14.1-26. Gecas, V. 2001 The self as a social force. In T.J. Owens, S. Stryker & N. Goodman (Eds), <i>Extending self-esteem theory and research</i> . Cambridge: Cambridge University Press. P.85-100. Harter, s. 2002 Authenticity, In C.S. Snyder & L.J. Shane (Eds), <i>Handbook of positive psychology</i> , London: Oxford University Press. P.366-381. 荒木紀幸 2011 年 「教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実」あいり出版 多鹿秀継 2001 年 「教育心理学：「生きる力」を身につけるために」サイエンス社 Charlton, T. 1992 Giving Access to the National Curriculum 'by working on the "Self"'. In K. Jones & T. Charlton (Eds.) <i>Learning Difficulties in Primary Classrooms</i> . London and New York: Routledge.
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
9 . テ ー マ	まとめ
【学習の目標】	本講義の中核的なテーマである「教育環境における子どもの健全な発達」に関して、これまでの先行研究の講読をもとに、現状の問題解決に向けて、研究の動向についてディスカッションを通し確認する。
【学習の内容】	教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。
【学習の課題】	教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
10 . テ ー マ	教育心理学がみる「学習環境」
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」3 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 3 部 1 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の自尊感情に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。
【キーワード】	学習環境・教育方法・教えること
【学習の課題】	人間関係論の視点より見た学習環境を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 三宅芳雄 2012 年「教育心理学特論」放送大学教育振興会 荒木紀幸 2011 年 「教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実」あいり出版 松原達也編 2013 年 「教育心理学」丸善出版
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
11 . テ ー マ	教育心理学がみる「評価」
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」7 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 3 部 2 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の評価に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。
【キーワード】	学習評価・妥当性と信頼性・「いい子」像
【学習の課題】	子どもの学習への動機づけ、本来性、自己概念の育成からみた、授業論・学習成立の型・教育評価・「真の評価」論について考察する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 荒木紀幸 2011 年 「教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実」あいり出版 松原達也編 2013 年 「教育心理学」丸善出版
【学習する上での留意点】	第 1 回目の内容を確認してください。
12 . テ ー マ	教育とカウンセリングにおける最近の研究動向
【学習の目標】	教科書「心理学からみた教育の世界」6 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 3 部 3 章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の教育とカウンセリングの共同に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を

	<p>講読する。</p> <p>【キーワード】 スクールカウンセラー・教育相談・カウンセリングマインド・思春期心性</p> <p>【学習の課題】 子どもの独り立ちを支える教育環境としての教師やスクールカウンセラーなどの専門家の役割について考察する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 松原達也編 2013 年 「教育心理学」丸善出版 安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 荒木紀幸 2011 年 「教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実」あいり出版 小谷英文 2005 年『心の安全空間』 「現代のエスプリ」別冊、至文堂 北尾倫彦 1986 年 「自己教育力を育てる先生」図書文化</p> <p>【学習する上での留意点】 第 1 回目の内容を確認してください。</p>
13. テーマ	道徳教育における最近の研究動向
	<p>【学習の目標】 教科書「心理学からみた教育の世界」1 章・4 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 1 部 3 章・第 2 部 2 章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の道徳教育に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。</p> <p>【キーワード】 道徳性・役割取得能力・集団規範・社会的相互作用</p> <p>【学習の課題】 子どもの道徳性・役割取得能力について理解する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 Hasebe, Y., Nucci, L. &amp; Nucci, M.S. 2004 Parental Control of the Personal Domain and Adolescent Symptoms of Psychopathology: A Cross-National Study in the United States and Japan. <i>Child Development</i>, 75, 815-828. 首藤敏元・二宮克美 2003 年「子どもの道徳的自律の発達」風間書房</p> <p>【学習する上での留意点】 第 1 回目の内容を確認してください。</p>
14. テーマ	学習環境と個性における最近の研究動向
	<p>【学習の目標】 教科書「心理学からみた教育の世界」8 章と「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」第 3 部 4 章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の A T I に関する研究の動向を知る</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する</p> <p>【キーワード】 適正処遇相互作用 (A T I)・適合的教育・学習支援・個人差</p> <p>【学習の課題】 子どもの知能・学力・創造性・人格形成において教育環境としての教師のパーソナリティ特性と教育技術は重要な要因である。このような教育現場の在り方について理解する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治 2013 年「教育心理学：教育の科学的解明を目指して」慶応義塾大学出版 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 榎本博昭・岡田努・下斗米淳 2008 年 「自己心理学」金子書房 並木博 1997 年 「個性と教育環境の相互作用」培風館</p> <p>【学習する上での留意点】 第 1 回目の内容を確認してください。</p>
15. テーマ	総まとめ
	<p>【学習の目標】 本講義の中核的なテーマである「教育環境における子どもの健全な発達」に関して、多くの先行研究をもとに今後の教育心理学の動向を再確認する。また、研究者の倫理的問題について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育心理学の目的、方法、内容についてまとめ、倫理的な配慮の在り方について検討する。</p> <p>【キーワード】 倫理的配慮・研究理念・子ども理解</p> <p>【学習の課題】 教育心理学の研究の動向と諸問題についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 藤土圭三 2013 年 「心理学からみた教育の世界」北大路書房 古澤頼雄・齊藤こずえ・都筑学編著 「心理学・倫理ガイドブック：リサーチと臨床」有斐閣</p>

1. 科目名 (単位数)	芸術療法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6287
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	芸術療法の持つ問題解決的機能とあわせ、心理アセスメントとしての働きについても学ぶ。 なお臨床心理行為は、かかわる側の人間性や価値観が強く反映するきわめて人間くさいものであることから、前述した臨床心理学的知見の獲得と並行し、自らのあり方や考え、さらには人間関係における癖などについての理解も求める。		
8. 学習目標	次の三点である。 1 芸術療法の理論的枠組みと代表的な技法の概要及び実際の展開について理解する。 2 自らの性格傾向を理解するための努力をする。 3 社会的課題に対する芸術療法の役割について具体的に考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	単元ごとにレポートを作成するが、内容や書式などの詳細については講義中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】小野京子著(2005)「表現アートセラピー入門」誠信書房 【参考書】飯森眞喜雄編 (2011)「芸術療法」日本評論社、山中康裕編著 (2003)「表現療法」ミネルヴァ書房		
11. 成績評価の方法	レポート 80% レスポンスシート 20%		
12. 受講生への メッセージ	演習と文献講読も行う。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	臨床的学びについて		
【学習の目標】	体験学習を通し、関係存在である自らのあり方を学習する。		
【学習の内容】	講義、演習		
【キーワード】	個別性、独自性、価値観		
【学習の課題】	気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。		
【学習する上での留意点】	教科書：はじめに ※以下教科書の頁記載		
2. テーマ	芸術療法の意味と意義		
【学習の目標】	芸術療法の定義と範囲を学習する。		
【学習の内容】	講義、演習		
【キーワード】	表現		
【学習の課題】	気づいたことは何か、考えたことは何か整理する。		
【参考文献】	鈴木康明著 (1999)「生と死から学ぶ」北大路書房		
【学習する上での留意点】	1 頁～26 頁		
3. テーマ	芸術療法の実践		
【学習の目標】	精神療法としての芸術療法の特徴を学習する。		
【学習の内容】	講義、演習		
【キーワード】	個人差		
【学習の課題】	芸術療法の特徴を理解する。人間のホリスティックな理解とは何か理解する。		
【参考文献】			
【学習する上での留意点】	27 頁～46 頁		
4. テーマ	芸術療法の理論 1		
【学習の目標】	芸術療法の持つ自己回復力の活性化について学習する。		
【学習の内容】	講義、演習		
【キーワード】	自己回復力、感情		
【学習の課題】	効果と限界について正確な理解をする。		
【参考文献】			
【学習する上での留意点】	47 頁～76 頁		
5. テーマ	芸術療法の理論 2		
【学習の目標】	芸術療法の特徴を再度学習する。		
【学習の内容】	講義、演習		
【キーワード】	適応の基準、言葉		
【学習の課題】	適応の基準と注意点について理解する。		
【参考文献】			
【学習する上での留意点】	77 頁～86 頁		
6. テーマ	芸術療法の理論 3		
【学習の目標】	視覚的アートについて学習する。		

【学習の内容】	講義、演習
【キーワード】	絵画、コラージュ
【学習の課題】	コラージュの意義と効果について理解する。
【参考文献】	
【学習する上での留意点】	87 頁～97 頁
7 . テ ー マ	芸術療法の理論 4
【学習の目標】	ライティングについて学習する
【学習の内容】	講義、演習
【キーワード】	詩、物語
【学習の課題】	詩の意義と効果について理解する。
【参考文献】	
【学習する上での留意点】	98 頁～111 頁
8 . テ ー マ	芸術療法の理論 5
【学習の目標】	身体表現について学習する。
【学習の内容】	講義、演習
【キーワード】	イメージ、想像力、比喻
【学習の課題】	ダンス、ムーブメントの意義と効果について理解する。
【参考文献】	
【学習する上での留意点】	112 頁～136 頁
9 . テ ー マ	芸術療法の実際 1
【学習の目標】	絵画療法の各種技法の理論と展開について学習する。
【学習の内容】	絵画療法の理論と展開 1 絵画療法 2 特性 3 治療構造 4 多様なアプローチ
【キーワード】	非言語的交流、バウムテスト、風景構成法
【学習の課題】	①絵画療法の特徴について理解する。②諸技法の展開について理解する。
【参考文献】	コピー印刷
【学習する上での留意点】	
10～11.テーマ	芸術療法の実際 2
【学習の目標】	絵画療法の各種技術うち、投映描画法テストバッテリーの理論と展開について学習する。
【学習の内容】	投映描画法テストバッテリー 1 星と波テスト 2 バウムテスト 3 ワルテッグ描画テスト 4 筆跡
【キーワード】	テストバッテリー、投映法、星と波テスト、ワルテッグ描画テスト
【学習の課題】	①投映法テストバッテリーの理論と展開について理解する。②特に星と波テストの理論について理解する。
【参考文献】	鈴木康明・ブルーノ・リーネルら著 (2000)「星と波テスト入門」川島書店
【学習する上での留意点】	
12～13.テーマ	芸術療法の実際 3
【学習の目標】	コラージュ療法の理論と実際について学習する。
【学習の内容】	コラージュ療法 1 概説 2 アセスメントと適応 3 導入と具体的方法 4 留意点
【キーワード】	コラージュ、箱庭療法、簡便性
【学習の課題】	①コラージュ療法の理論と展開について理解する。②コラージュ療法の治療的かかわりと予防、開発的かかわりについて理解する。
【参考文献】	鈴木康明著 (1999)「異文化間カウンセリングにおけるサラダ・ボールコラージュ」(森谷寛之・杉浦京子編『コラージュ療法』) 至文堂
【学習する上での留意点】	のり、ハサミ、カッター、切り取ってよい雑誌やパンフレット、マンガなどを持参すること。
14 . テ ー マ	芸術療法の実際 4
【学習の目標】	ダンス療法の理論と展開について学習する。
【学習の内容】	講義、演習 1 概説 2 セラピストについて 3 ダンス療法の考え方 4 技法
【キーワード】	ダンス 心身一如 自然治癒力
【学習の課題】	①ダンス療法の理論と展開について理解する。②ダンス療法の治療的かかわりと予防、開発的かかわりについて理解する。
【学習する上での留意点】	動きやすい服装で出席すること。
15 . テ ー マ	まとめ (研究発表にかえる場合もある)
課題をまとめる。場合によっては箱庭療法体験学習。	

1. 科目名 (単位数)	社会心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5230
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	臨床心理学と社会心理学の接点としての臨床社会心理学の観点から個々人の行動レベルの問題、対人関係や対人行動、集団の行動、不特定多数の人々の間に発生する行動現象、コミュニケーションの問題などについて理解を深め考察する。		
8. 学習目標	次の事項を理解する。 ①社会心理学と臨床心理学のインターフェイスについて学ぶ。 ②臨床社会心理学の可能性に対する理解を深める ③臨床社会心理学における最近の研究に基づく実践の傾向について学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 阪本真土・丹野義彦・安藤清志 「臨床社会心理学」東京大学出版、2007 年。 有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年 【参考文献】 原田純治編著「社会心理学：対人行動の理解」ブレーン出版、2001 年。 川俣甲子夫・渡辺席子「社会心理学：臨床心理学との接点」八千代出版、2004 年。		
11. 成績評価の方法	(評価基準) 発表レジュメ 50%、 ファイナルペーパー50% (評価点) A: 100～90 B+: 89～80 B: 79～70 C: 69～60 F: 59 点以下		
12. 受講生への メッセージ	* 臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の社会問題を心理学的見地より把握していることは重要です。したがって、各課題に対し文献検索作業を徹底してください。 * 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。 * 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1 . テ ー マ	臨床社会心理学は何をめざすか		
【学習の目標】	社会心理学・臨床心理学のインターフェイスとしての臨床社会心理学について学ぶ。		
【学習の内容】	各領域としての枠組みと臨床社会心理学の定義と目的をまとめる。		
【キーワード】	社会心理学・臨床心理学・臨床社会心理学		
【学習の課題】	臨床社会心理学に対する理解を深めるとともに、今後の課題について考える。		
【参考文献】	原田純治編著「社会心理学：対人行動の理解」ブレーン出版 2001 年。 川俣甲子夫「社会心理学：臨床心理学との接点」八千代出版 2004 年。		
【学習する上での留意点】	発表レジュメは小論文形式で 2 ページ(手書きは認めません)にまとめる。各講義のテーマについてまとめ、そのテーマに関連する他の研究論文で関心のある研究をまとめ、全体の考察を臨床心理士の立場より論述する。また課題の題目は各自のテーマに従って最も適当な表題を付け、引用文献は少なくとも 3 つ、そのうち 1 つは研究論文であることとする。		
2 . テ ー マ	臨床社会心理学の歴史と現状		
【学習の目標】	臨床社会心理学の歴史と現状について学ぶ。		
【学習の内容】	欧米における臨床社会心理学の変遷についてまとめる。		
【キーワード】	臨床社会心理学の変遷		
【学習の課題】	臨床社会心理学の発展の歴史的経緯について考える。		
【参考文献】	Kowalski, R. M. & Learly, M. R. (eds.) 1999 The social psychology of emotional and behavioral problems: Interfaces of social and clinical psychology. American Psychological Association. (安藤清志・丹野義彦 監訳 2001 心象社会心理学の発展：実りあるインターフェイスをめざして 北大路書房。		
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。		
3 . テ ー マ	シャイネス		
【学習の目標】	対人不安や社会恐怖と関連する概念としての個人におけるシャイネスを学ぶ。		
【学習の内容】	シャイネスの心理的特徴をまとめる。		
【キーワード】	シャイネス・対人不安・形成過程・自己呈示		
【学習の課題】	シャイネスのメカニズムについて考え、その介入の在り方を考察する。		
【参考文献】	栗林克匡 2002 恋愛における告白の状況と個人さ(シャイネス・社会的スキル)に関する研究 北里学園大学社会福祉学部北里論集, 39, 11 - 19. 富重健一 2000 青年期における伊政府案と威勢対人行動の関係：異性に対する親和思考に関する他者比較・経時的比較の役割を中心に 社会心理学研究, 15, 189 - 199. 唐沢穰他「社会的認知の心理学：社会を描く心の働き」ナカニシヤ出版 2001 年		
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。		
4 . テ ー マ	自己開示		
【学習の目標】	感情体験としての自己開示について学ぶ。		
【学習の内容】	態度の定義、態度の測定、説得的コミュニケーション、態度の変容の諸理論についてまとめる。		



<p>【キーワード】 自己開示・感情の社会的共有・感情筆記法・自己呈示</p> <p>【学習の課題】 自己開示パラダイム研究にはじまり、自己開示の今後の課題について考え、人間理解を深める。</p> <p>【参考文献】 森脇愛子 2005 抑うつと自己開示の臨床心理学 風間書房</p> <p>Sloan, D. M. &amp; Marx, B. P. 2004 Taking pen to hand: Evaluating theories underlying the written disclosure paradigm. <i>Clinical Psychology: Science and Practice</i>, 11, 121-137.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
5 . テ ー マ	攻撃と怒り
<p>【学習の目標】 攻撃と怒りのメカニズムについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 攻撃と怒りのメカニズムを理解しその制御の在り方についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 攻撃・怒り・制御・認知行動アプローチ・教育的介入プログラム</p> <p>【学習の課題】 攻撃と怒りのメカニズムを理解しその制御の在り方や教育的介入プログラムについて考察する。</p> <p>【参考文献】 荒井崇史・湯川進太郎 2006 言語化による怒りの制御 カウンセリング研究, 39, 1 - 10.</p> <p>Bushman, B. J. 2002 Does venting anger feed or extinguish the flame? Catharsis, rumination, distraction, anger, and aggressive responding. <i>Personality and Social Psychology Bulletin</i>, 28, 724-731.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
6 . テ ー マ	ソーシャルサポート
<p>【学習の目標】 ソーシャルサポート研究について学び、その臨床的效果について考える。</p> <p>【学習の内容】 ソーシャルサポート研究の背景と概念についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 ソーシャルサポート・ストレスモデル・ストレッサー</p> <p>【学習の課題】 ソーシャルサポートの特徴とその臨床的效果、将来の展望について考える。</p> <p>【参考文献】 中村佳子・浦光博 2000 適応および自尊心に及ぼすサポートの期待と受容の交互作用効果 実験社会心理学研究, 39, 121-134.</p> <p>Norris, F. H. &amp; Kaniasty, K. 1996 Received and perceived social support in times of stress: A test of the social support deterioration deterrence model. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 71, 498-511.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
7 . テ ー マ	ソーシャルスキル
<p>【学習の目標】 ソーシャルスキル獲得過程について学び、その臨床的效果について考える。</p> <p>【学習の内容】 ソーシャルスキルとは何か、その基礎的知見と実践についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 ソーシャルスキル</p> <p>【学習の課題】 ソーシャルスキルの獲得過程について考え、そのトレーニング法を理解する。</p> <p>【参考文献】 江村里奈・岡安考弘 2003 中学校における集団社会的スキル教育の実践的研究 教育心理学研究, 51, 339 - 350.</p> <p>Segrin, C. &amp; Givertz, M. 2003 Social skills deficits associated with depression. <i>Clinical Psychology Review</i>, 20, 379-403.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
8 . テ ー マ	患者役割
<p>【学習の目標】 社会的影響の諸側面のうち、同調、服従、社会的影響としての説得、他者存在の効果等を取り上げ、その現象について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 患者役割意識の構造分析についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 患者役割・カウンセラーとクライアント</p> <p>【学習の課題】 患者役割意識の構造分析について理解を深める。</p> <p>【参考文献】 山本和郎・清原久美子 1969 一般病院における「患者役割意識」の構造分析：胃腸炎および結核患者について。臨床心理学研究, 7(4), 243-255.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
9 . テ ー マ	親密な関係と離死別
<p>【学習の目標】 親密な関係と離死別の体験について、臨床社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 親密な関係と離死別の体験における心理的反応についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 密な関係と離死別・恋愛関係崩壊・離婚後の心理・死別・遺族の心理</p> <p>【学習の課題】 日本の死別研究の実態と今後の課題について理解を深める。</p> <p>【参考文献】 安藤清志・松井豊・福岡欣治 2005 航空事故で家族を喪うこと 心理学ワールド, 28, 79 - 129.</p> <p>松井豊 2005 悲嘆研究からみた心理臨床と社会心理学 ストレス研究, 19(3), 175-183.</p> <p>坂口幸弘 2002 配偶者喪失後における過去への肯定的-否定的評価と精神的健康との関係 心理学研究, 73(5), 425 - 430.</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	
10 . テ ー マ	グループワーク
<p>【学習の目標】 人間の社会的行動のうち、援助行動、ソーシャル・サポート、対人的葛藤、攻撃行動を取り上げ、その特徴のほか、共通点、相違点について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 援助行動の研究、ソーシャル・サポートの研究、対人葛藤、攻撃行動についてまとめる。</p> <p>【キーワード】 グループワーク・グループのメカニズム・Tグループ</p> <p>【学習の課題】 グループワークのメカニズムを理解するとともに、グループワーク実践の在り方について考える。</p> <p>【参考文献】 磯田雄二郎 1992 集団精神療法総論—絡み合う三すじの糸 Mereno, Slavson, Bion 集団精神療法, 11(2), 191-202. Rogers, C. R. 1968 Interpersonal relationships: U.S.A.2000. <i>Journal of Applied Behavioral Science</i>, 4(3).</p> <p>【学習する上での留意点】 課題 1 に同様とする。</p>	

1 1 . テ ー マ	臨床社会心理学からみた人の心の不思議・Part1
【学習の目標】	教科書「自己意識的感情の心理学」第 1 章により、自己と感情の相互作用について学ぶ。
【学習の内容】	自己と感情の関係を説明する諸文献をもとに臨床家としての知見を広める。
【キーワード】	臨床心理学と社会心理学のインターフェイス・自己と感情・自己意識的感情
【学習の課題】	自己意識と自己の感情の表出の在り方について討論していく。
【参考文献】	有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年 高野陽太郎『「集団主義」という錯覚：日本人論の思い違いとその由来』新潮社 Gloaguen, V., Cottrauz, J., Cucherat, M., & Blackburn, I. 1998 A meta-analysis of the effects of cognitive therapy in depressed patients. <i>Journal of Affective Disorders</i> , 49, 59-72.
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。
1 2 . テ ー マ	臨床社会心理学からみた人の心の不思議・Part 2
【学習の目標】	教科書「自己意識的感情の心理学」第 3 章により、自己意識的感情の病理について学ぶ。
【学習の内容】	自己意識的感情の病理における臨床社会心理学の可能性についてまとめる。
【キーワード】	自己意識的感情・精神疾患
【学習の課題】	精神疾患とともに出現する自己意識的感情と自己の存在について考察する。
【参考文献】	有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年 Freud, S. (1923) The id and the ego. New York: W. W. Norton. (道旗泰三 (訳) 2007 フロイト全集 18 自我とエス 岩波書店) 大坊邦夫 2001 化粧と顔の美意識 大坊邦夫(編) 化粧行動の社会心理学 北大路書房, pp.1-9.
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。
1 3 . テ ー マ	臨床社会心理学からみた人の心の不思議・Part 3
【学習の目標】	教科書「自己意識的感情の心理学」第 2 部 4 章、5 章により、自己意識的感情の「罪悪感」「集合罪悪感」について学ぶ。
【学習の内容】	自己意識的感情の様々な側面としての「罪悪感」「集合罪悪感」についてまとめる。
【キーワード】	自己意識的感情・罪悪感・集合罪悪感
【学習の課題】	自己意識的感情としての「罪悪感」「集合罪悪感」を理解し、様々な社会環境に身を置く自己の存在について考察する。
【参考文献】	有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。
1 4 . テ ー マ	臨床社会心理学からみた人の心の不思議・Part 4
【学習の目標】	教科書「自己意識的感情の心理学」第 2 部 7 章、8 章により、自己意識的感情の「恥」「屈辱感と共感的羞恥」について学ぶ。
【学習の内容】	自己意識的感情の様々な側面としての「恥」「屈辱感と共感的羞恥」についてまとめる。
【キーワード】	恥・屈辱感・共感的羞恥
【学習の課題】	自己意識的感情としての「恥」「屈辱感と共感的羞恥」を理解し、様々な社会環境に身を置く自己の存在について考察する。
【参考文献】	有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。
1 5 . テ ー マ	臨床社会心理学からみた人の心の不思議・Part 5
【学習の目標】	教科書「自己意識的感情の心理学」第 2 部 9 章、10 章により、自己意識的感情の「妬みと嫉妬」「誇りとプライド」について学ぶ。
【学習の内容】	自己意識的感情の様々な側面としての「妬みと嫉妬」「誇りとプライド」についてまとめる。
【キーワード】	「妬みと嫉妬」・「誇りとプライド」・パーソナリティ特性
【学習の課題】	自己意識的感情としての「妬みと嫉妬」「誇りとプライド」を理解し、様々な社会環境に身を置く自己の存在について考察する。
【参考文献】	有光興記・菊池章夫 「自己意識的感情の心理学」北大路書房、2009 年
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。

1. 科目名 (単位数)	社会病理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP5332 PSMP5263
2. 授業担当教員	花村 誠一		
4. 授業形態	講義およびディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	臨床心理士 (および他の援助専門職) にとって、社会病理学という問題領域は、すぐれてアクチュアルな意義をもつ。「こころのケア」は個人に先立つ社会への眼差しを欠いては、けっして豊かな拡がりを獲得できない。21 世紀の日本を舞台に、「マクロ社会の病理」「ミクロ社会の病理」を具体的にとりあげていく。ミシェル・フーコーの生 - 権力論を手懸りに、全体のトーンを調律すべくもくろんでいる。構築主義 (社会構成主義) という最新の話題にもふれつつ、可能な限りコンテンポラリーな実質を与える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会病理学の歴史的発展について、おおまかな見取り図を描くことができる。</li> <li>2. フーコー派言説分析の手法を習得し、事例の分析に使用することができる。</li> <li>3. 高齢化と少子化、それらへの対策について、具体的に論述することができる。</li> <li>4. 情報化社会の「病理現象」を列挙し、具体的に説明することができる。</li> <li>5. 過密と過疎の社会病理について、それぞれの生活障害を記述することができる。</li> <li>6. 家族の病理と集団の病理について、両者を関連させながら論述することができる。</li> <li>7. 犯罪と非行をめぐる諸原因論を、現代の日本の状況に適用することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>星野周弘著『社会病理学概論』、学文社、1999 年</p> <p>C. ウィリッグ (上淵 寿ほか訳)『心理学のための質的研究法入門—創造的な探求に向けて』、培風館、2003 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>社会病理学講座第 1 巻、松下武志ほか編『社会病理学の基礎理論』、学文社、2004 年</p> <p>社会病理学講座第 2 巻、井上真理子ほか編『欲望社会—マクロ社会の病理』、学文社、2004 年</p> <p>社会病理学講座第 3 巻、高原正興ほか編『病める関係性—ミクロ社会の病理』、学文社、2004 年</p> <p>社会病理学講座第 4 巻、畠中宗一ほか編『社会病理学と臨床社会学—臨床と社会学的研究のブリッジング』、学文社、2004 年</p> <p>夏刈康男著『タルドとデュルケム—社会学者へのパルクール』、学文社、2008 年</p> <p>中倉智徳『ガブリエル・タルド—贈与とアソシアシオンの体制へ』、洛北出版、2011 年</p> <p>ガブリエル・タルド著 (池田祥英ほか訳)『模倣の法則』、河出書房新社、2007 年</p> <p>マヌエル・デラング著 (篠原雅武訳)『社会の新たな哲学—集合体、潜在性、創発』、人文書院、2015 年</p> <p>ジョック・ヤング著 (青木秀男ほか訳)『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差異』、洛北出版、2007 年、</p> <p>ウルリヒ・ベック著 (東 廉ほか訳)『危険社会—新しい近代への道』、法政大学出版会、1998 年</p> <p>ジョルジュ・カンギレム著 (滝沢武久訳)『正常と病理』、法政大学出版局、1987 年</p> <p>エミール・デュルケム著 (内藤莞爾訳)『デュルケム法社会学論集』、恒社厚生閣、1990 年</p> <p>エミール・デュルケム著 (宮島 喬訳)『社会学的方法の規準』、岩波文庫、1895 年</p> <p>ミシェル・フーコー著 (慎改康之訳)『知の考古学』(河出文庫)、河出書房新社、2012 年</p> <p>ミシェル・フーコー編 (岸田 秀訳)『ピエール・リヴィエールの犯罪—狂気と理性』、河出書房新社、1986 年</p> <p>ミシェル・フーコー著 (渡辺守章訳)『性の歴史 1 知への意志』、新潮社、1986 年</p> <p>イアン・ハッキング著 (石原英樹ほか訳)『偶然を飼いならす—統計学と第二次科学革命』、木鐸社、1990 年</p> <p>G.キング、R.O.コヘイン、S.ヴァーバ著 (馬淵 勝監訳)『社会科学のリサーチ・デザイナー—定性的研究における科学的推論』、けいそう書房、2004 年</p> <p>中河伸俊ほか編『社会構築主義のスペクトラム—パースペクティブの現在と可能性』、ナカニシヤ出版、2001 年</p> <p>西垣 通著『情報学的転回—IT 社会のゆくえ』、春秋社、東京、2005 年</p> <p>重田園江著『フーコーの穴—統計学と統治の現在』、木鐸社、2003 年</p> <p>大淵憲一著『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』、培風館、東京、2006 年</p> <p>「夫 (恋人) からの暴力」調査研究会著『ドメスティック・バイオレンス [新版]』、有斐閣、2002 年</p> <p>佐藤郁也著『暴走族のエスノグラフィー』、新曜社、東京、1984 年</p> <p>中村伸俊ほか編『社会構築主義のスペクトラム』、ナカニシヤ出版、2001 年</p> <p>臨床精神医学臨時増刊『高齢少子化時代の精神保健・医療』、国際医書出版、1998 年</p> <p>Schellely Tremain ed. : Foucault and the Government of Disability ,the University of Michigan Press, 2005.</p> <p>Kendall, G. and Wickham, G. : Using Foucault' s Methods. Sage, London, 1999.</p>		
11. 成績評価の方法	授業での質疑や議論への参加 課題レポートでの達成レベル	(通学教育) 50% (通信教育) 100%	

<p>12. 受講生へのメッセージ</p>	<p>ポストモダンと評される現代社会では、「社会病理」の基準を定めることが困難である。それかあらぬか、社会病理学はかつての活況を失い、「臨床社会学」へと止揚されつつある。しかし、この場合の「臨床」がどういうことを意味しているのか、必ずしも明確とは言えない。教科書として掲げた星野の著書は、コンパクトかつロジカルに社会病理学の全貌を伝えるのに成功している。参考書として掲げた講座 1－4 巻を併読すれば、この学問の今日的位相をうかがいしることができる。</p> <p>マクロとミクロを包括しうる研究法として、フーコー派言説分析をとりあげる。社会病理学を現代的に実行するために、教員自身の問題関心から導入したものである。これは言説心理学や会話分析と異なり、経験科学への応用はまだ実験段階にある。フーコーはフランスの哲学者だが、今日、アメリカのさまざまな領域で、彼をめぐって活発な議論が展開している。わけても、社会学における構築主義は、主要な養分を彼の仕事から得ているはずで、一瞥しておく価値があるだろう。</p> <p>社会病理に関するマクロ - ミクロリンクの研究基礎論として、つい最近、マヌエル・デランダ著『社会の新たな哲学—集合体、潜在性、創発』が刊行された。この著者は、フーコーの盟友でもあったジル・ドゥルーズの哲学を英米の分析哲学とフュージョンさせる仕事ぶりで注目されている。本科目では、例年、外部講師による 1 コマの特別授業を企画しているが、今年度は、フーコーなしドゥルーズをフューチャーしつつ現代日本の社会病理について語れる論客をお招きする予定である。</p>
<p>13. オフィスアワー</p>	<p>春期：水曜日 9:00-12:00 秋期：木曜日 9:00-12:00 研究室 26 (1 号館 4 階)</p>
<p>14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</p>	
<p>1. テーマ</p>	<p>社会病理学とはなにか</p>
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】</p>	<p>社会病理学という学問領域について、その黎明期から現代に至るまでの歴史的発展をたどってみる。</p> <p>1) 「社会病理」とはなにか、その定義についてみてみると、時代とともに変化していることがわかる。</p> <p>2) 社会病理学はフランスで起こったが、発展したのは 20 世紀前半のアメリカにおいてである。</p> <p>3) 古典的社会病理学は、社会有機体説的なアプローチを特徴とし、多分にアナロジーにたよっていたといえる。</p> <p>4) 結局のところ、社会病理とは感受概念 (sensitizing concept) である、と考えることができる。</p> <p>社会病理、感受概念、社会病理学、応用社会学、社会問題、社会問題の社会学、コント (Comte, A.)、スペンサー (Spencer, H.)、リリエンフェルト (Lilienfeld, P.v.)、デュルケム (Durkheim, E.)</p> <p>1) 社会病理を測定するにはどのようなやりかたがあるか、例をあげてみよう。</p> <p>2) 社会病理学に独自の分析方法があるか、改めて考えてみると答えに窮する。</p> <p>3) 社会問題の基本類型を思いつくまま列挙してみよう。</p> <p>4) この学問が今日、低迷を余儀なくされているのはなぜだろうか。</p> <p>社会病理学講座、第 1 巻、松木武志ほか編『社会病理学の基礎理論』、学文社、2004 年</p> <p>社会有機体説を例に、社会科学におけるアナロジーの有用性とその畏について考えてみよう。</p>
<p>2. テーマ</p>	<p>デュルケム社会学再考</p>
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】 【学習する上での留意点】</p>	<p>フランスの社会学者デュルケムは、「社会病理学」と銘打つことは一度もなかったが、その実質を先取りしていたのみならず、この学問のその後の展開にも多大な影響をあたえた人物である。ここでは、現代的な視点から「デュルケム社会学」について再考してみる。</p> <p>1) デュルケムは社会学を実証科学であると同時に道徳に関する科学として成立させようとした。</p> <p>2) 「規範 (norme)」という概念によって、道徳を正常性と通低させることが可能になっている。</p> <p>3) 規範概念は一方では統計学との関連で、他方では医学・生理学との関連で導入されている。</p> <p>4) 要するに、デュルケムが成し遂げたことは統計学と生理学の社会学における統合である。</p> <p>個人レベルの犯罪と自殺、社会全体の犯罪率と自殺率、統計的規則性、大数の法則、平均概念、分散 (dispersion)、ケトレ (Quetelet, L. A. J.)、ポアソン (Poisson, S. D.)、レクシス (Lexis, W.)、ベルナル (Bernard, C.)</p> <p>1) デュルケムの学問観をマックス・ウェーバーのそれと対比してみると、どのような特徴がみられるか。</p> <p>2) カンギレムの医学哲学を参照しながら、正常と異常について深く考えてみよう。</p> <p>3) デュルケムの社会学のなかに「福祉国家」を可能にする思考の型やスタイルを見定めてみる。</p> <p>4) さらに、現代社会のさまざまな変動を考えるための参照点として役立てよう。</p> <p>重田園江『フーコーの穴—統計学と統治の現在』、木鐸社、2003 年 エミール・デュルケム (伊藤莞爾訳)『デュルケム法社会学論集』、恒星社厚生閣、1990 年 エミール・デュルケム (宮島 喬訳)『社会学的方法の基準』、岩波文庫 イアン・ハッキング (石原英樹ほか訳)『偶然を飼いなら—統計学と第二次科学革命』、木鐸社、1990 年 ジョルジュ・カンギレム (滝沢武久訳)『正常と病理』、法政大学出版局、1987 年</p> <p>レクシスの分散とゴルトン—ピアソンの相関・回帰は、現代の数理統計学の基本的手法となっている。</p>
<p>3. テーマ</p>	<p>社会病理研究の諸理論</p>
<p>【学習の目標】 【学習の内容】</p>	<p>社会病理学の主要理論における分析視点はさまざまであるが、総論的にはあれ、それらについて一通り理解しておくことは、これからディテールに入っていくうえで必要である。</p> <p>1) 機能主義的アプローチは、コンセンサス・モデルに立っている。</p> <p>2) 社会構造論的アプローチには、コンセンサス・モデルに立つものと、コンフリクト・モデルに立つものがある。</p> <p>3) 相互作用論的アプローチでは、行為者の主観的アプローチが重視される。</p>

	<p>4) 葛藤論的アプローチは、社会を構成するさまざまな集団間には、緊張、対立、葛藤が恒常的に存在するという前提に立つ。</p> <p>【キーワード】 デュルケムのアノミー論、マートン (Merton, R. K.) のアノミー論、エリオット (Elliott, M. A.) とメリル (Merrill, F. E.) の社会解体論、オグバーン (Ogburn, W. F.) の文化遅滞論、レマート (Lemert, E. M.) の逸脱行動論、レイベリング理論、第一次的逸脱と第二次的逸脱、疎外論</p> <p>【学習の課題】 1) アノミーに関するデュルケムとマートンの違いはどのようなところに求められるか。 2) 社会解体だけでなく、集団解体、家族解体、地域解体についても学ぶ。 3) 逸脱行動が「公共的健康」の一要因とされるのは、どのような理由にもとづくのか。 4) レイベリング理論と従来の実証主義的研究との決定的な違いはどこに存するか、考えてみよう。</p> <p>【参考文献】 社会病理学講座第1巻 松下武志ほか編『社会病理学の基礎理論』、学文社、2004年</p> <p>【学習する上での留意点】 レイベリング理論は、現代社会学におけるホットな話題である「社会問題への構築主義的アプローチ」の前哨でもあった。どのような意味でそういえるのか、パート2の予習として受講者同士で意見を出し合ってみよう。</p>
4 . テ ー マ	フーコー派言説分析入門
<p>【学習の目標】 今日、心理学における質的研究法の一翼を担うに至った「フーコー派言説分析」(Foucauldian discourse analysis)の要諦について学び、実際に使用してみる。</p> <p>【学習の内容】 1) 人はいつでも、どこでも、任意に、自由な語りが許されているわけではない。 2) しかるべき時、しかるべき場所、しかるべき様態と適切さにもとづいて語らなければならない。 3) 言説分析では、語る内容以上に語る主体の社会的ポジションが重視される。 4) 一定の言説フィールドを想定し、そこでのレトリックと配置を仔細に観察し、記述していく。</p> <p>【キーワード】 言説 (discourse) : 対象と一連の主体の位置を構成する言表 (statement) のセット、主体の位置 (subject positions)、位置取り (positioning)、対抗言説 (counter-discourse)、知 (knowledge)、権力 (power)、</p> <p>【学習の課題】 1) 何ごとかが社会問題としてクレイムされる際のマイクロな会話のやりとりを観察してみよう。 2) 集会でのアピールやメディア向けの声明を、パンフレットや記事の形で収集してみる。 3) 新聞・雑誌記事やテレビ・ラジオ番組の内容分析にもとづいて収集することもできる。 4) ある事柄に対する取り上げられ方がどのように変化してきたかを長期的なタイムスパンで確認してみる。</p> <p>【参考文献】 ミシェル・フーコー (中村雄二郎訳) 『知の考古学』、河出書房新社、1981年 ミシェル・フーコー編 (岸田 秀訳) 『ビエール・リヴィエールの犯罪—狂気と理性』、河出書房新社、1986年</p> <p>【学習する上での留意点】 フーコー派言説分析にもとづく経験的研究が集積されつつあるが、6. でみるように、そのポテンシャルリティは心理学ないし社会学的受容にはけっして回収できない体のものである。</p>	
5 . テ ー マ	管理社会における生—権力
<p>【学習の目標】 フランスの哲学者フーコー (Foucault, M.) による「生—権力」(bio-pouvoir) と「生—政治」(bio-politique) の概念について学習し、現代社会を分析する新たな道具立てを獲得する。</p> <p>【学習の内容】 1) フーコーは、権力の戦略が「古典主義時代」にきわめて重大な転換を遂げたと考えている。 2) それ以前の権力は、臣下を「死なせる権利」にほかならなかったといえる。 3) 新しい権力は「生命に対し積極的に働きかける権力」、すなわち、「生—権力」である。 4) この権力は人口や民族などマクロ問題を重視し、「生命を経営・管理し、増大させ、増殖させようとする。</p> <p>【キーワード】 先験的—経験的二重体 (un doublet empirico-tanscendental) としての「人間」、パノプティコン (一望監視装置)、規律権力、牧人=司祭型権力、臣下=主体化 (assujettissement)、生—権力、福祉国家、当事のテクノロジー、管理社会</p> <p>【学習の課題】 1) グローバリゼーション下、ある種の普遍性をもった人間管理のテクニックが問題になり始めた。 2) フーコーが批判の対象とした時代と社会は過去のものとなりつつある。 3) 時代は変わっても、新たに生まれ続ける「現在」を切り取る道具を残したといえる。 4) 福祉国家後の社会がこれからどこに向かうのか、まだはっきりしていない。</p> <p>【参考文献】 ミシェル・フーコー 『性の歴史1 知への意志』、新潮社、1986年 杉田 敦 『権力の系譜学—フーコー以後の政治理論に向けて』、岩波書店、1998年</p> <p>【学習する上での留意点】 フーコーは福祉国家に結びつくのとは別のタイプの、新しい統治形態が力を持ち始めていることに気づき、英米にあらわれる「ネオオリベラリズムの覇権」をすでに予知してもいた。</p>	
6 . テ ー マ	構築主義とどう違うのか
<p>【学習の目標】 構築主義と呼ばれる人文・社会科学上のパラダイムをめぐり、その系譜、展開、意義、限界 (フーコーによる超出) について、学際的な分野にまたがって論述する。ここでの眼目は、フーコーの仕事 (構築主義に対する) の独自性要求である。</p> <p>【学習の内容】 1) constructionism が「構築主義」と訳されるようになった経緯について知る。 2) 「社会的に構築 (構成) される」とはどのようなことか、その含意を正しく理解する。 3) 本質主義および客観主義に対立するこの構想のもつアドヴァンテージを把握する。 4) 「存在論的ゲリマンダリング (OG)」についての批判をどうかわすか、考えてみる。</p> <p>【キーワード】 認知科学における構成主義 (constructivism) との区別、存在論的ゲリマンダリング (ontological Gerrymandering)、社会問題、クレイム申し立て、スペクター (Spector, M.) と Kitsuse (Kitsuse, J.L.) のラベリング論、物語性への</p>	

	<p>注目、歴史叙述の出発点</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言説分析と構築主義との遭遇は、生産的であったと見ることもできる。</li> <li>2) 女性、精神障害者、身体障害者、マイノリティを積極的に取り上げることも重なる。</li> <li>3) フーコーの理論的営為は、しかし、つねに行為であり実践であったといえる。</li> <li>4) 彼にとって批判とは、別様の経験回路を創発する行為であったのである。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 中河伸俊、土井隆義、北澤 毅編『社会構築主義のスペクトラム』、ナカニシヤ出版、2001 年                  スペクターとキツセ（村上直之ほか訳）『社会問題の構築—ラベリング理論をこえて』、マルジュ社、1990 年                  上野千鶴子『構築主義とは何か』、けいそう書房、2001 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  ここでは、フーコーの社会的受容、その端的なあらわれとしての構築主義に向けて、一種のクレーム申し立てが行われていると考えてもらってもさしつかえない。</p>
<p>7 . テ ー マ</p>	<p>高齢化と少子化のゆがみ</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 高齢化、少子化にともない、さまざまな社会病理現象が生じている。それらへの対策を講じるためにも、現状をしっかり見据えなければならない。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢化の主な原因は少子化であり、副次的な原因は高齢者の死亡率の低下である。</li> <li>2) 「喪失」を手がかりに、高齢者の生活障害と生きがいの回復について学ぶ。</li> <li>3) 労働力不足を解決するには、少子化の解消だけでなく、女性や高齢者の活用が重要である。</li> <li>4) 少子化にともない、子どもに対する過保護が拡散しつつある。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 年少人口、生産年齢人口、高齢人口、従属人口指数、合計特殊出生率、合計結婚出生率、未婚率、「喪失」：身体的、感覚的—認知的、社会的、経済的、個人的—情緒的、親の私化（プライベートイゼーション）</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 労働力不足を解決するもう 1 つの方法は「外国人労働者」の導入である。</li> <li>2) 外国人労働者の立場や労働条件の劣悪さは、新たな社会病理現象を生み出している。</li> <li>3) 日本でも、最近、「多文化間精神医学」という学際的な学会が立ち上がっている。</li> <li>4) 社会の国際化にともなう病理現象を緩和するには、どのような施策が必要だろうか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 臨床精神医学増刊『高齢少子化時代の精神保健・医療』、国際医書出版、1998 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  このテーマはマクロ社会の病理の代表であるが、同時にミクロ社会の病理をさまざまに散開させている当のものでもあることに留意されたい。</p>
<p>8 . テ ー マ</p>	<p>情報化社会の特質と病理</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 情報化社会の特質自体および情報化にともなう人々の生活の変化は、それぞれに新たな社会病理現象を生み出しているといえる。ここでは、マクロなパースペクティブからいくつかの問題をとり出してみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報化社会では、情報や知識の陳腐化が激しいスピードで進行する。</li> <li>2) 情報量の増大に比例し、人々の情報選択の自由度が大幅に増大する。</li> <li>3) 情報の多元性、流動性は、価値観、規範、行動様式などの多元化、ファッション化をもたらす。</li> <li>4) 本能的・実用的欲求から感覚的・情動的欲求への変化が増進する。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 情報化、実用的（非選択的）機能、情動的（選択的）機能、情報のスクラップ・アンド・ビルト、マスコミ情報、映像的・視覚的メディア、擬似環境、仮想現実（ヴァーチャル・リアリティ）、情報の管理・統制、受け手の先有傾向（pre-disposition）</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 犯罪的、暴力的、性的情報内容の氾濫は、子どもたちにどのような影響を与えるか。</li> <li>2) マスコミによる擬似環境は、人々に感覚的な思考と理解、感覚的な反応のしかたを植えつける。</li> <li>3) マスコミ情報への接触量の大きさは、子どもたちにどのような影響を与えるか。</li> <li>4) 情報化によるプライバシー侵害の恐れに対しては、どのような施策が必要だろうか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> ノルベルト・ボルツ（山本 尤厄訳）『仮象小史—古代からコンピューター時代まで』、法政大学出版局、1999 年                  ノルベルト・ボルツ（識名章喜葉）『グーテンベルグ銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた』                  法政大学出版局、1999 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b>                  現代人の「活字ばなれ」について、マクロなパースペクティブに立って、社会病理学的な考察を展開してみよう。例えば、「映像の前景化と文字の背景化」と定式化した場合、はたしてどれほどの妥当性をもつだろうか。</p>
<p>9 . テ ー マ</p>	<p>都市化と環境（自然）破壊</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 都市ではさまざまな社会病理現象が見られる。都市化と裏合わせの過疎化の社会病理についても一瞥する。これらを解決するための施策についても思いをこらす。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 都市化（変化率）よりも、都市度（一定の水準）のほうが病理現象とよく相関する。</li> <li>2) 都市の「匿名性」は、さまざまな社会病理をはぐくむ母胎であるといえる。</li> <li>3) いわゆる「都会人」の社会的性格について、さまざまな意見を総合してみる。</li> <li>4) 都市への人口集中がもたらした過疎化も深刻な社会病理をもたらしている。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 都市化、都市度、人口の異質性、匿名性、インフォーマルな行動統制力の弱化、所得・地位・階層の分化、地域解体、スラム地区：大気汚染と地球の温暖化、廃棄物問題、水質汚濁、土壌汚染、生態系の破壊、騒音・振動</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 都市化の社会病理とからめて、環境（自然）破壊について認識を深めてみる。</li> <li>2) これは循環的に人間の生活に障害をもたらすもので、早急な対策がせまられる。</li> <li>3) 新聞やテレビで報道される事例について、具体的に論じてみる。</li> </ol>

	<p>4) 現代社会学におけるトピック「リスク社会論」からも学ぶことができるだろう。</p> <p>【参考文献】 このテーマについては、教科書として掲げた星野周弘『社会病理学概論』が創意あふれる整序を行っている。</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>日本社会精神医学会では、統合失調症と「都市化」との関連がよく問題にされる。統合失調症の軽症化ないし多様化はすでに既成事実属するが、この問題を論じるとなるとなかなかむずかしい。</p>
10. テーマ	家族病理その現象形態
	<p>【学習の目標】 ミクロ社会の病理の代表として、現代社会における「家族の危機」をとりあげる。親子関係のみならず、夫婦関係のそれにもいくつかの現代的形態がみられる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族病理現象は、家族の構造自体やその変化からも生じる。</li> <li>2) 家族がもっていた「家族機能」には、本来、どのような事柄が属していたか。</li> <li>3) 現代では、それらが大幅に減少し、他の機関に委ねられたりしている。</li> <li>4) 家族の脆弱性は、家族成員の行動の統制を困難にするという問題を生み出す。</li> </ol> <p>【キーワード】 核家族化、単親家庭 (one person family)、留守家族、老人家族、直系家族 (stem family)、拡大家族 (extended family)、母子家庭、家族解体、貧困家庭、夫婦間コンフリクト、ドメスティック・ヴァイオレンス (DV)、「配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律」(2001年)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 離婚数が年々漸増しているが、夫婦間コンフリクトの増加の反映と考えられる。</li> <li>2) 夫婦間コンフリクトへの対処法として、どのようなことが考えられるか。</li> <li>3) ドメスティック・ヴァイオレンス生成の背景となる家族の特質をいくつか列挙してみる。</li> <li>4) 家族はもはや「法の外部」ではなく、「法化対象」へと変貌している。</li> </ol> <p>【参考文献】 社会病理学講座第3巻 高橋正典ほか編『病める関係性—ミクロ社会の病理』、学文社 2004年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>社会病理学的なものの考え方にはとらわれずに、改めて「自分にとって家族とは何であるのか」と問うてみよう。</p>
11. テーマ	家族病理の影響と結果
	<p>【学習の目標】 家族の病理現象は、その成員にさまざまな逸脱行動をひき起こすことが多い。それらのうちの主なものをとりあげ、また、いくつかの精神疾患にも眼を配る。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非行少年の家族的特徴について、臨床心理学的に整序してみる。</li> <li>2) 離婚には当事者を苦悩から解放するという機能もあり、この点が他の病理現象とは異なっている。</li> <li>3) 家出のいくつかのタイプを家族病理に関連させつつ類別してみる。</li> <li>4) 心中や近親者殺しは、「死」による家族緊張の解消であり、家族病理のもっとも悲惨な産物である。</li> </ol> <p>【キーワード】 子どもの非行化、離婚、自殺、家出と蒸発、心中、近親者殺し・嬰兒殺・不登校、ひきこもり、摂食障害 (eating disorder)、性同一性障害 (gender identity disorder)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家庭から学校へと眼を転じ、「不登校」という現代日本における重大な社会問題を取りあげる。</li> <li>2) それとの関連で、いわゆる「ひきこもり」についても議論を展開してみる。</li> <li>3) 家族療法的配慮が必要とされる「摂食障害」について、社会病理学的に検討してみる。</li> <li>4) やや話がずれるが、「性同一性障害」をめぐる構築主義者たちの議論を批判してみよう。</li> </ol> <p>【参考文献】 社会病理学講座第3巻、高原正興ほか編『病める関係性—ミクロ社会の病理』、学文社、2004年 切池信夫『摂食障害—食べない、食べられない、食べたら止まらない』、医学書院、2000年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>昨今、しきりと家族の命運を危ぶむ向きも多いが、家族こそ「最後に残るもの」という考え方も抗がりつつあるように思われる。なお、今年度は、10と11のテーマに関連して、国立病院機構仙台医療センター精神科部長、岡崎伸郎先生による特別授業「精神保健福祉法 2013年改正における保護者制度の廃止をめぐって」が行われる予定である。</p>
12. テーマ	非行集団、宗教団体など
	<p>【学習の目標】 集団の病理として、「非行集団」と「宗教団体」の2つを取りあげる。犯罪と非行の原因論については、教科書として掲げた星野周弘の『社会病理学概論』の第5章をよく読んで、自習すること。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非行集団は親・子、教師・生徒のような垂直的な社会作用にではなく、水平的なそれにもとづく。</li> <li>2) 最大の特徴は、その成員達に共有される支配的な文化に対する反応のしかたである。</li> <li>3) 支配的な文化への反動形成として、独特な副次文化を発達させる。</li> <li>4) 日本における典型的な非行集団「暴走族」について、具体的に検討してみる。</li> </ol> <p>【キーワード】 非行集団 (delinquent gang)、仲間集団 (peer gang)、サブカルチャー (副次文化)、街頭家族 (street-corner-family)、暴走族、既成宗教、新宗教、カルト、「剥奪」、オウム真理教、超常現象、テレパシー、念力、「回心」、教祖 (カリスマ)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オウム真理教は「信」の宗教ではなく、「術」の宗教であるといわれている。</li> <li>2) 呪術的宗教は、狂信的行為に走りやすく、戦争すらひき起こしやすいという。</li> <li>3) 当時のメディア報道資料をひもといて、あの忌まわしい事件について社会病理学的に考察してみる。</li> <li>4) 宗教における「信者」と「教祖」とではどういう違いがあるのか、みんなで考えてみよう。</li> </ol> <p>【参考文献】 資料として、イマーゴ臨時増刊『オウム真理教の深層』、青土社、1995年 別冊宝島229『オウムという悪夢 (同世代が語る「オウム真理教」論)』、宝島社、1995年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>この機会に、日本を代表するエスノグラファー、佐藤郁也氏の『暴走族のエスノグラフィー』の一読を奨める。新宗教についてこれに匹敵する名著があるかどうか、教員自身は残念ながらあげることができない。</p>

1 3 . テ ー マ	現代日本における児童虐待の諸相
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>2000 年の「児童虐待の防止等に関する法律」の施行以降、世間の関心の高まりが反映したのか、児童相談所が処理する相談件数は増え続けているようである。社会構築主義者たちの主張も、この点に関してはあながち不当とは言えないかもしれない。</p> <p>1) 児童虐待が生じる要因については、実にさまざまなものが考えられるが、可能な限り列挙してみる。</p> <p>2) 虐待の種類、被虐待児の年齢、虐待者の属性などのデータから、どのようなことがうかがえるか。</p> <p>3) 社会構築主義者の言うとおり、児童虐待の絶対数は昔と比べてそれほどは変わっていないだろう。</p> <p>4) しかし、児童虐待の発生メカニズムについては、けっして昔と同じではないはずである。</p> <p>身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、マルトリートメント、被虐待児の病態：外傷後ストレス障害（PTSD）、愛着障害、非特異的な問題、注意欠陥多動性障害（ADHD）、福祉的対応と司法的対応、通告義務、</p> <p>1) 虐待者の動機としてどんなものがあるのか、できるだけ最近のデータにあたって考えてみる。</p> <p>2) 臨床心理士として、あるいは社会福祉士として、どのような介入がありうるか、いくつかの事例にあたってみる。</p> <p>3) この問題に関する社会構築主義的アプローチについて、代表的な論文にあたってみる。</p> <p>4) 背景要因としてベックのいう意味での「リスク社会」を想定し、このテーマについて考えてみる。</p> <p>上野加代子著『〈児童虐待〉の構築』、世界思想社、2003 年</p> <p>井上真理子著『ファミリー・バイオレンス—子ども虐待発生のメカニズム』、晃洋書房、2005 年</p> <p>教員自身、精神科医として児童虐待の事例を経験しており、児童相談所をはじめ実に多様な専門職との連携を図ったことがある。臨床社会学という分野に学問的市民権を与えるうえでも、この問題をどのように考えるかが試金石になるといえるだろう。</p>
1 4 . テ ー マ	現代日本における自殺者数の増加をどう考えるか
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>自殺は社会問題化や「言説」性があまり強調されない伝統的・不変的な社会病理現象であるが、1998 年以降、日本では年間自殺者が 3 万人を超え続けており、2006 年 6 月には自殺対策基本法が成立した。</p> <p>1) デュルケムによる自殺の定義、およびその分類について学習する。</p> <p>2) デュルケムによれば「自殺は個人の属している社会集団の統合の強さに反比例して増減する」という。</p> <p>3) その後、「社会集団の統合」という概念は、さまざまな変数に置き換えられていく。</p> <p>4) それらは都市化・産業化の進展にともなう社会移動の激化を背景にしたものである。</p> <p>自己本位的自殺(egoistic suicide)、集団本位的自殺(altruistic suicide)、アノミー的自殺(anomic suicide)、宿命論的自殺(fatalistic suicide)、日本の自殺統計、第三の自殺多産期（ピーク）、高齢者の自殺、過労自殺、エイジズム</p> <p>1) 現代日本の自殺にデュルケムの 4 類型をあてはめてみよう。</p> <p>2) 自殺をめぐる日本に独自の社会的・文化的背景について考えてみよう。</p> <p>3) 自殺者の多くが、うつ病やアルコール乱用などの精神医学的問題をかかえている。</p> <p>4) 死別・離別・未婚の男性の自殺率が女性に比べて非常に高いのはなぜだろうか。</p> <p>5) 近年、自殺既遂例に対する「心理学的解剖」がよく話題になるが、どのようなものか一瞥しておこう。</p> <p>エミール・デュルケム（宮島 喬訳）『自殺論』中公新書、1985 年</p> <p>社会病理学講座第 3 巻、高原正興ほか編『病める関係性—マイクロ社会の病理』学文社、2004 年</p> <p>援助専門職をめざす院生諸君にとって、もしクライアントに「自殺したい」と打ち明けられたらどうするか、ということとは切実な問題であろう。自殺リスクの評価と具体的な介入法については、米国精神医学会の治療ガイドラインなどを参照してほしい。</p>
1 5 . テ ー マ	精神医療とフーコーの生・権力論
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>心理職にとっても福祉職にとっても、精神医療をマクロ・マイクロリンクの視点から相対化してみることは重要な意義をもつ。なぜなら、その国の文化度を測る尺度として、精神医療こそがもっとも鋭敏なセンサーとして働くからである。</p> <p>1) フーコーは「死なせるか、生きるままにしておく」という「古い法／権利」から説き起こしている。</p> <p>2) ここでは、生は「不作為 (laisser)」の結果として、死は「作為 (faire)」の結果としてもたらされる。</p> <p>3) フーコーによれば、生・権力は「生きさせるか、死の中へ廃棄するという権力」として定義される。</p> <p>4) ここでは、生が「作為 (介入)」の結果として、死が「不作為 (不介入)」の結果として現出する。</p> <p>生・権力 (バイオ・パワー)、生政治、人口、統治性、新自由主義 (ネオリベラリズム)、セキュリティの装置、リスク管理、「経済人 (ホモ・エコノミクス)」、環境犯罪学、人種主義、ホロコースト、安楽死計画、医療観察法、自立支援法</p> <p>1) なぜ人びとを「生きさせる」はずのものが人びとを「死の中へ廃棄する」ことになると言えるのだろうか。</p> <p>2) この矛盾を解消するために、フーコーは「人種主義」というメカニズムに注目している。</p> <p>3) 第一次大戦とナチズムの時代、精神病者の大量餓死が生じたという事実を歴史的に検証してみる。</p> <p>4) この極端な事例は、どのようなロジックのもとで、医療観察法と自立支援法以降の日本の精神医療にも投影可能になるか。</p> <p>市野川容孝：生・権力論再論—餓死という殺害。現代思想 35 巻 11 号、78—99、2007 年</p> <p>M.フーコー（慎改康之訳）『生政治の誕生』、筑摩書房、2008 年</p> <p>本テーマについては、昨年、東京大学大学院総合文化研究科の市野川容孝先生に特別授業を行ってもらった。そのさいに配布されたパワーポイントのハンドアウトを再使用するかたちで授業を進めるつもりである。</p>



1. 科目名 (単位数)	障害者 (児) 心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5226
2. 授業担当教員	中里 克治		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	障害は先天性や発達障害をふくむが、障害の受傷は中年期以降急激に増加し、高齢期では人口のかかなりの割合が障害をもつようになる。そこで、先天性や早期に発生した障害をもつ子どもたちの理解と支援を最初に学ぶ。ついで、成人期とりわけ高齢期の障害とそれに対する援助を学んでゆく。		
8. 学習目標	障害について基本的な知識を学び、援助の方法を身につける。障害の分類と理念とについて学ぶ。次いで、脳・神経系の機能と、その障害について十分な知識を身につける。さらに、各種障害の特性とその心理について課題研究を中心に学習する。さらに障害児・者と、彼らを取り巻く周囲の人々の心理を考え、その支援について、臨床心理学の立場からの学習を深め、実践研究を取り上げる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】中村義行・大石史博編『障害臨床学ハンドブック』第 2 版 ナカニシヤ出版。 下仲順子編『高齢者の心理と臨床心理学』培風館。		
11. 成績評価の方法	課題研究・課題発表 40% 論文 40% (通信教育は論文 100%) 授業への参加意欲・態度 20%		
12. 受講生への メッセージ	統合教育や障害者自立支援法は、理念としては障害を個性と考える立場に立つように見えるが、実際には障害特性や個性に対して十分な配慮がされていない。欧米諸国などの研究や経験を十分に取り入れて、それを日本の社会に適した形にして生かしてゆく努力、また、臨床経験を互いに共有する努力が今必要とされている。		
13. オフィスアワー	必要に応じて個別にアポイント		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	障害とは何か		
	【学習の目標】 障害の概念について理解する。 【学習の内容】 障害の理念と分類について学ぶ。 【キーワード】 WHO、国連の「障害者の権利宣言」、日本の「障害者基本法」の障害についての理念を理解する。 ICIDH、ICF などの分類を学ぶ。 【学習の課題】 障害を定義、考え方から理解する。 【参考文献】 ICD-10、DSM-5、障害者福祉法 【学習する上での留意点】 多くの資料から検討する。		
2. テーマ	知的障害		
	【学習の目標】 知的障害者とはどういう人かを知る。 【学習の内容】 知的障害の定義、原因について学ぶ。 知的障害をもつ人の心理的特徴と今までの臨床実践と研究について学ぶ。 【キーワード】 AAID, Normalization, ダウン症 【学習の課題】 知的障害児・者の福祉、教育における実践報告を調べる。		
3. テーマ	自閉症スペクトラム障害		
	【【学習の目標】 自閉症者とはどういう人かを知る。 【学習の内容】 自閉症スペクトラム障害の定義、原因について学ぶ。 自閉症スペクトラム障害をもつ人の心理的特徴と今までの臨床実践と研究について学ぶ。 【キーワード】 自閉症スペクトラム障害, TEACCH プログラム 【学習の課題】 自閉症スペクトラム障害児・者の福祉、教育における実践報告を調べる。		
4. テーマ	多動性障害と学習障害		
	【学習の目標】 多動性障害と学習障害などについて学ぶ。これらの障害を持った人のことは未解決の問題が多いが、実践報告は少ない。論文・報告を読み、発表と討議を行う。 【学習の内容】 学習障害と多動性障害の症状、診断、治療的アプローチ 【キーワード】 DSM-5、学習障害、注意欠陥/多動性障害 【学習の課題】 多動性障害と学習障害の臨床事例報告を読む。		
5. テーマ	運動障害と重複障害		
	【学習の目標】 運動障害は肢体不自由ともいい、身体障害の代表的なものである。運動障害児・者の世界を理解し、その支援法を学ぶ。 【学習の内容】 運動障害はさまざまな原因から生じる。子どもでは脳性まひ、中年期と老年期では怪我と脳血管障害である。それぞれにどのような特徴を持つかを学習する。 【キーワード】 脳性まひ、肢体欠損、脳血管障害 【学習の課題】 ライフステージ毎の運動障害の発生と問題点を調べる。		
6. テーマ	言語障害・高次脳機能障害		
	【学習の目標】 言語障害・高次脳機能障害とはどのようなものかについて学ぶ。 【学習の内容】 2 つとも中年期以降に増加するが、言語障害は子供にも認められ、その場合発達と絡めた対応が必要となる。それぞ		

	れにどのような特徴を持つかを学習する。 【キーワード】 言語障害、失語症、高次脳機能障害、若年性認知症 【学習の課題】 言語障害・高次脳機能障害の発生と問題点を調べる。
7 . テ ー マ	聴覚障害・視覚障害・病弱・身体虚弱
	【学習の目標】 聴覚障害・視覚障害・病弱・身体虚弱それぞれの特徴と障害に伴う心理を学ぶ。 【学習の内容】 感覚障害は情報の取り込みが難しくなる。病弱・身体虚弱は他人にはわからない面が多い。その立場になって考えてみることからの理解と支援。 【キーワード】 聴覚障害、視覚障害、病弱、身体虚弱 【学習の課題】 学習してゆく。
8 . テ ー マ	情緒障害・愛着障害
	【学習の目標】 情緒障害・愛着障害とそれに伴う様々な症状について学ぶ。 【学習の内容】 情緒の機能とその障害、習癖とそれに関連する症状、チック、愛着の発達その障害、児童虐待について学ぶ。 【キーワード】 情緒障害、愛着障害、チック、児童虐待 【学習の課題】 愛着の発達について、母子関係の変化としてまとめてみよう。
9 . テ ー マ	早期発見と早期療育
	【学習の目標】 早期発見、早期療育のために何が必要かを学ぶ。 【学習の内容】 学齢期以前の障害児への対応について学ぶ。 【キーワード】 早期発見・早期療育システム、早期療育、統合保育 【学習の課題】 年齢、障害の多様化を理解し、育てにくい子どもとその保護者に対する働きかけを学ぶ。 【学習する上での留意点】 地域で実施している実際の施策を知るなど具体的な方策を考える。
10 . テ ー マ	中途障害の心理と支援
	【学習の目標】 障害の発生は年齢が上がるにつれて、J字型に増加してゆく。ライフステージ毎の障害の受容と支援のあり方を学ぶ。 【学習の内容】 中途障害の心理の理解と支援。脊髄損傷の心理の理解と支援。 【キーワード】 障害受容、障害の告知 【学習の課題】 運動障害や感覚障害などさまざまな障害が、年齢が上がるにつれて増加してゆく。障害の理解と支援を年齢との対応で学習してゆく。
11 . テ ー マ	障害児・者の家族の支援
	【【学習の目標】 身近に障害を抱えた人がいる場合、親・きょうだいたちはどういった心理状態にいるのか、どういった支援が必要なのかを学び、実習する。 【学習の内容】 1) 障害児の親・家族の心理について、障害受容、ストレス・コーピング等について学ぶ。 2) 親・家族の支援について事例を中心に学ぶ。 【キーワード】 告知、障害受容、ライフサイクル 【学習の課題】 障害者の親のグループ、きょうだいの会、リハビリテーション
12 . テ ー マ	高齢期と加齢
	【学習の目標】 高齢期の特徴と加齢現象を理解する。 【学習の内容】 65 歳以上を高齢者とした時、老年期は非常に長い時期である。前期と後期の違い、あるいは正常加齢、病的加齢、終末低下などの観点から老年期の発達を理解する。 【キーワード】 前期高齢期、後期高齢期、正常加齢、病的加齢、終末低下 【学習の課題】 高齢期における知能とパーソナリティの正常加齢について理解する。 【参考文献】 高齢者の心理と臨床心理学 下仲順子編 培風館
13 . テ ー マ	認知症の心理と支援
	【学習の目標】 認知症とその支援法を学習する。 【学習の内容】 認知症 【キーワード】 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、回想法、リアリティ・オリエンテーション 【学習の課題】 認知症のタイプによる症状や対応の仕方の違いを学ぶ。 【参考文献】 高齢者の心理と臨床心理学 下仲順子編 培風館
14 . テ ー マ	死とその受容
	【学習の目標】 死と死の受容について理解する。 【学習の内容】 障害は死と密接に結びついている。高齢者だけでなく、障害児もまた死を身近に感じている。死の受容について学び、どのような支援が有効であるかを考える。 【キーワード】 死の受容、ホスピス、緩和ケア、死別 【学習の課題】 子どもの死の受容について論文を調べてみよう。 【参考文献】 高齢者の心理と臨床心理学 下仲順子編 培風館
15 . テ ー マ	高齢期の適応
	【学習の目標】 高齢期の適応の理論、適応の在り方について学ぶ。 【学習の内容】 活動理論と離脱理論、人格特性と加齢への適応の関係、幸福感との関係、性役割、回想と心理的適応などについて学ぶ。 【キーワード】 活動理論、離脱理論、適応タイプ、性役割、回想 【学習の課題】 パーソナリティと適応との関係について学習してゆく。 【参考文献】 高齢者の心理と臨床心理学 下仲順子編 培風館

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5245
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	心理学の研究法について、要因計画法を核とした心理学的実証法を体系的に学び、各研究法の長所・短所を理解し、修論研究の実践で役立てる。		
8. 学習目標	心を見つめる科学としての実証的研究法を学習し、各自の研究課題に適用して考えることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマについて、まとめて発表する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣 【参考書】村井潤一郎編著『心理学研究法』サイエンス社		
11. 成績評価の方法	レポート 80%、討論への参加度 20% (通信教育はレポート 100%)		
12. 受講生への メッセージ	心理学の研究の難しさを味わってほしい。		
13. オフィスアワー	授業後 3 時間		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	科学と実証		
	【学習の目標】心理学における実証の意味が理解できる。 【学習の内容】実証の重要性、因果と説明、実証のロジックなどについて学ぶ。 【学習の課題】第 1 章をまとめる。 【学習する上での留意点】例を出して説明できるようにする。		
2. テーマ	実験と観察		
	【学習の目標】研究法を 2 分した場合の実験と観察の違いが説明できる。 【学習の内容】例として「暴力番組の影響」の研究について、また実証の論理構造について学ぶ。 【学習の課題】第 2 章をまとめる。 【学習する上での留意点】具体的に、また自身の経験から考察するようにする。		
3. テーマ	実証の手続き		
	【学習の目標】実際に簡単な実証手続きができるようになる。 【学習の内容】変数と手続きの関係、手続きの妥当性と信頼性などについて学ぶ。 【学習の課題】第 3 章をまとめる。 【学習する上での留意点】自分自身の興味あることや疑問を感じることにについて、実証的に考えてみる。		
4. テーマ	独立変数の操作 (1)		
	【学習の目標】独立変数の操作が大体できるようになる。 【学習の内容】独立変数の種類、純化と多重操作、独立変数の操作とインパクトなどについて学ぶ。 【学習の課題】第 4 章の前半をまとめる。 【学習する上での留意点】実際に自分で考えた独立変数について操作してみる。		
5. テーマ	独立変数の操作 (2)		
	【学習の目標】独立変数の操作が完全にできるようになる。 【学習の内容】手続きの標準化、妥当性などについて学ぶ。 【学習の課題】第 4 章の後半をまとめる。 【学習する上での留意点】前時の自分で考えた独立変数についてさらに深く考える。		
6. テーマ	従属変数の測定 (1)		
	【学習の目標】従属変数の様々な測定ができるようになる。 【学習の内容】従属変数の種類、測定の信頼性と妥当性などについて学ぶ。 【学習の課題】第 5 章の前半をまとめる。 【学習する上での留意点】自分の経験から種々の具体例を考えるようにする。		
7. テーマ	従属変数の測定 (2)		
	【学習の目標】従属変数の測定がいろいろと考えられる。 【学習の内容】さまざまな手続き化と選択について学ぶ。 【学習の課題】第 5 章の後半をまとめる。 【学習する上での留意点】独立変数と合わせて考えてみよう。		
8. テーマ	剰余変数の統制 (1)		
	【学習の目標】剰余変数の統制について理解できる。 【学習の内容】統制の原理、個体差変数の統制などについて学ぶ。 【学習の課題】第 6 章の前半をまとめる。		

【学習する上での留意点】具体的に考えて見る。	
9 . テーマ	剰余変数の統制 (2)
【学習の目標】剰余変数の統制ができる。 【学習の内容】個体内変動の統制、直接的な統制などについて学ぶ。 【学習の課題】第 6 章の後半をまとめる。 【学習する上での留意点】本テーマと創造性との関係について考えてみよう。	
10 . テーマ	さまざまな実験法 (1)
【学習の目標】ここでのさまざまな実験法を使った簡単な実験計画が立てられる。。 【学習の内容】実験室実験、質問紙実験、現場実験と自然実験などについて学ぶ。 【学習の課題】第 7 賞の前半をまとめる。 【学習する上での留意点】仮想実験を試してみる。	
11 . テーマ	さまざまな実験法 (2)
【学習の目標】ここでのさまざまな実験法を用いた具体例をいくつか考えられるようになる。 【学習の内容】準実験 (横断的比較、縦断的比較)、単一事例実験などについて学ぶ。 【学習の課題】第 7 賞の後半をまとめる 【学習する上での留意点】いろいろな実験法を相互に比較する。	
12 . テーマ	調査法
【学習の目標】よい質問紙を作成できるようになる。 【学習の内容】調査法の必要性、質問紙調査の実施方法、質問文の作成と尺度構成などについて学ぶ。 【学習の課題】第 10 章をまとめる。 【学習する上での留意点】調査法の長所短所、あるいは功罪を考えてみよう。	
13 . テーマ	観察法
【学習の目標】適切に観察ができるようになる。 【学習の内容】観察法の必要性、種類、データ収集、結果の解釈などについて学ぶ。 【学習の課題】第 11 章をまとめる。 【学習する上での留意点】観察法はやさしいようで難しいのはなぜか、考えてみる。	
14 . テーマ	検査法
【学習の目標】いろいろな検査法を理解する。 【学習の内容】検査の種類、検査の妥当性・信頼性、検査の標準化などについて学ぶ。 【学習の課題】第 12 章をまとめる。 【学習する上での留意点】これまで自分の経験した検査について、その時のことを思い出してみよう。	
15 . テーマ	面接法
【学習の目標】よい面接と悪い面接の違いがわかる。 【学習の内容】面接法と言葉、面接法の種類、面接者と被面接者、データの分析などについて学ぶ。 【学習の課題】第 13 章をまとめる。 【学習する上での留意点】面接者と被面接者の経験をして、わかったことについて話合う。	

1. 科目名 (単位数)	心理学総論特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6266
2. 授業担当教員	大澤 靖彦・松坂 秀雄・大島 朗生・岡本 香 加藤 宏一・齋藤 瞳・新井 雅人		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	臨床心理学及び臨床心理学的援助の背景にある広範な心理学領域について、基本的な知識を体系的に学ぶ。また、臨床心理学的援助に必要な法律と社会的制度および実践活動における倫理についての理解を深め、実践活動に必要な考え方と視点を習得する。		
8. 学習目標	1. 心理学における全般的な基礎的知識を習得する。 2. 臨床心理学における心理面接、心理査定、地域援助、そして研究活動についての基本的知識を学ぶ。 3. 臨床心理学的援助の実践活動に必要な法律および社会制度についての知識を習得する。 4. 心理臨床における実践と研究上の倫理について学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 講義内容について、あらかじめ教科書のページ指定を行うので、必ず予習を行い、該当する内容を理解した上で授業に臨むこと。 2. 基本的な事項を十分に習得する必要があるために、毎回の授業で小テストを行う。 3. 学年の終わりに、単位認定試験を行う。 4. 出席を重視する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ※特に使用せず、必要に応じて随時プリントを配布する。 【参考書】 手島茂樹・渡邊映子『スタンダード心理学—基礎から応用まで—』おうふう、2014 年		
11. 成績評価の方法	期末試験 50% 毎回の授業目標習得度 (小テスト結果等) 50%		
12. 受講生への メッセージ	知識を幅広く身につけることが目的である。深入りしすぎず、全体を概観するよう心がけること。また、専門用語も多いが、その用語が表していることを自分なりの言葉で説明できるようになることが望ましい。		
13. オフィスアワー	初回の授業において各担当教員のオフィスアワーを伝える。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1 . テ ー マ	オリエンテーション・学習の進め方、心理学概論①知覚		
	【学習の目標】 知覚分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、知覚分野の主要な知識を確認し、人間がいかにか外界の情報を処理しているか、その特徴ある情報処理の仕方を学ぶ。 【キーワード】 知覚、錯視、認知、ゲシュタルトなど 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。		
2 . テ ー マ	心理学概論②学習・記憶		
	【学習の目標】 学習・記憶分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、学習、記憶分野の主要な知識を確認し、人間がいかにか外界の情報を処理しているか、その特徴ある情報処理の仕方を学ぶ。そして、その特徴から、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。 【キーワード】 条件付け、短期記憶、長期記憶、作動記憶など 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。		
3 . テ ー マ	心理学概論③発達		
	【学習の目標】 発達分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、発達分野の主要な知識を確認する。生涯発達の観点から、人間の生まれてから死ぬまでの発達課題やそれに伴う問題を押さえておく。 【キーワード】 発達課題、乳幼児期、老年期、エリクソン、ピアジェなど 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。		
4 . テ ー マ	心理学概論④欲求・感情		
	【学習の目標】 欲求・感情分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、欲求・感情分野の主要な知識を確認する。基本的な感情や欲求の特徴から、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。 【キーワード】 親和欲求、達成欲求、フラストレーション、感情、ジェームズズーラング仮説など 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。		
5 . テ ー マ	心理学概論⑤自己・集団		
	【学習の目標】 自己・集団分野に関する心理学の基本的知識を身につける。 【学習の内容】 心理学の基本的な知識として、自己・集団分野の主要な知識を確認する。人間が自分や他者をどのようにとらえているかを初め、リーダーシップや同調行動などの集団社会における心理学的トピックをとりあげる。 【キーワード】 自己意識、態度、マインドコントロール、社会的促進、同調行動、リーダーシップなど 【学習の課題】 基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。		

6 . テ ー マ	心理学概論⑥対人認知
<p>【学習の目標】対人認知分野に関する心理学の基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】心理学の基本的な知識として、攻撃や援助といった対人関係もとりあげ、人の心ならではの働きというものを知り、将来臨床的な心理学を学ぶときに備える。</p> <p>【キーワード】援助、攻撃など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p>	
7. テ ー マ	心理学研究法①要因計画法
<p>【学習の目標】科学としての実証的研究法を学習する。</p> <p>【学習の内容】心理学の研究法について、要因計画法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】実験計画、独立変数、従属変数、剰余変数の統制など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】高野陽太郎・岡隆編 2004 心理学研究法 有斐閣</p>	
8 . テ ー マ	心理学研究法②研究法
<p>【学習の目標】科学としての実証的研究法を学習する。</p> <p>【学習の内容】心理学の研究法について様々な心理学の実証法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】調査法、観察法、検査法、面接法など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】高野陽太郎・岡隆編 2004 心理学研究法 有斐閣</p>	
9 . テ ー マ	心理統計法①統計的検定
<p>【学習の目標】心理統計法における統計的検定に関する基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】臨床心理学の一要件として求められている統計法について学ぶ。特に、学生が各々の修士論文を作成するにあたり、必要となる統計の技術について、具体的に学ぶ。</p> <p>【キーワード】尺度水準、代表値、相関、テストの信頼性・妥当性、統計的検定など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】山田剛史・村井潤一郎 2004 よく分かる心理統計 ミネルヴァ書房</p>	
10. テ ー マ	心理統計法②多変量解析
<p>【学習の目標】心理統計法における多変量解析に関する基本的知識を身につける。</p> <p>【学習の内容】それぞれが多変量解析の手法について、その特色を知り、それぞれどのようなことを調べるのに応用できるかを知る。</p> <p>【キーワード】重回帰分析、主成分分析、因子分析、正準相関分析、判別分析など</p> <p>【学習の課題】基本的な概念について、問題を解きながら確認を行う。</p> <p>【参考文献】湧井良幸・湧井貞美 2001 図解でわかる多変量解析 日本実業出版</p>	
11. テ ー マ	臨床心理査定概説
<p>【学習の目標】臨床心理行為全般における臨床心理査定の意義や位置づけを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】1. 主訴・問題歴・生育歴等の把握方法 2. 「見立て」を持って面接を進めることの意義 3. 面接・観察・調査の方法論</p> <p>【キーワード】臨床心理行為、臨床心理査定、査定面接、問題と個人史の把握</p> <p>【学習の課題】「ひと」を「全人的に理解しようとする」ということを理解する。主訴・問題歴・生育歴等の把握方法について考察する。面接者の態度や自分の面接者としての課題を知る。</p> <p>【参考文献】松原達哉他 2007 臨床心理学シリーズ③臨床心理アセスメント 培風館</p>	
1 2 . テ ー マ	様々な臨床心理査定技法①
<p>【学習の目標】面接・観察・調査による臨床心理査定技法による技法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】調査・観察・面接に関する学習</p> <p>【キーワード】調査法、行動観察、面接査定、参加観察</p> <p>【学習の課題】臨床心理査定に当たって必要な技能である観察・面接・質問紙法の基礎知識の確認をする。</p> <p>【参考文献】上里一郎 2001 心理アセスメントハンドブック 西村書店</p>	
1 3 . テ ー マ	様々な臨床心理査定技法②
<p>【学習の目標】質問紙法・作業検査法による技法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】1. 質問紙法に関する学習 2. 作業検査法に関する学習</p> <p>【キーワード】調査法、行動観察、面接査定、参加観察、質問紙法、作業検査法</p> <p>【学習の課題】臨床心理学において代表的な質問紙法と作業検査法を概観する。</p> <p>【参考文献】上里一郎 2001 心理アセスメントハンドブック 西村書店</p>	
1 4 . テ ー マ	投影法
<p>【学習の目標】書かれた事柄や描かれた事柄、語られたイメージなどから「ひと」を理解する技法について、理論、技法、解釈を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】1. 投影法とは何かについて基礎を学ぶ。 2. 書かれた事柄による人間理解の技法を学ぶ。 3. 描かれた事柄による人間理解の技法を学ぶ。</p>	

	<p>4. 語られたイメージによる人間理解の技法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 投影法、客観性、イメージの言語化</p> <p>【学習の課題】 投影法の理論を学ぶ。検査結果の解釈について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 各検査のマニュアル</p>
15～16. テーマ	臨床心理学的援助の基本
	<p>【学習の目標】 臨床心理学的援助の基本的態度について理解する。</p> <p>【学習の内容】 心理臨床の現場における自分のあり方や考え方を振り返る視点を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 フォーカシング、スーパーヴィジョン</p> <p>【学習の課題】 心理臨床活動ベースとなる自分のあり方を振り返る視点を持つ。</p> <p>【参考文献】 神田橋條治 1990 精神療法面接のコツ 岩崎学術出版</p>
17～18. テーマ	ケース・マネージメント
	<p>【学習の目標】 ケース・マネージメントと治療契約、治療同盟について理解する。</p> <p>【学習の内容】 治療構造と行動化について理解を深める。</p> <p>【キーワード】 治療契約、治療同盟、病態水準</p> <p>【学習の課題】 1 ケース・マネージメントについて理解し、基本事項を習得する。</p> <p>【参考文献】 国分康孝 1979 カウンセリングの技法 誠信書房</p>
19～20. テーマ	面接過程
	<p>【学習の目標】 臨床心理学的援助における面接過程に見られる様々な問題を理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 初回面接の見立て 2. 面接中期の展開と諸問題 3. 終結の見極め</p> <p>【キーワード】 見立て、抵抗、転移、逆転移、終結、リファー</p> <p>【学習の課題】 臨床心理面接の過程で起こる諸問題の対応について考察する。</p> <p>【参考文献】 国分康孝 1979 カウンセリングの技法 誠信書房</p>
21. テーマ	心理療法概論①
	<p>【学習の目標】 心理療法について理解する。</p> <p>【学習の内容】 心理療法とはいかなる営みであるのかを概説する。心理療法各論として、心理療法を大きく4つの立場に分けて、それぞれの立場の考え方の特徴を概説する。その内の二つの立場として①精神分析的な立場、②行動主義的な立場に関して理解を深める。</p> <p>【キーワード】 心理療法、精神療法、カウンセリング、精神分析、行動主義</p> <p>【学習の課題】 心理療法という概念の地図を作る。</p> <p>【参考文献】 松原達哉 2004 臨床心理学 ナツメ社</p>
22. テーマ	心理療法概論②
	<p>【学習の目標】 心理療法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 心理療法とはいかなる営みであるのかを概説する。心理療法各論として、③人間中心的な立場、④システム論的な立場の2つに関して理解を深める。</p> <p>【キーワード】 来談者中心療法、システム論</p> <p>【学習の課題】 内外の様々な療法について理解する。</p> <p>【参考文献】 松原達哉 2004 臨床心理学 ナツメ社</p>
23. テーマ	心理療法各論①
	<p>【学習の目標】 精神分析的な立場について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 精神分析的な立場の骨子を理解する。</p> <p>【キーワード】 精神分析理論、無意識</p> <p>【学習の課題】 無意識について考察を深める。</p> <p>【参考文献】 前田重治 1978 心理療法の進め方 創元社</p>
24. テーマ	心理療法各論②
	<p>【学習の目標】 行動主義的な立場について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 行動主義的な立場の骨子を理解する。</p> <p>【キーワード】 学習理論、行動</p> <p>【学習の課題】 行動療法と認知行動療法の違いについて考察する。</p> <p>【参考文献】 山上敏子 1997 行動療法2 岩崎学術出版</p>
25. テーマ	心理療法各論③
	<p>【学習の目標】 人間中心主義的な立場について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 人間中心主義的な立場の骨子を理解する。</p> <p>【キーワード】 現象学、パーソン・センタード、自己一致</p> <p>【学習の課題】 理論を理解するとともに傾聴について理解を深める。</p> <p>【参考文献】 佐治守夫・飯長喜一郎編 1983 クライアント中心療法 有斐閣新書</p>

26 . テーマ	心理療法各論④
【学習の目標】	システム論的な立場について理解を深める。
【学習の内容】	システム論的な立場の骨子を理解する。
【キーワード】	システム論、家族療法
【学習の課題】	具体的な問題解決を目指した治療的介入について学ぶ。
【参考文献】	遊佐一郎 1984 家族療法入門 星和書店
27～28 . テーマ	(講義・演習) 地域援助
【学習の目標】	臨床心理士の仕事の 4 領域の一つである地域援助について理解する。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティにおける臨床心理士の仕事</li> <li>2. 学校や産業領域での臨床心理士の仕事</li> <li>3. 危機介入と PTSD</li> <li>4. 社会問題への支援 (子育て、ニート、高齢者、自殺等)</li> </ol>
【キーワード】	コミュニティ、緊急支援、PTSD
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティの中での臨床心理士の活動について理解する。</li> <li>2. 昨今の社会問題に対する支援について理解する。</li> </ol>
29～30 . テーマ	(講義・演習) : 法律・倫理
【学習の目標】	法律の改正を中心に臨床心理士が理解すべき法律、および職業人としての倫理についての理解を深める。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉法</li> <li>2. 少年法 (少年院法)</li> <li>3. 児童福祉法・児童虐待防止法・DV 防止法</li> <li>4. 臨床心理士の倫理</li> <li>5. 守秘義務とインフォームド・コンセント</li> </ol>
【キーワード】	法律の改正、倫理問題
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法律の改正について理解する。</li> <li>2. 臨床心理士の倫理について理解する。</li> </ol>



1. 科目名 (単位数)	心理統計法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5246
2. 授業担当教員	岡本 香		
4. 授業形態	講義、演習、実習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	可能な限り、1年次に履修することが望ましい。	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	心理統計法とは、心理学の研究を行うために必要な統計学の理論と方法のことを意味します。本科目では、修士論文を書くのに必要な高度な統計技法を概説します。具体的には、実験や心理尺度等を用いて収集したデータについて解析するための方法 (因子分析、分散分析、回帰分析等の多変量分析、因果の推定法と共分散構造分析等) を学びます。また統計解析ソフトを利用して、実際のデータ分析を体得するとともに、論文への記載方法の習得も目指します。		
8. 学習目標	① 多変量解析法を理解すること。 ② 目的や収集したデータの性質に合わせた分析方法を選択できるようになること。 ③ 分析結果を適切に文章化できるようになること。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業における理解を深めるために、教科書や配布資料の予習をしてください。学部で開講されている心理統計学の科目で学ぶ内容については、理解を確認する程度にします。したがって統計が苦手な人は特に、教科書以外の参考書も併用して予習をしてから授業に臨んでください。また、統計技法の理解を深めるために、授業外に行う課題を出すことがあります。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 山田剛史・村井潤一郎 (著) 『よくわかる心理統計』, ミネルヴァ書房 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 (著) 『SPSS による多変量解析』, オーム社  <b>【参考文献】</b> 森敏昭・吉田寿夫 (編著) 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』, 北大路書房 石村貞夫・石村友二郎 (著) 『SPSS による多変量データ解析の手順』, 東京図書 内田治 (著) 『すぐわかる SPSS によるアンケートの多変量解析』, 東京図書  ※その他の参考文献は適宜、紹介します。 また、必要に応じて、適宜資料を配布します。		
11. 成績評価の方法	授業参加度 30%、各種課題の成績 70%を総合的に検討して評価します。遅刻、早退は授業参加度の評価において減点します。		
12. 受講生へのメッセージ	統計処理によって、収集したデータから興味深い結果が得られたとき、研究はますます楽しくなります。そのために、多くの統計分析技法を身につけるよう、やる気を持って受講してください。 また統計技法は、実際のデータを分析する経験を重ねることで身につきます。数字を怖がらず、積極的に取り組む姿勢を期待します。 通学課程については、調べ学習の成果発表を課題とします。また場合によって、電卓を持参していただくことがあります。√計算が可能な電卓を各自で準備してください。		
13. オフィスアワー	別途、通知します。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	心理統計法について		
【学習の目標】	心理学の研究になぜ統計法が必要なかを理解する。		
【学習の内容】	心理学と記述統計、心理学と推測統計、心理統計の実際。		
【キーワード】	記述統計、推測統計、など。		
【学習の課題】	心理学の研究に統計法を用いることの利点を理解する。		
【参考文献】	指定教科書。		
【学習する上での留意点】	数字や数学を怖がらないこと。		
2. テーマ	1つの変数の特徴を記述する		
【学習の目標】	変数の特徴を理解し、記述できるようになる。		
【学習の内容】	尺度水準、変数変換、代表値、散布度、標準化。		
【キーワード】	名義尺度、比率尺度、間隔尺度、代表値、分散、Z 得点、標準偏差、など。		
【学習の課題】	①変数の特徴が理解できるようになること。 ②変数の性質によって、適用可能な統計技法が異なることを理解すること。		
【参考文献】	指定教科書。		
【学習する上での留意点】	数字や数学を怖がらないこと。		
3. テーマ	2つの変数の関係を記述する		
【学習の目標】	2つの変数間の関係をとらえる方法を理解し、その結果を記述できるようになる。		
【学習の内容】	散布図、共分散、相関係数、クロス集計。		
【キーワード】	相関関係、共分散、相関係数、クロス集計表、カイ 2 乗値、連関係数、など。		
【学習の課題】	変数の性質に合わせて、2つの変数の関係をとらえる方法を理解すること。		
【参考文献】	指定教科書。		
【学習する上での留意点】	数字や数学を怖がらないこと。		
4. テーマ	標本から母集団を推測する (1)		
【学習の目標】	サンプルデータ (標本) から母集団を推測する方法を理解する。		

	<p>【学習の内容】 母集団分布の仮定、正規分布とその性質、標準正規分布。</p> <p>【キーワード】 母集団、ランダムサンプリング、サンプルサイズ、正規分布、標準正規分布、など。</p> <p>【学習の課題】 全数調査と標本調査の違いについて理解する。</p> <p>【参考文献】 指定教科書</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
5 . テ ー マ	標本から母集団を推測する (2)
	<p>【学習の目標】 サンプルデータ (標本) から母集団を推測する方法を理解する。</p> <p>【学習の内容】 標本分布、標準誤差、推定量、不偏性。</p> <p>【キーワード】 標本分布、標準誤差、推定値、期待値、標本分散、不偏分散、など。</p> <p>【学習の課題】 標本調査における標本の偏りについて理解する。</p> <p>【参考文献】 指定教科書。</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
6 . テ ー マ	統計的仮説検定の考え方
	<p>【学習の目標】 統計的仮説検定の考え方について理解する。</p> <p>【学習の内容】 帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定の違い、統計的仮説検定の手順。</p> <p>【キーワード】 帰無仮説、有意水準、臨界値、両側検定、片側検定、危険率、検定力、など。</p> <p>【学習の課題】 ①統計的仮説検定の考え方を正しく理解する。 ②第一種の誤りと第二種の誤りについて理解する。</p> <p>【参考文献】 指定教科書</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
7 . テ ー マ	2つの平均値を比較する
	<p>【学習の目標】 <math>t</math> 検定を用いて 2 つの平均値を比較する方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 独立な 2 群の平均値を比較するための <math>t</math> 検定、対応のある <math>t</math> 検定。</p> <p>【キーワード】 <math>t</math> 分布、<math>p</math> 値、有意差、など。</p> <p>【学習の課題】 ①サンプルデータの特徴に基づいて、適切な <math>t</math> 検定の方法を選択できるようになる。 ② <math>t</math> 検定を理解する。</p> <p>【参考文献】 指定教科書</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
8 . テ ー マ	3つ以上の平均値を比較する 1
	<p>【学習の目標】 分散分析を用いて 3 つ以上の平均値の比較をする方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1 要因分散分析。</p> <p>【キーワード】 被験者間計画、被験者内計画、要因、水準、自由度、<math>F</math> 分布、多重比較、など。</p> <p>【学習の課題】 ①実験計画法について理解する。 ② 1 要因分散分析を理解し、どのような場合に用いるかについて考える。</p> <p>【参考文献】 指定教科書</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
9 . テ ー マ	3つ以上の平均値を比較する 2
	<p>【学習の目標】 分散分析を用いて 3 つ以上の平均値の比較をする方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 2 要因分散分析。</p> <p>【キーワード】 被験者間計画、被験者内計画、2 要因混合計画、要因、水準、自由度、<math>F</math> 分布、主効果、交互作用、多重比較など。</p> <p>【学習の課題】 2 要因分散分析を理解し、どのような場合に用いることが可能かについて考える。</p> <p>【参考文献】 指定教科書</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
10 . テ ー マ	多変量解析 1 ある変数から他の変数を予測する
	<p>【学習の目標】 重回帰分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 重回帰分析。</p> <p>【キーワード】 偏重回帰係数、変数選択、多重共線性、標準編回帰係数、重相関係数、など。</p> <p>【学習の課題】 重回帰分析の方法について理解する。</p> <p>【参考文献】 指定参考書。</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
11 . テ ー マ	多変量解析 (2) 複数の変数の相関関係を因子によって説明する
	<p>【学習の目標】 因子分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 因子分析。</p> <p>【キーワード】 構成概念、探索的因子分析、確証的因子分析、主因子法、最尤法、最少二乗法、共通性、など。</p> <p>【学習の課題】 因子分析の方法について理解する。</p> <p>【参考文献】 指定参考書。</p> <p>【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。</p>
12 . テ ー マ	多変量解析 (3) いくつかの変数に基づいて、各データがどの群に所属するかを判定する
	<p>【学習の目標】 判別分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 判別分析。</p> <p>【キーワード】 マハラノビスの距離、判別関数、など。</p> <p>【学習の課題】 判別分析の方法について理解し、どのような場合に用いることが可能かについて考える。</p> <p>【参考文献】 指定参考書。</p>

	【学習する上での留意点】 数字や数学を怖がらないこと。
13. テーマ	多変量解析（4）質的データを分類する
【学習の目標】	数量化理論を理解する。
【学習の内容】	数量化理論。
【キーワード】	数量化Ⅰ類、数量化Ⅱ類、数量化Ⅲ類、数量化Ⅳ類、など。
【学習の課題】	数量化Ⅰ類からⅣ類までを理解し、各類をどのような場合に用いることが可能かについて考える。
【参考文献】	指定参考書。
【学習する上での留意点】	数字や数学を怖がらないこと。
14. テーマ	多変量解析（5）観測された複数以上の変数間の因果関係を特定する
【学習の目標】	パス解析を理解する。
【学習の内容】	パス解析。
【キーワード】	因子分析、重回帰分析、顕在変数、観測変数、モデル、適合度、など。
【学習の課題】	パス解析を理解する。
【参考文献】	指定参考書。
【学習する上での留意点】	数字や数学を怖がらないこと。
15. テーマ	総括および単位認定試験
【学習の目標】	心理統計の考え方を理解し、データの分析方法について、その理論を理解し、データへの適用・分析・結果の解釈ができる。
【学習の内容】	心理統計におけるものの見方・考え方、各種分析方法の仕組みの理解、各種分析方法のデータへの適用、分析、結果の解釈。
【学習の課題】	①統計解析についての基礎的な理論を理解し、それらに関する知識が整理されている。 ②実際にデータに対して適切な統計的分析を行い、その結果を正しく解釈することができる。

1. 科目名 (単位数)	心理療法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6285
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	心理療法には様々なものがある。その各々は効果が期待できる対象が異なっている。そこで、よく精通した理論をもちながらもクライアントの問題により対応を変えていくことができるよう臨床心理士になるものは複数の理論を学んでおく必要がある。ここでは異なったアプローチ 6 つを取り上げ、その特徴やその背景について学ぶ。		
8. 学習目標	心理療法は、今、折衷の時代から統合の時代へと移り変わりつつある。各心理療法の原理を学びながら、共通にあるものは何かを探り、自分流の心理療法のあり方を創造していくことが目標である。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 心理療法を一つ選び、その誕生の歴史、並びに他の療法との比較をしながら、その心理療法の特徴(長所・短所・効果が期待できる対象等々)について述べよ。 2. 日本で生まれた心理療法(森田療法、内観療法、LAC法)と欧米生まれの心理療法とは、どのような違いがあるか、自由に考察せよ。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 伊藤良子編(2004)「臨床心理面接技法1」誠信書房 亀口憲治編(2004)「臨床心理面接技法3」誠信書房 【参考文献】 福島郁美(2008)「総説 カウンセリング心理学」金子書房		
11. 成績評価の方法	レポート 25% 発表 50% 知識の定着度 25%		
12. 受講生への メッセージ	心理療法と言えば、来談者中心療法の傾聴から始まる。そのためかこの療法だけが心理療法と信じている者がいる。しかし、効果的な心理療法はその他さまざまあり、その理論背景も異なる。ディスカッションしながら他の療法も受け入れられる素地づくりをしたい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2. テーマ	はじめに 心理療法とは何か		
	【学習の目標】 心理療法とは何か、を、カウンセリングとの違いから明確にする。 【学習の内容】 主要な心理療法の理論を3つを確認し、次にその応用の各理論を概観する。 【キーワード】 精神分析、来談者中心療法、行動療法 【学習の課題】 各心理療法にある原理の共通性を学ぶ 【参考文献】 平木典子(2006)「カウンセラーのさまざまな立場と活動」日本カウンセリング学会編 認定カウンセラーの資格と仕事 金子書房		
3～4. テーマ	精神分析的アプローチ		
	【学習の目標】 フロイトから始まる精神分析の変遷を概観し、その共通項を考える。 【学習の内容】 フロイトの精神分析、アドラーの個人心理学、ユングの分析心理学、バーンの交流分析の理論・技法の確認 【キーワード】 フロイト、アドラー、ユング、バーン 【学習の課題】 行動に影響する無意識という考え方を学ぶ 【参考文献】 杉田峰康他(1997)「脚本分析」チーム医療		
5～6. テーマ	来談者中心療法の発想と技法		
	【学習の目標】 ロジャースのパーソナリティ理論からこの療法の特徴を考える 【学習の内容】 人間中心と言われる理論の中心的概念を確認する。 【キーワード】 非指示、セラピストの条件、フォーカシング 【学習の課題】 適応にとっての身体感覚の重要性を学ぶ 【参考文献】 諸富祥彦(2003)フォーカシング指向カウンセリングのプロセス 田上不二夫他編 カウンセリングハンドブック 金子書房		
7～8. テーマ	認知・行動論的アプローチ		
	【学習の目標】 行動療法的アプローチの基本的立場を確認する。 【学習の内容】 認知行動療法並びにその流れにあるACTを学ぶ。 【キーワード】 条件づけ、モデリング、認知 【学習の課題】 今、ここで生じているものの多くは学習の結果であるという観点を学ぶ 【参考文献】 武藤 崇他(2006)成人の応用行動分析——オトナにも行動分析は使える ミネルヴァ書房		
9～10. テーマ	家族療法・夫婦療法		
	【学習の目標】 家族療法が生まれてくる背景を学ぶ 【学習の内容】 家族療法における各流派の主張の違いを考察する。 【キーワード】 家族システム、ダブルバインド、構造派 【学習の課題】 問題は、または問題行動は、家族という枠の中から生じているという視点を学ぶ。 【参考文献】 清水由文他(1999)「変容する世界の家族」ナカニシヤ出版		

11～12.テーマ	グループ・アプローチ
<p>【学習の目標】 集団を使った心理療法の原理を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 対人関係ゲームとエンカウンターとの違いを考察する。</p> <p>【キーワード】 対人関係ゲーム、ベーシックエンカウンター、構成的グループエンカウンター</p> <p>【学習の課題】 人は社会的動物といわれる。集団を治療の場として使う様々な考え方を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 田上不二夫 (2006)「対人関係ゲームによる仲間づくり」金子書房</p>	
13～14.テーマ	心理教育的アプローチ
<p>【学習の目標】 メンタルヘルスへの積極的な対策を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 学習理論に基づく各種療法は、日頃、留意すべき事項を教えている。どう使用したら多くの人々に役立つか考察する。</p> <p>【キーワード】 ソーシャルスキル、アサーション、ストレスコーピング</p> <p>【学習の課題】 治療よりも大切な予防という観点の大切さを学ぶ</p> <p>【参考文献】 岡林春雄 (1997)「心理教育」金子書房</p>	
15. テーマ	各心理療法の長所・短所
<p>【学習の目標】 現在の日本にあった心理療法とはどのようなものか考える。</p> <p>【学習の内容】 全体を復習しながら、どの療法に最も親和性を感じるか、その理由は何か考察する。</p> <p>【キーワード】 内観療法、森田療法、LAC法</p> <p>【学習の課題】 各心理療法の特徴と効果的な問題の確認をする。</p> <p>【参考文献】 松原達哉編 (2012)「臨床心理学 (5章)」ナツメ社</p>	

1. 科目名 (単位数)	精神医学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP5325 PSMP5216
2. 授業担当教員	花村 誠一		
4. 授業形態	講義および実技指導	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	臨床心理学または社会福祉学を学ぶ者に、手際よく現代精神医学のフロントラインを指し示すための科目である。DSM-IVおよび5を通して、医学(生物)・心理・社会(bio-psycho-social)の全体的、多面的側面から精神疾患をアセスメントする、厳密かつ正確な実践技法を学ぶ。EBM(evidence based medicine)の時代にふさわしく、受講生が実証的な研究法になじむように、主要な学習項目は計量精神病理学、実験精神病理学から選択する。さらに、一方で精神療法のテクニック、他方で精神医学の分子生物学へと展開し、精神疾患に対する既存のイメージが更新されるようにもくろむ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DSMの操作的診断基準にもとづいて、精神疾患の診断ないしアセスメントを行うことができる。</li> <li>2. 精神疾患を評価尺度によって客観的に測定し、信頼性と妥当性について統計学的検定ができる。</li> <li>3. ワーキングメモリや意味プライミングなど、重要な認知機能の測定装置を厳密かつ正確に使用できる。</li> <li>4. 言語論的転回以降にあらわれた代表的な精神療法のテクニックについて、その理論的基礎を説明できる。</li> <li>5. 精神科薬物療法、学習と記憶のメカニズム、精神疾患の遺伝について、その分子的基礎を説明できる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>高橋三郎, 大野裕監訳『DSM-5, 精神疾患の分類と診断の手引き』(MINI-D), 医学書院, 2014年 北村俊則著『精神・心理症状学ハンドブック第2版』, 日本評論社, 2002年</p> <p>【参考書】</p> <p>アレン・フランセス(大野裕ほか訳)『精神科診断のエッセンス—DSM-5の上手な使い方』金剛出版, 2014年 アレン・フランセス(大野裕監修)『正常を救え—精神医学を混乱させる DSM-5への警告』講談社, 2013年 森則夫, 杉山登志郎, 岩田泰秀編著『臨床家のための DSM-5 虎の巻』, 日本評論社, 2014年 クッファー/ファースト/レジエ編(黒木俊秀ほか訳)『DSM-V 研究行動計画』, みすず書房, 2008年 花村誠一(オーガナイザー): 日本精神病理・精神療法学会第36回大会(京都), ワークショップⅢ「DSM-5と精神病理学」, 黒木俊秀: 精神科診断におけるディメンジョン的アプローチとはなんだろうか? 179-188, 針間博彦: DSM-5: 「統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群」の特徴と問題点. 189-198, 十一元三: DSM-5の「自閉症スペクトラム障害」概念とその病理が示唆するもの. 199-204, 臨床精神病理 35, 2014年 アルヴィン E. ハウス著(上地安昭, 宮野素子訳)『学校で役立つ DSM-IV』, 誠信書房, 2003年 北村俊則著『精神症状測定の理論と実際(第2版)』, 海鳴社, 1995年 N.C.アンドリアセン著(武田雅俊, 岡崎祐士訳)『脳から心の地図を読む—精神の病を克服するために』, 新曜社, 2004年 苅阪満里子著『ワーキングメモリー脳—脳のメモ帳』, 新曜社, 2002年 M. シュピッツァー著(村井俊哉, 山岸洋訳)『脳, 回路網のなかの精神』, 新曜社, 2001年 スティーブン E. ハイマン, エリック J. ネスラー著(融道男, 澁谷治男訳)『精神医学の分子生物学』, 金剛出版, 1997年 J. D. ナンオ著(姉齒一彦訳)『ヒステリー, 精神分析の申し子』, 青土社, 1998年 赤坂和哉『ラカン派精神分析の治療論—理論と実践の交点』, 誠信書房, 2011年 P. ワツラウィック, J. ウィークランド, R. フィッシュ著(長谷川啓三訳)『変化の原理』, 法政大学出版局, 1992年 シーラ・マクナミー, ケネス J. ガーゲン編(野口裕二, 野村直樹訳)『ナラティブ・セラピー(社会構成主義の実践)』, 金剛出版, 1997年 マイケル・J・マホーニー編(根建金男ほか監訳)『認知行動療法と構成主義心理療法—理論・研究そして実践』, 金剛出版, 2008年 木島伸彦ほか: Cloningerの気質と性格の7次元モデルおよび日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI). 精神科診断学 7: 379-399, 1996. 佐藤裕史, G. E. Berrios: 操作的診断基準の概念史—精神医学における操作主義, 精神医学 43: 704-713, 2001 J.G. ガンダーソン著(松本雅彦ほか訳)『境界パーソナリティ障害—その臨床病理と治療』, 岩崎学術出版, 1988年 杉山登志郎著『発達障害の豊かな世界』, 日本評論社, 2000年 J. レフ, C. ヴォーン著(三野善史ほか訳)『分裂病と家族の感情表出』, 金剛出版, 1991年 N.C. Andreasen(平安良雄ほか監訳): 新 Bleuler 学説に基づく精神分裂病の単一疾患モデル. 臨床精神薬理 5: 553-575, 2002年 クラウス・コンラート著(山口直彦ほか訳)『分裂病のはじまり』, 岩崎学術出版社, 1994年</p>		

	<p>ヴォルフガング・ブランケンブルク著 (木村敏ほか訳)『自明性の喪失—分裂病の現象学』、みすず書房、1994 年          ヴォルフガング・ブランケンブルク著 (木村敏・生田孝監訳)『目立たぬものの精神病理』、みすず書房、2012 年          ルーク・チョンピ著 (松本雅彦ほか訳)『感情論理』、学樹書院、1994 年          加藤忠史著『岐路に立つ精神医学—精神疾患解明へのアプローチ』、勁草書房、2013 年          村井俊哉著『精神医学を視る「方法」』、日本評論社、2014 年</p> <p>American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders.Fifth Edition.DSM-5.2013.          Regier,D.A.,et.al.ed.: The Conceptual Evolution of DSM-5. American Psychiatric Publishing, Inc., Washington,DC,London,2011.          Paris,J.,Phillips,J.ed.: Making the DSM-5. Concepts and Controversies. Springer,2013.          Andreasen,N.C.:Brave New Brain. Conquering Mental Illness in the Era of the Genome. Oxford University Press,Oxford &amp; New York,2001          Andreasen,N.C.:DSM and the death of phenomenology in America ; An example of unintended consequences. Schizophrenia Bulletin 33: 108-112, 2007          Kendell, R, Jablensky, A: Distinguishing between the validity and utility of psychiatric diagnoses. Am.J. Psychiat. : 4-12, 2003.          Sadler J.Z., Wiggins O.P., Schwarz M.A.: Philosophical Perspectives on Psychiatric Classification. Johns Hopkins University, Baltimore &amp; London, 1994.          Sass L.A.: The Paradoxes of Delusion. Wittgenstein, Schreiber, and the Schizophrenic Mind. Cornell University, Ithaca &amp; London, 1994.          Servan-schreiber,D.,Printz,H.,Cohen,J.D.:Anetwork model of catecholamine effects:Gain,signal-to-noise ratio,and behavior. Science249:892-895,1990          Watzlawick, P.: The Invented Reality. How Do We Know What We Believe We Know? (Contributions to Constructivism) Norton &amp; Company, 1984.</p> <p>邦訳のない外国語文献についてはそのつど指示し、重要なものは抄訳ないしレジュメを配布する。写真や図表についてはその都度 visual aids を作成し、OHC やパワーポイントでもって映写する。ソフトウェアが開発されている測定装置のうち、許可を得たものについては教材として使用する。</p>				
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業での質疑や議論への参加</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題レポートでの達成レベル</td> <td>50%</td> </tr> </table>	授業での質疑や議論への参加	50%	課題レポートでの達成レベル	50%
授業での質疑や議論への参加	50%				
課題レポートでの達成レベル	50%				
12. 受講生へのメッセージ	<p>19 年ぶりに改訂された DSM-5 がメンタルヘルス関係者の注目を集めている。さしもの DSM-5 特別委員会もディメンジョン的モデルの採用はなお時期尚早として見送らざるを得なかったようだ。とはいえ、精神疾患の病因をめぐって、ある種のパラダイム・シフトが起こりつつあることは間違いない。</p> <p>DSM による診断は、精神疾患についてのあらゆる理解と知識の統合を要求する、きわめて要求水準の高い専門レベルの仕事である。人権尊重への配慮がいっそう問われるこれからの福祉社会では、精神保健や心理臨床の専門家にもアカウンタビリティ (説明責任) が求められる。</p> <p>このことを踏まえ、各セクションには実証的な研究法に役立つ具体的なテーマを並べたが、4 の精神療法のテクニックはやや異色である。ここでは、教員自身の臨床現場から模範事例を挙げながら、平素にも増して受講生との対話形式の授業を展開するように配慮する。</p> <p>外部講師による特別授業として、今年度は、下平美智代先生 (看護師・心理学博士、前国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所研究員、現 ACT-J 所属) に、昨今、メンタルヘルス領域で最大のホットアイテムとなっているフィンランドの「オープンダイアログ」に関する報告をしていただく。</p> <p>教員は現役の精神科医であり、精神病理学・精神療法を主な研究領域としている。現在、日本精神病理学会、日本芸術療法学会、日本病跡学会の理事を務める。受講生の諸君も、これらメンタルヘルス関係の諸学会に積極的に参加し、おおいに学問的刺激をうけてほしい。</p>				
13. オフィスアワー	<p>春期：水曜日 9:00～12:00          秋期：木曜日 9:00～12:00          研究室 26 (1号館 4階)</p>				
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】					
1. テーマ	精神医学における操作主義とは				
【学習の目標】	<p>米国精神医学会の「精神疾患の分類と診断の手引き」第3版 (DSM-III) にとり入れられた新機軸について学ぶ。本科目の眼目は、何といっても DSM-IV の概要を把握することに置かれており、その概念史についても十分な理解をもってほしい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神疾患の診断が国や学派によって一致しなかったのはなぜか。</li> <li>2) DSM-III はそれをどのように乗り越えようとしたか。</li> <li>3) これによって精神医学にどのような地殻変動が生じたか。</li> <li>4) DSM-III 以降の精神医学によって失われたものはなにか。</li> </ol> <p>【キーワード】 論理実証主義 (ウィーン学団)、操作主義、C. G. ヘンペル、セントルイス・グループ、ファイナー基準、研究用</p>				

	<p>診断基準 (RDC), プレコックス感</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) DSM-IIIの基本方針、「理論に偏らない」(atheoretical) 診断手順を追体験してみる。</li> <li>2) 米国の伝統であった力動精神医学と DSM-III以降の新クレペリン主義との違いを知る。</li> <li>3) ドイツ精神病理学からの批判のポイントについて理解する。</li> <li>4) 21 世紀に米国の精神医学がどのように展開していくか予測してみる。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 佐藤裕史, G. E. Berrios: 操作的診断基準の概念史—精神医学における操作主義, 精神医学 43(7): 704-713, 2001.</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> WHO による国際疾病分類 (ICD-10) との互換性、および若干の差異に留意すること。</p>
2 . テ ー マ	DSM-IV[および DSM-5]診断システムの概観
<p><b>【学習の目標】</b></p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p>	<p>DSM-IVの使用法に精通し、主要な精神疾患の診断ないしアセスメントの仕方について概要を把握する。なお、2013 年における第 5 版の刊行をにらんで、そのフィールドトライアルの結果について若干の議論を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) DSM-IVにおける精神疾患および他の状態の基本定義について理解する。</li> <li>2) 伝統的に神経症(ないしヒステリー)とされた病態は、DSM-IVではどこに配属されているか。</li> <li>3) 多軸評定の構成に即して、クライアントに関する多面的な情報を効率よく整理する。</li> <li>4) 病型、重症度・経過の特定用語、暫定診断、特定不能のカテゴリーについて理解する。</li> </ol> <p>現実検討能力 (reality testing), カテゴリカルとディメンジョナル, 転換性障害, 解離性障害, 不安障害, 身体化障害, 外傷後ストレス障害 (PTSD), GAF 尺度、プレコックス感、感度、特異性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) DSM-IVケースブックから精神分裂病(統合失調症)、気分障害、その他の代表的症例を抜き出し、その診断手順を確認してみる。</li> <li>2) 鑑別診断における「ルールイン」(同定)と「ルールアウト」(除外)の手順に即して、各自でフローチャートを作成してみる。</li> <li>3) 機能の全体的評定(Global Assessment of Functioning, GAF)尺度にもとづいて、クライアントの精神保健および適応について評価してみる。</li> </ol> <p>高橋三郎, 大野裕監訳『DSM-5, 精神疾患の分類と診断の手引き』(MINI-D), 医学書院, 2014 年</p> <p>ドイツ語圏精神病理学における統合失調症に関する代表的著作(コンラート, ブランケンブルク, チョンビ)の併読をすすめる。西欧精神医学と米国精神医学のあいだには、どうしても知的伝統の相違ゆえの齟齬が生じがちである。</p>
3 . テ ー マ	学校で役立つ DSM-IV-TR および DSM-5
<p><b>【学習の目標】</b></p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p>	<p>幼児、児童、青年の診断ないしアセスメントに特化して、DSM-IVおよび DSM-5の使用法を学ぶ。また、精神疾患の早期発見と早期介入というトピックにもふれてもらう。とりわけ、統合失調症のそれについては、いくつかの新しい用語に慣れなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達の特性を重視しながら、DSM-IVの診断カテゴリーの適用がめざされる。</li> <li>2) 精神保健アセスメントにおけるスクールサイコロジストの役割について考える。</li> <li>3) 精神病(気分障害に属するものを含む)は小児期にはどのような現象形態であられるか。</li> <li>4) ここでの学習内容は、成人の精神障害における病前行動特性の評価にも役立つ。</li> </ol> <p>行為障害 (CD), 反抗挑戦性障害 (ODD), 注意欠陥/多動性障害 (ADHD), チック障害, 摂食障害, 選択性緘黙, 性同一性障害, 広汎性発達障害 (PDD) から自閉症スペクトラム障害へ、D U P (Duration of Untreated Psychosis), P E L s (Psychotic Like Experiences)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 不登校事例に即して、可能性のあるすべての病態を列挙してみる。</li> <li>2) 破壊的行動症状(表面化する問題)、情動の症状(内面化する問題)に分けて病態を整理してみる。</li> <li>3) 知的能力、学習、コミュニケーション、および認知の問題のアセスメントについて学習する。</li> <li>4) バロン-コーエンの「心の理論」仮説を理解し、それにもとづく検査手技を実行してみる。</li> </ol> <p>アルヴィン E. ハウス著(上地安昭, 宮野素子訳)『学校で役立つ DSM-IV』誠信書房, 2003 年</p> <p>東條吉邦ほか編『発達障害の臨床心理学』, 東京大学出版会, 2010 年</p> <p>13 歳以前に発症した「最早期発症」(very-early-onset)の統合失調症の病像を成人のそれと比較してみよう。統合失調症の 1.5 次予防は、新世紀の精神医学のトピックであり、他の精神疾患についても予防戦略がしきりに論じられつつある。</p>
4 . テ ー マ	症状評価尺度の信頼性と妥当性
<p><b>【学習の目標】</b></p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p>	<p>精神症状の測定方法に関する信頼性と妥当性の統計学的検定について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神症状測定の信頼性に対して、これまで十分な考察がなされなかったのはなぜか。</li> <li>2) 同一の被験者に対する評価尺度の得点が 2 名の評定者間で異なるように働く要因を数えあげる。</li> <li>3) 評価尺度が測定すべきものをどれだけ正しく測定しているか、その程度を妥当性という。</li> <li>4) 妥当性の検討には、他の尺度との比較による方法となんらかの外的規準を用いる方法とがある。</li> </ol> <p>評価手技, rating scale と instrument, 被験者分散, 状況分散, 基準分散, 観察分散, 信頼性検定のデザイン, 信頼度の計算方法, 構成上の信頼性, 妥当性の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 信頼性検討の研究で用いられる Cohen の <math>\kappa</math> 係数の計算法をマスターする。</li> <li>2) <math>\kappa</math> 係数に及ぼす base rate の影響について理解し、いくつかの場合を想定してみる。</li> <li>3) 評価尺度の内的整合性の指標となる Cronbach の <math>\alpha</math> 係数について理解する。</li> <li>4) 外的規準を用いた妥当性の検討について、実現可能と思われる方法を列挙してみる。</li> </ol> <p>北村俊則著『精神症状測定の理論と実際 (第 2 版)』, 海鳴社, 1995 年</p> <p>教員が取り組んでいるボン大学基底症状評価尺度 (BSABS) について、信頼性と妥当性を測定する手順を具体的に示したい。経験的・実証的研究に着手しようとしている院生たちにとっては、こういう手本を示すことがな</p>



	よりも重要であると考えている。
5 . テーマ	よく用いられる症状評価尺度
【学習の目標】	精神科で頻用される代表的な評価尺度の構成を理解し、それらの正しい適用について学ぶ。精神疾患簡易構造化面接法 (M.I.N.I.) のシミュレーション・ビデオを用いて具体的に「構造化面接」を体得してもらう。
【学習の内容】	1) それぞれの評価尺度の項目の名称と定義について十分な理解をもつ。 2) 重症度評価におけるアンカー・ポイントの意義について正しく理解する。 3) 得点の得られなかった項目には欠損値が与えられるが、どのように処理すればよいか。 4) アウトカム・アセスメントが臨床的、経済的、政策的に必要な理由について述べよ。
【キーワード】	簡易精神症状評価尺度(BPRS), ハミルトンうつ病評価尺度 (HDS), 陽性症状評価尺度 (SAPS), 陰性症状評価尺度(SANS), ミニメンタルテスト(MMS), 長谷川式簡易痴呆スケール(HDS)
【学習の課題】	1) 健常者を対象に2人の評定者によって包括的評価尺度 BPRS を施行してみる。 2) 代表的な痴呆スケールの評価手技に親しみ、自らデータを集めてみる。 3) さまざまな用途に応じたおびただしい数の評価尺度が開発されているが、一通り眺めわたしてみる。 4) 各自、自らの研究計画のなかで使えそうな評価尺度をいくつか選んでみる。
【参考文献】	北村俊則著『精神症状測定の理論と実際 (第2版)』, 海鳴社, 1995年
【学習する上での留意点】	ここで学んだ症状評価尺度についての知識は、修士論文のデザインにも寄与するところが大きいだろう。また、ここでの視野を近年ますます重要視されつつあるアウトカム・アセスメントへと拡大してみよう。
6 . テーマ	気質・性格の次元的な分類
【学習の目標】	DSM-IVによるパーソナリティ障害の診断では、いわゆる重複診断が頻繁に生じることになる。ここでは、その代替策として、パーソナリティに関するカテゴリー分類からディメンジョン分類への移行について学ぶ。
【学習の内容】	1) カテゴリー分類には、評定者間信頼度が低く、重複診断に傾きやすいという欠点がある。 2) DSM-IVにおける人格障害のクラスター分類は、なおカテゴリー分類に近いものである。 3) 奇妙で風変わりに見える A 群、演劇的・情緒的・移り気に見える B 群、不安と恐怖を特徴とする C 群。 4) クローニンジャーによる気質の4因子、性格の3因子からなる TCI はディメンジョン分類である。
【キーワード】	TCI (Temperament and Character Inventory), 気質の4因子 (新奇性追求, 損害回避, 報酬依存, 固執), 性格の3因子 (自己志向, 協調, 自己超越)
【学習の課題】	1) 一組のペアで、SCID-II (DSM-IV, II軸の人格障害のための構造化面接) を施行してみる。 2) 各自 TCI の質問票にある全項目にチェックし、結果を自ら集計してみる。 3) クローニンジャーによる TCI の概念構成に照らし、自らのパーソナリティを評価してみる。 4) クローニンジャーの生物社会学的ディメンジョン・モデルがどれほど大きな意義をもつか考えてみよう。
【参考文献】	木島伸彦ほか: Cloninger の気質と性格の7次元モデルおよび日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI). 精神科診断学 7: 379-399, 1996. (雑誌)
【学習する上での留意点】	血圧の正常と異常を区分点 cut off point で決めるのがカテゴリカルなとらえ方である。これに対し、連続量としてあつかうのがディメンショナルなとらえ方である。TCI はきわめて鋭敏な測定ツールであり、各自が自分自身で試してみることを奨める。
7 . テーマ	ワーキングメモリとは何か
【学習の目標】	ワーキングメモリの働きを脳の神経基盤をもとに理解し、いくつかの検査手技について学ぶ。
【学習の内容】	1) 日常生活におけるさまざまな行動場面で、ワーキングメモリはどのように働いているか。 2) バッドリーのワーキングメモリのモデル (視覚・空間的スケッチパッド、音韻ループ) について理解する。 3) 老人におけるワーキングメモリの低下について、これまでどのようなことがわかっているか。 4) 児童におけるワーキングメモリの発達について、これまでどのようなことがわかっているか。
【キーワード】	Goldman-Rakic のサルによる実験, 前頭前野, 情報処理障害, Wisconsin Card Sorting Test (WCST), リーディングスパンテスト, リスニングスパンテスト
【学習の課題】	1) WCST のソフトウェアを使用し、自ら被験者になってディスプレイ上で体験してみる。 2) 受講生同志でペアをつくり、リーディングスパンテストを実行してみる。 3) ワーキングメモリに容量制限があるのはなぜか、ジャストとカーペンターの仮説について理解する。 4) 統合失調症の hypofrontality はワーキングメモリの障害によって説明できるだろうか。
【参考文献】	荻原満里子著『脳のメモ帳, ワーキングメモリ』新曜社, 2002年
【学習する上での留意点】	統合失調症のほか、注意欠陥/多動性障害(ADHD)の研究にも使われる Continuous Performance Test のソフトウェアについても、デモンストレーションを行う。
8 . テーマ	意味プライミング効果の計測
【学習の目標】	意味プライミング効果の計測法と、その思考障害研究への応用について学ぶ。統合失調症の研究を例に、実験精神病理学という魅力的な分野に目を開いてほしい。
【学習の内容】	1) ゴルトン、アシャップエンブルク、ユングによる古典的な連想実験の意義について考える。 2) 統合失調症の形式的思考障害、連想の弛緩は臨床的にどのような表現形態をとるか。 3) 単語を読みあげて連想を喚起するやりかたには、どのような方法上の難点があるか。 4) 語彙判定課題による意味促進 (プライミング) 効果の計測は、コンピュータのディスプレイを介して行う。
【キーワード】	連想ネットワーク, 語彙判定課題, プライム刺激, ターゲット刺激, 促進効果と抑制効果, 間接的連想, 意味ネッ

	<p>トワークの活性化焦点の理論</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 語彙判定課題のソフトウェアを使用し、自ら被験者になって意味促進効果を測定してみる。</li> <li>2) M. シュピッツァーの研究を参照しながら、3) 4) が実際にどう実現されたかフォローしてみる。</li> <li>3) 統合失調症における連想の障害を研究するにあたり、どのような実験条件を設定したらよいか。</li> <li>4) 統合失調症における具象化傾向を研究するにあたり、どのような実験条件を設定したらよいか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> M. シュピッツァー著 (村井俊哉, 山岸洋訳) 『脳, 回路網のなかの精神』, 新曜社, 2001 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>形式的思考障害をシグナル/ノイズ比の低下によって説明したコーエンとサーヴァン=シュライバーの研究についても、その概要を把握してみよう。科学における実験が強靱なロジックによって支えられていることをしっかりと学びとってほしい。</p>
<p>9 . テ ー マ</p>	<p>脳機能イメージングの研究</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 最新の脳機能イメージング研究の成果にもとづいて、人間の脳の動作原理について学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現在実用段階にある非侵襲的脳機能検査法にはどんなものがあるか。</li> <li>2) それぞれの脳イメージング装置は何をどのように画像化しているのか。</li> <li>3) 各イメージング装置を空間分解能と時間分解能を軸にとる座標平面的な位置づけてみる。</li> <li>4) 脳機能イメージング研究で得られた知識は、脳機能の発達や改善に応用することができるだろうか。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> PET, functional MRI, 脳磁図, 脳電図, 光トポグラフィ, 空間分解能, 時間分解能</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) CD-ROM によって、知覚と認知のイメージングを概観してみる。</li> <li>2) CD-ROM によって、学習と記憶のイメージングを概観してみる。</li> <li>3) CD-ROM によって、コミュニケーション機能のイメージングを概観してみる。</li> <li>4) CD-ROM によって、思考と情動のイメージングを概観してみる。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> 川島隆太著 『高次機能のブレインイメージング』, 医学書院, 2002 年</p> <p>—カラーの図表やムービー (動画) を入れたハイブリッド CD-ROM が添付されている。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>f-MRI は被験者の動きに弱く、子供を対象にする際には工夫が必要である。子供はまた、課題遂行を途中でやめたり、睡ってしまったりする。このことに関して、何かよいアイデアはないだろうか。</p>
<p>10 . テ ー マ</p>	<p>ラカンの精神分析</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> いまや国際精神分析学会 (IPA) をしのぐ勢いで急成長を遂げつつあるラカン派精神分析の理論と技法について一瞥しておく。なお、今年度は本テーマに関連して、上智大学の藤山直樹先生 (IPA 会員) による特別授業が行われる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ラカン派精神分析と米国に流布する自我心理学的なそれとの決定的な違いはどこにあるか。</li> <li>2) フランス構造主義との浸透によって、フロイトの精神分析はどのような洗練を遂げたか。</li> <li>3) いわゆる「短時間セッション」が被分析者に及ぼす治療的意義について考えてみよう。</li> <li>4) ヒステリー、恐怖症、強迫神経症において、無意識の「問い」はどのようなかたちをとるか。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 無意識, 享楽 (ジュイサンス), 対象 a, 幻想, 身体, 無意識の主体, 排除 (フォルクリュジョン), シニフィアン, 想像界/象徴界/現実界</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員自身の臨床現場から、妄想性人格障害の患者に対する夢分析の過程が提示される。</li> <li>2) 新宮一成の「いざなみの夢系列」に関する構造主義的アプローチを参照してみる。</li> <li>3) この事例は精神分析が適応可能なりミットであると思われるが、いくつか教訓をひき出してみよう。</li> <li>4) ラカン派精神分析による神経症と精神病との構造論的峻別から何を学びとるか。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> J. D. ナシオ著 (姉齒一彦訳) 『ヒステリー, 精神分析の申し子』, 青土社, 1998 年</p> <p>赤坂和哉 『ラカン派精神分析の治療論—理論と実践の交点』, 誠信書房, 2011 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>精神保健や心理臨床の専門職にゆきわたっているのは、力動的心理学ないし自我心理学であろう。その意味では、ここで展開される事柄の多くが新鮮に映るかもしれない。</p>
<p>11 . テ ー マ</p>	<p>家族療法ないしコミュニケーション理論</p>
	<p><b>【学習の目標】</b> 前世紀のなかば米国に登場した家族療法の基礎理論、二重拘束仮説について今日的視点から再考してみる。</p> <p><b>【学習の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイトソンのオリジナルの二重拘束仮説について、その理論的手立てのポイントをおさえる。</li> <li>2) この仮説が統合失調症の理論としては生き残れなかったのはなぜか、考えてみよう。</li> <li>3) ワツラウィックやスルズキによって普遍的病因論へと拡大されていく経緯をたどり直す。</li> <li>4) 人間のコミュニケーションについて、言語学という語用論を踏まえて概念化してみる。</li> </ol> <p><b>【キーワード】</b> 二重拘束 (ダブルバインド), 学習 I, II, III, ロジカルタイプ, 逆理 (パラドックス), 問題の形成と解釈, リフレミング, 世代間境界の区切り</p> <p><b>【学習の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員自身の臨床現場から、摂食障害 (過食) の患者に対する家族療法および夫婦療法が提示される。</li> <li>2) この事例における「世代間境界の混乱」を読みとり、それに対する治療技法を考えてみる。</li> <li>3) MRI の影響を受けたミラノ派の治療技法についても、この事例を通して考えてみる。</li> <li>4) コミュニケーション理論とラカン派精神分析との遭遇について、議論を展開してみよう。</li> </ol> <p><b>【参考文献】</b> P. ワツラウィック, J. ウィークランド, R. フィッシュ著 (長谷川啓三訳) 『変化の原理』法政大学出版局, 1992 年</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b></p> <p>米国ではこの領域における PSW や CP の活躍が目立つ。受講生にも自らの援助技術や治療技術と照らし合わせてみることをすすめる。なお本テーマと次回のテーマ「構成主義」との関連で、今年度は、下平美智代先生 (看護師、心理学博士) をお招きし、フィンランドの「オープンダイアログ」に関する特別授業をしていただく。</p>

12. テーマ	構成主義, 構築主義など
【学習の目標】	<p>認知行動療法から構成主義精神療法への展開について概観し、心理療法の未来を思い描いてみる。最近の話題であるナラティブ・セラピーをめぐり、その思想的背景と技法の特徴について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グラザースフェルトによる認知科学的なラディカル構成主義について紹介する。</li> <li>2) ドイツ語圏では、これが最大の学派になり、「一般システム療法 (AST)」へと発展した。</li> <li>3) これと似て非なる社会構築主義の基本的な考え方、治療への応用について学習する。</li> <li>4) 医学においても、EBM に対し NBM(Narrative Based Medicine)を唱える動きがある。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>コンストラクティヴィズムとコンストラクショニズム, ナラティブ・モデル, リフレクティング・チーム, ソーシャル・コンストラクション, 「現実 は 人々の間で構成される」</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員自身の臨床現場から、思春期妄想症の患者に対する描画をとり入れた精神療法が提示される。</li> <li>2) この事例では、患者自身が自発的に描いた絵によって治療過程が忠実に映し出されている。</li> <li>3) 治療者による ad hoc な構成がそのつど患者にどのような影響を及ぼすか追跡してみる。</li> <li>4) この事例は精神療法が誘発する「変化」の実例として、受講生間の自由な討論にゆだねられる。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>マイケル・J・マホーニー編 (根建金男ほか監訳) 『認知行動療法と構成主義心理療法—理論・研究そして実践』、金剛出版、2008 年</p> <p>シーラ・マクナミー, ケネス J. ガーゲン編 (野口裕二, 野村直樹訳) 『ナラティブ・セラピー(社会構築主義の実践)』金剛出版、1997 年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>社会構築主義の盛名に隠れて、認知的な構成主義のほうはほとんど人口に膾炙されることがない。教員自身はむしろ後者のほうからより多くのものを学んだ経緯をもち、ここでも、少しくふれさせていただくつもりである。</p>
13. テーマ	<p>シナプス伝達の分子動態をめぐって</p> <p>【学習の目標】</p> <p>精神科薬物療法の基礎として、脳内の神経伝達物質、神経調節物質および受容体に関する分子動態について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中枢神経系の薬理学における重要な特徴「血液脳関門」の働きについて理解する。</li> <li>2) 神経伝達物質ないし神経調節物質をいくつかグルーピングして頭に入れる。</li> <li>3) 受容体を G タンパク結合性受容体とリガンド依存性チャンネルとに種別して整理する。</li> <li>4) 向精神薬のシナプスにおける作用部位について、模式図を見ながらよく理解する。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>グルタミン酸, γ-アミノ酪酸 (GABA), ドーパミン, セロトニン, ノルアドレナリン, アセチルコリン, クロロニンゲによる受容体サブタイプの同定</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科治療薬の効果がゆっくり発現することから、その薬理機序について推測してみる。</li> <li>2) シナプス伝達に関する従来の見方がどのように更新されたか、最新の知見にあたってみる。</li> <li>3) タンパクのリン酸化が媒介する神経の可塑性について、その概要を理解する。</li> <li>4) シナプスを介した遺伝子発現の制御メカニズムについて、その概要を理解する。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>ナンシー C. アンドリアセン著 (武田雅俊, 岡崎祐士訳) 『脳から心の地図を読む—精神の病を克服するために』新曜社、2004 年</p> <p>スティーン E. ハイマン, エリック J. ネスラー著 (融道男, 澁谷治男訳) 『精神医学の分子生物学』金剛出版、1997 年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>精神疾患について「脳から生じ、心として表現される」というイメージをもてるようになるかどうか。臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士にとって、脳科学の進歩への一瞥はもはや欠かすことのできない背景知識の 1 つであるといえる。</p>
14~15. テーマ	<p>コメディカルのための精神薬理学</p> <p>【学習の目標】</p> <p>近年、第二世代型抗精神病薬や選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) の開発によって、精神科臨床は少なからぬ変容を遂げつつある。薬物療法は精神療法と対立するどころか、むしろその前提と考えるべきであることを、しっかり頭に入れてほしい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 抗精神病薬、抗うつ薬・抗躁薬の開発の歴史について学び、現況を知る準備を整える。</li> <li>2) 第二世代抗精神病薬のメリットについて学び、従来薬からの切り替えのノウハウについて学ぶ。</li> <li>3) 選択的セロトニン再取り込み阻害剤の諸種の適応について学び、効果のエビデンスについて知る。</li> <li>4) 抗不安薬・睡眠薬の薬理の概要を把握し、その使い方についても一応の知識を得る。</li> </ol> <p>【キーワード】</p> <p>セロトニン-ドーパミン拮抗薬 (serotonin-dopamine antagonist, SDA)、多元受容体標的化抗精神病薬 (multi-acting-receptor targeted-antipsychotics, MARTA)、選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (selective serotonin reuptake inhibitor, SSRI)、セロトニン-ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (serotonin-noradrenaline reuptake inhibitor, SNRI)、ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬 (noradrenergic and specific serotonergic antidepressant, NaSSA)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) PET を用いた分子イメージングによる抗精神病薬の薬効評価という最新の成果について概観しておく。</li> <li>2) D2 受容体占有率と EPS(extrapyramidal symptom)の発現との関係から therapeutic window (治療の窓) が確定できる。</li> <li>3) 向精神薬の副作用について、その症状と対策に即して網羅的に一瞥しておく。</li> <li>4) 精神科薬物療法と認知行動療法との折り合いについて、具体的な治療例を思い描いてみる。</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>融道男著『向精神薬マニュアル 第3版』、医学書院、東京、2008 年</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>このテーマについては、数年前、元放送大学教授、現さいたま市立病院総合診療科 (精神科) 部長仙波純一先生による特別授業があった。そのさいに用いられたパワーポイントのハンドアウトのコピーを配布したい。</p>

1. 科目名 (単位数)	喪失の悲しみへの援助 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP6288
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義を中心とする。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	かけがえのない大切な人との別離ほど我々を苦悩させるものはない。ましてやそれが死によりもたらされ、永遠に会うことがかなわなくなった時、我々は悲しみ、嘆き、怒りなどの感情面はもちろんのこと、身体的な不調や思考の混乱、さらには行動上の問題など多様な事柄を抱える。そこで本講義では、喪失の悲しみのなかでも特に死別体験がもたらすものに焦点をあて、グリーフカウンセリングによる援助の可能性と限界について考察したい。		
8. 学習目標	次の 2 点を目標とする。 1 グリーフカウンセリングの理論的枠組みと方法、具体的な技術について、①遺族支援の必要性、②死別の悲しみの特質、③遺族の持つ両義的反応、④哀悼へのかかわりの点から理解する。 2 自死(殺)遺族と犯罪被害者遺族へのかかわりのあり方について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題は講義中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 教場で資料を配布する。 【参考文献】 鈴木康明『グリーフ・カウンセリング』(山崎久美子編「臨床心理クライアント研究セミナー」) 至文堂 J.W.ウォーデン『グリーフカウンセリング』川島書店 若林一美『死別の悲しみを超えて』岩波書店		
11. 成績評価の方法	レポート 80%、講義への関与度などその他 20%		
12. 受講生への メッセージ	主題に応じ演習を実施する。また受講者による研究発表を行う。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	1 ガイダンス		
【学習の目標】	本主題を学習する際に必要な姿勢と、学習効果をたかめるために必須の学問領域について理解する。		
【学習の内容】	自己に対する情緒的な気づきと、社会学、倫理学、生物学、死生学などの概要を整理する。		
【キーワード】	気づき、個性、生と死		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	心理学以外の事柄にも関心を持つ。		
2. テーマ	2 遺族 (1) 遺族について 1) survivor と bereaved family 2) 遺族へのかかわり		
【学習の目標】	遺族について、定義と意味を正確に理解する。		
【学習の内容】	遺族の特質を正と負の両面から具体的に整理する。		
【キーワード】	ネガティブサバイバー 自責		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
3. テーマ	(2) 遺族理解 1) 反応の個別性 2) 共通する反応		
【学習の目標】	遺族支援を目指し、遺族の持つ特質を正確に理解する。		
【学習の内容】	反応の個別的な部分と共通する部分の両面を整理する。		
【キーワード】	個別性、普遍性		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
4. テーマ	3 死別の悲しみ (1) 特徴 1) 個人差 2) 主観性		
【学習の目標】	死別の悲しみの全体を正確に理解する。		
【学習の内容】	死別の悲しみの個人差が優位に立つ部分と、それがもたらす社会的偏見について整理する。		
【キーワード】	死別 グリーフ 偏見		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
5. テーマ	(2) グリーフ 1) 情緒 2) 身体反応 3) 認知 4) 行動 5) 事例から		
【学習の目標】	グリーフの 4 領域について正確に理解する。		
【学習の内容】	情緒、身体、認知、行動にまたがるグリーフを具体的に整理する。		
【キーワード】	悲嘆と悲哀 4 領域		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		

6 . テーマ	(3) モーニング (mourning 哀悼) 1) ボウルビィ 2) 鈴木 3) 事例から
【学習の目標】	哀悼の過程について正確に理解する。
【学習の内容】	哀悼の個別性を、先行研究、事例から整理する。
【キーワード】	モーニング 過程
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
7 . テーマ	(4) ストレス反応 1) PTSD 2) 事例から
【学習の目標】	急性ストレス障害、PTSD について正確に理解する。
【学習の内容】	遺族の反応の意味について精神医学的知見も参考に整理する。
【キーワード】	急性ストレス障害 PTSD PTG
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
8 . テーマ	4 グリーフケア (1) 自死 (殺) の遺族 1) 特徴 2) 遺児について
【学習の目標】	遺族ケアを、特に自死遺族に焦点を当て正確に理解する。
【学習の内容】	自死遺族の傾向、自死遺児の傾向について整理する。
【キーワード】	自死 遺児
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
9 . テーマ	3) かかわる際の留意点
【学習の目標】	自死遺族支援の具体的かかわりについて正確に理解する。
【学習の内容】	自死遺族支援の現状と課題、かかわりの留意点を整理する。
【キーワード】	自助グループ サポートシステム
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
10 . テーマ	(2) 犯罪被害者の遺族 1) 特徴 2) かかわりの留意点
【学習の目標】	犯罪被害者の遺族支援の具体的かかわりについて正確に理解する。
【学習の内容】	犯罪被害者の遺族支援の現状と課題、かかわりの留意点を整理する。
【キーワード】	犯罪被害者
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
11 . テーマ	(3) 喪の語り 1) 語る意味 2) 傾聴とは
【学習の目標】	死別の悲しみと語りについてその意義を中心に正確に理解する。
【学習の内容】	遺族の語るの意味と意義について具体的に整理する。
【キーワード】	語り 物語
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
12 . テーマ	5 グリーフケアの実際 (1) 死別体験者のためのわかちあいの会 (2) 自死遺族・遺児の場合
【学習の目標】	実際に行われているグリーフケアについて限界、留意点も含め正確に理解する。
【学習の内容】	グループによるかかわりを取り上げ、利点、欠点の両面から整理する。
【キーワード】	わかちあい
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
13 . テーマ	6 課題学習
【学習の目標】	自らテーマを設定し、死別の悲しみへの援助についての理解を深める。
【学習の内容】	テーマについての発表、意見交換を中心とする。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	他の研究主題にも積極的関心を持つ。
14 . テーマ	課題学習
【学習の目標】	自らテーマを設定し、死別の悲しみへの援助についての理解を深める。
【学習の内容】	テーマについての発表、意見交換を中心とする。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	他の研究主題にも積極的関心を持つ。
15 . テーマ	7 総合討議
【学習の目標】	死別の悲しみへの援助についての各自の見解をまとめる。
【学習の内容】	意見交換を中心に全体を総括する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自らの見解を整理統合し、文章化することを視野に置く。

1. 科目名 (単位数)	発達心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5225
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	最近の「発達心理学研究」(日本発達心理学会 編)と「教育心理学研究」(日本教育心理学会 編)に掲載の論文を読み、理解できるように解説をする。原則として、毎回、1 編の論文を読む。どの論文を取り上げるかは、そのつど授業の中で指示する。		
8. 学習目標	(1) 発達心理学の論文を読み、理解できるようになる。 (2) 各論文で採用されている研究方法について理解を深め、自分でも使えるようになる。 (3) 論文から得られる知見について、さらに精緻化したり敷衍したりして、理解を深める		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各研究論文のまとめと発表		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特になし。		
11. 成績評価の方法	レポート 80% 出席 20% 【通信教育は、レポート 100%】		
12. 受講生への メッセージ	ディスカッションには、積極的に参加してください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1 . テ ー マ	論文の読み方		
	【学習の目標】 心理学の論文(特に、発達心理学の論文)を正しく理解するための、論文の読み方について学習する。 【学習の内容】 論文の構成(問題、先行研究、目的、方法、結果、考察)の意味について学習する。 【キーワード】 心理学研究法、クリエイティブ 【学習の課題】 論文の読み方についての要点を述べよ 【参考文献】 「心理学研究法」高野・岡(編)有斐閣 【学習する上での留意点】 批判的視点と著者の視点と双方から、いつも考えること		
2～14. テーマ	論文 1 (未定。履修生の選択による。)		
1 5 . テ ー マ	まとめ		
	【学習の目標】 発達心理について、この授業で学んだことの確認をする。 【学習の内容】 発達心理学の研究について、各履修生の考察したことを発表する。 【キーワード】 クリエイティブ、学問の進歩、 【学習の課題】 発達心理学の今後の課題について考える 【参考文献】 論文 1～13 【学習する上での留意点】 自分の頭で考え、自分なりのまとめをしてみる。		

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学研究法特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5247
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>質的研究方法によって修士論文を書くために、質的研究方法の意義と方法論を学ぶ。また現象学的心理学の観点に立って日常に起きている現象を見ることによって、将来心理臨床家になって、一人一人のクライアントを大切に丁寧な関わりを持とうと考えている院生にとって、本講義は大きな意義をもつものである。</p> <p>具体的な質的研究方法としては、観察法、インタビュー法、ディスコース法、エスノグラフィーを中心に、エピソード記述法、再詳述法、GTA 法など基本的な方法を学ぶ。また、それらの方法論のバックグラウンドをなしている現象学的な考え方として、マーティン・ハイデガー、メルロ・ポンティ、ルードヴィヒ・ウィットゲンシュタインの考え方を学ぶ。したがって本講義により、質的研究の在り方つまり人間理解の根本を理解することを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究方法と量的研究方法の違いを学ぶ。</li> <li>2. 研究方法の意義を学び、質的研究方法によって修士論文が書けるようにする。</li> <li>3. フィールドノーツの記述、エピソード記述法 M-GTA 法に慣れる。</li> <li>4. 質的研究法の代表的な 5 つのアプローチを学習し、その独自性を理解する。</li> <li>5. 体験的学習を通して、質的方法論における限界と可能性に対する理解を深める。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 Banister, P. 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻著 2005「エピソード記述入門」東京大学出版会 無藤隆著 2005「質的研究の三つのジレンマ『再詳述法』の提案による質的心理学的可能性」質的心理学研究 (第 4 号 58-64) 新曜社 木下康仁 2007「ライブ講義 M=GTA:実践的質的研究法」弘文堂 佐藤郁哉 2009「質的データ分析法」新曜社 Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>, Pittsburgh: Duquesne University Press. Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry &amp; Research Design</i>, London: Sage Publications. Hayes, N. 1997 <i>Doing Qualitative Analysis in Psychology</i>, UK: Psychology Press.</p>		
11. 成績評価の方法	発表レジュメ 20%、研究レポート 30%、ファイナルレポート 50%		
12. 受講生への メッセージ	質的研究方法は、自分の内面を振り返ることにつながり、楽しく挑戦的です。何よりも、心理臨床の実践に役立ちます。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でお知らせします。		
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	質的心理学研究法について、オリエンテーション		
	<p>【学習の目標】 質的心理学研究法とは、出来上がって固定化した概念にとらわれることなく、ある現象の豊かさ(本質)を捉え、つかみ取ろうとする方法である。言い換えれば、日常生活の中に生きている人々のありのままの姿から、当たり前になっている事柄を再検証し、根本的な人の生き様を深く見つめて行くことである。それは臨床心理士を目指す院生にとって最も身近な方法論とも言える。そこで、1 回目では教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」1 章によって、質的研究の定義とその歴史的背景を見ていく。さらに、質的研究を実施するとき、研究方法論が陥りやすい問題点を認識していることは研究者として重要な姿勢である。従い、質的研究の始まりとその問題点を確認し、リフレキシビティの視点について理解していく。</p> <p>【参考文献】 Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社 佐藤郁哉 2009「質的データ分析法」新潮社</p>		
2. テーマ	<p>質的研究が指すもの: 実存論と存在論 ハイデッガー、メルロ・ポンティ、ウィットゲンシュタインの人間論</p> <p>【学習の目標】 質的研究の方法論は哲学的な知見が背景にあって方法論として成立するものである。特に現象学の知見は質的研究法に大きな影響を与えているといっても過言ではない。本講義は、ヘーゲルに始まりハイデッガーにいたる現象学の歴史的背景を理解し、この世界の中に存在し、日常生活を営んでいる人間をどのように見て行くべきなのか哲学者たちの見解を見て行く。これらの知見を知ること、なぜ人を研究テーマとした時に質的研究が重要なのか理解できることを目指す。</p> <p>【参考文献】 稲田智己 2006「存在の問いと有限性: ハイデッガー哲学のトポロギー的究明」晃洋書房 メルロ・ポンティ 2004「見えるものと見えないもの」滝浦静雄・木田元訳 みすず書房 Dreyfus, H.L. 1991 <i>Being-in-the-World</i>, Cambridge: The MIT Press. Wittgenstein, L. 1966 <i>Philosophical Investigations</i>. New York: Macmillan Publishing.</p>		

3 . テーマ	観察法
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の2章より様々な研究方法を学んでいく。ここでは、観察法を使った質的研究のデータ収集の仕方、分析法とその過程で研究者が注意しなければならない点を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>佐藤郁哉 2002「フィールドワークの技法: 問いを育てる、仮説をきたえる」新潮社</p> <p>鈴木裕久 2006 「臨床心理研究のための質的方法概説」創風社</p>	
4 テーマ	フィールドワーク 1
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の2章を参考に、フィールドにて関心があった出来事を観察し、または、映像に収めてくる。質的データとして分析しまとめてきた題材をもとに、再詳述法によりその実際を再吟味する。現象の持つ豊かさをどのように伝えられるかを確かめ、同時に言葉の持つ意味と限界に気づき、自己が持つ従来のバイアスについて学ぶ。院生各自の考察を発表する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>佐藤郁哉 2002「フィールドワークの技法: 問いを育てる、仮説をきたえる」新潮社</p> <p>鈴木裕久 2006 「臨床心理研究のための質的方法概説」創風社</p>	
5 . テーマ	エスノグラフィー
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の3章よりエスノグラフィーを学んでいく。ここでは特に参与観察法を使った質的研究のデータ収集の仕方、分析法とその過程で研究者が注意しなければならない点を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>佐藤郁哉 2002「フィールドワークの技法: 問いを育てる、仮説をきたえる」新潮社</p> <p>鈴木裕久 2006 「臨床心理研究のための質的方法概説」創風社</p>	
6 . テーマ	フィールドワーク 2
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の3章を参考に、「日常」という自己の生活の場の出来事を参与観察し、フィールドノーツにまとめ質的データとして分析する。結果としてまとめてきた題材をもとに、その実際を再吟味する。現象の持つ豊かさをどのように伝えられるかを確かめ、同時に言葉の持つ意味と限界に気づき、自己が持つ従来のバイアスについて学ぶ。院生各自の考察を発表する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>無藤・やまだようこ・南・麻生・サトウ編著 2008「ワードマップ 質的心理学」新曜社 (1-1、2-2、3-1、3-3、4-1~4-4、5-1~5-2 参照のこと。)</p>	
7 . テーマ	インタビュー
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の4章よりインタビュー法を学んでいく。ここではインタビューによるデータ収集の仕方、分析法とその過程で研究者が注意しなければならない点を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>Monk, G., Winslade, J., Crockett, K., &amp; Epston, D. 1997 <i>Narrative Therapy in Practice: The archaeology of Hope</i> (国重・バーナード 訳「ナラティブ・アプローチの理論から実践まで: 希望を掘り当てる考古学」北大路書房</p> <p>J.マクレオッド 2007 「物語としての心理療法: ナラティブセラピーの魅力」誠信書房</p>	
8 . テーマ	フィールドワーク 3
<p>【学習の目標】</p> <p>教科書「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」の4章を参考に、インタビュー法を実施し、データ収集、逐語の作成、分析の実践を通し、その手続きを理解する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008「質的研究法入門: リフレキシビティの視点」) 新潮社</p> <p>Monk, G., Winslade, J., Crockett, K., &amp; Epston, D. 1997 <i>Narrative Therapy in Practice: The archaeology of Hope</i> (国重・バーナード 訳「ナラティブ・アプローチの理論から実践まで: 希望を掘り当てる考古学」北大路書房</p>	



J.マクレオッド 2007 「物語としての心理療法：ナラティブセラピーの魅力」誠信書房 無籐・やまだようこ・南・麻生・サトウ編著 2008 「ワードマップ 質的心理学」新曜社 (1-1、2-2、3-1、3-3、4-1~4-4、5-1~5-2 参照のこと。)	
9 . テーマ	エピソード記述法、再詳述法、M-GTA 法
<p>【学習の目標】 何らかの現象の観察、また何らかの手記やドキュメンタリーの採取、またはインタビュー（個人、グループ）に基づいて得られたデータをもとに、M-GTA を実施し、それぞれの理論的概念を適切に表すストーリーをエピソード記述法と再詳述法により説明する。ある現象を記述し考察することに際して、その現象の豊かさをどのように伝えるべきか、従来の見方の変革につながる考察を考える。</p> <p>【参考文献】 木下康仁 2003 「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践」弘文堂 佐藤郁哉 2002 「フィールドワークの技法：問を育てる、仮説を鍛える」新曜社 尾見康博・伊藤哲司 2001 「心理学におけるフィールド研究の現場」北大路書房 フォルスタイン、J.A. 2004 「アクティブ・インタビュー：相互行為としての社会調査」山田富秋他訳 せりか書房 マクレオッド、J. 2007 「物語としての心理療法：ナラティブ・セラピーの魅力」野村晴夫訳 誠信書房 無籐・やまだようこ・南・麻生・サトウ編著 2008 「ワードマップ 質的心理学」新曜社 (1-1、2-2、3-1、3-3、4-1~4-4、5-1~5-2 参照のこと。) Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry &amp; Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
10 . テーマ	ディスコース分析
<p>【学習の目標】 教科書「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」の6章よりディスコース分析を学んでいく。ここでは言語が構造化されて意味やディスコースが生み出される仕方を解明する。テキストの分析法とその過程で研究者が注意しなければならない点を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】 Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008 「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」) 新潮社 V.バー 1997 「社会構造主義への招待：言語分析とは何か」田中一彦訳 川島書店 百武 正嗣 2009 「気づきのセラピー」春秋社 鈴木聡志 2007 「ワードマップ 会話分析・ディスコース分析：言葉の織りなす世界を読み解く」新総社 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry &amp; Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
11 . テーマ	パーソナル・コンストラクト・アプローチ
<p>【学習の目標】 教科書「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」の5章よりパーソナル・コンストラクト・アプローチを学んでいく。ここでは量的な手法として扱われているレパートリー・グリッドをはじめラダリング法、ABCモデル、セルフ・キャラクターゼーション等の多角的な分析法を用いる意味と効果を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】 Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008 「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」) 新潮社 杉山憲司・堀毛一也 1999 「シリーズ・心理学の技法 性格研究の技法」福村出版 Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry &amp; Research Design</i>. London: Sage Publications. Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO. Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press. Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
12 . テーマ	アクションリサーチ
<p>【学習の目標】 教科書「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」の7章よりアクションリサーチを学んでいく。ここでは本アプローチの歴史的背景と研究の信念を理解する。また、各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。</p> <p>【参考文献】 無籐・やまだようこ・南・麻生・サトウ編著 2008 「ワードマップ 質的心理学」新曜社 (5-7 参照のこと。) S.ケミス・R. マクタガート著「参加型アクションリサーチ」(N.K. デンジン・Y.S. リンカン編 「質的研究ハンドブック第2巻：質的研究の設計と戦力」平山満義漢訳、藤原顕編訳、北大路書房、2006 に収録)</p>	
13 . テーマ	フィールドワーク 4
<p>【学習の目標】 第9回の講義のに基づき、フィールドワークとして得られたナラティブ等のデータをエピソード記述法、再詳述法、M-GTA 法と使って分析する。</p>	

<p>【参考文献】                  木下康仁 2003 「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践」 弘文堂                  佐藤郁哉 2002 「フィールドワークの技法：問を育てる、仮説を鍛える」 新曜社                  木下康仁 2009 「M-GTA：質的研究と記述の厚み」 弘文堂</p>	
14. テーマ	質的研究の在り方：論文としてまとめるには
<p>【学習の目標】                  「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」9章・10章によって、質的研究の独自性について確認し、陥りやすい問題点を認識し、倫理的問題点にも認識を深める。</p> <p>【参考文献】                  Banister, P. (ed.) 1994 <i>Qualitative Methods in Psychology: A Research Guide</i> (五十嵐靖博 監訳 2008 「質的研究法入門：リフレキシビティの視点」) 新潮社                  無藤 隆 他 2004 「質的心理学」 新潮社                  Monk, G., Winslade, J., Crocket, K. &amp; Epston, D. 1997 <i>Narrative Therapy in Practice : The Archaeology of Hope</i> (国重 宏一、バーナード 紫 訳 2008 「ナラティブアプローチの理論から実践まで：希望を掘り当てる考古学」) 北大路書房                  Creswell, J. W. 2007 <i>Qualitative Inquiry &amp; Research Design</i>, London: Sage Publications.                  Feyerabend, P. 1990 <i>Against Method</i>. London: VERSO.                  Van Manen, M. 1990 <i>Researching lived experience: Human science for an action sensitive pedagogy</i>. Albany: State University of New York Press.                  Giorgi, A. (ed.) 1985 <i>Phenomenology and Psychological Research</i>. Pittsburgh: Duquesne University Press.</p>	
15. テーマ	まとめ
<p>【学習の目標】                  ここまでに学んだことを復習する。そして、自分の関心のある研究テーマに結びつけて、質的研究方法によって修士論文を書けるようにして行く。</p>	

1. 科目名 (単位数)	臨床心理関連行政論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5262
2. 授業担当教員	松坂 秀雄		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	心理臨床活動において行政システムの把握は重要であり、今日、クライアントやその家族、関係者の援助において必要性が高くなっている。心理臨床活動の福祉、教育、医療、司法、産業等の諸領域における行政の仕組みや法律、倫理について取り上げ、それらの理解を深めると共に、体験的ワークのなかで臨床心理関連行政に関する臨床感覚を養っていく。		
8. 学習目標	福祉、教育、医療、司法、産業等諸領域における心理臨床活動関連の行政の仕組みや法律、倫理について学ぶと共に、実際の心理臨床場面における行政の活用、法律の適用、倫理的対応についての方法を身につけることを学習の目的とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント：次回の授業のキーワードについて調べてくること。 レポート課題の設題：「心理臨床活動に関わる法律と倫理の関係性について、秘密の保持に伴う倫理的葛藤を踏まえて、具体的な事例をまじえながら 2000 字程度で述べなさい。」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 松田純・江口昌克・正木祐史『ケースブック 心理臨床の倫理と法』知泉書館、2009 年。 【参考文献】 佐藤進監修『心の専門家が会える法律 第 3 版』誠心書房、2009 年 日本心理臨床学会倫理規定 2013 年 日本臨床心理士会倫理規定 2013 年		
11. 成績評価の方法	レポート 50% 日常の授業態度 (課題に関する発表の内容、質疑・討論への参与度等) 50%		
12. 受講生へのメッセージ	心理臨床活動における行政・法律に関心を持つと同時に、所属団体の倫理規定にも留意し心理臨床感覚を養ってください。		
13. オフィスアワー	木曜日 11:00～14:50		
15 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	心理臨床に関する法律の概要		
	【学習の目標】 心理臨床に関する法律について、その基本を学ぶ。 【学習の内容】 心理臨床の各領域における法的体系について学ぶ。 【キーワード】 憲法、心理援助関連法律 【学習の課題】 心理臨床における関連法律についての意義を考える。 【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史 (2009) 「ケースブック 心理臨床の倫理と法」 知泉書館		
2. テーマ	福祉領域における心理臨床関連法律について		
	【学習の目標】 福祉領域における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。 【学習の内容】 障害者基本法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法等の法律概念について学ぶ。 【キーワード】 障害者福祉、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法 【学習の課題】 福祉領域における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。		
3. テーマ	医療領域における心理臨床関連法律について		
	【学習の目標】 医療領域における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。 【学習の内容】 医療法、医師法、保健師助産師看護師法、薬事法等の法律概念について学ぶ。 【キーワード】 医療法、医師法、保健師助産師看護師法、薬事法、がん対策基本法 【学習の課題】 医療領域における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。		
4. テーマ	児童心理臨床における関連法律について		
	【学習の目標】 児童心理臨床における関連法律の概要について学ぶ。 【学習の内容】 児童福祉法、児童虐待防止法、児童の権利に関する条約等の法律概念について学ぶ。 【キーワード】 児童福祉法、児童虐待防止法、児童の権利に関する条約 【学習の課題】 児童心理臨床における活動に必要な法的知識を理解する。 【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史 (2009) 「ケースブック 心理臨床の倫理と法」 知泉書館		
5. テーマ	少年心理臨床における関連法律について		
	【学習の目標】 少年心理臨床における関連法律の概要について学ぶ。 【学習の内容】 少年法、少年院法等の法律概念について学ぶ。 【キーワード】 少年鑑別所、少年院、少年刑務所 【学習の課題】 少年心理臨床における活動に必要な法的知識を理解する。		
6. テーマ	学校臨床における心理臨床関連法律について		
	【学習の目標】 学校臨床における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。 【学習の内容】 教育基本法、学校教育法、いじめ防止対策推進法等の法律概念について学ぶ。 【キーワード】 教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、いじめ防止対策推進法、スクールカウンセラー活用調査研究委託事業 (平成 7 年度)		

	<p>【学習の課題】 学校臨床における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p> <p>【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史（2009）「ケースブック 心理臨床の倫理と法」知泉書館</p>
7. テーマ	家庭領域における心理臨床関連法律について
	<p>【学習の目標】 家庭領域における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）等の法律概念について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）</p> <p>【学習の課題】 家庭領域における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p>
8. テーマ	産業領域における心理臨床関連法律について
	<p>【学習の目標】 産業領域における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 労働基準法、労働安全衛生法、自殺対策基本法等の法律概念について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 労働基準法、改正労働安全衛生法、自殺対策基本法</p> <p>【学習の課題】 産業領域における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p> <p>【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史（2009）「ケースブック 心理臨床の倫理と法」知泉書館</p>
9. テーマ	高齢者福祉領域における心理臨床関連法律について
	<p>【学習の目標】 高齢者福祉領域における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 老人保健法、老人福祉法、介護保険法等の法律概念について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 老人保健法、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待</p> <p>【学習の課題】 高齢者福祉領域における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p>
10. テーマ	犯罪被害における心理臨床関連法律について
	<p>【学習の目標】 犯罪被害における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 犯罪被害者保護法等の法律概念について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 犯罪被害者保護法</p> <p>【学習の課題】 犯罪被害における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p> <p>【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史（2009）「ケースブック 心理臨床の倫理と法」知泉書館</p>
11. テーマ	災害被害における心理臨床関連法律について
	<p>【学習の目標】 災害被害における心理臨床関連法律の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 災害対策基本法、災害救助法等の法律概念について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 災害対策基本法、災害救助法、日本赤十字社</p> <p>【学習の課題】 災害被害における心理臨床活動に必要な法的知識を理解する。</p>
12. テーマ	心理臨床活動における倫理について
	<p>【学習の目標】 心理臨床活動における倫理の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 日本臨床心理士会倫理綱領、秘密の保持、面接記録の開示・説明と責任等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 日本臨床心理士会倫理綱領、秘密の保持、面接記録の開示・説明と責任</p> <p>【学習の課題】 心理臨床活動における必要な倫理を理解する。</p> <p>【参考文献】 日本心理臨床学会倫理規定（2013） 日本臨床心理士会倫理規定（2013）</p>
13. テーマ	事例発表・出版等における倫理について
	<p>【学習の目標】 事例発表・出版等における倫理の概要について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 研究倫理、プライバシーの保護、インフォームド・コンセント等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 研究倫理、プライバシーの保護、インフォームド・コンセント</p> <p>【学習の課題】 事例発表・出版等における倫理を理解する。</p>
14. テーマ	カウンセラーの守秘義務に関する判決例等について
	<p>【学習の目標】 カウンセラーの守秘義務に関する判決例等について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 タラソフ事件、カウンセラーの守秘義務等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 タラソフ事件、カウンセラーの守秘義務</p> <p>【学習の課題】 カウンセラーの守秘義務を理解する。</p> <p>【参考文献】 松田純・江口昌克・正木祐史（2009）「ケースブック 心理臨床の倫理と法」知泉書館</p>
15. テーマ	全体のまとめ
	<p>【学習の目標】 心理臨床活動に関わる法律と倫理について総合的に考える。</p> <p>【学習の内容】 心理臨床活動に関わる法律と倫理の関係性について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 秘密の保持、倫理的葛藤</p> <p>【学習の課題】 心理臨床活動に関わる法律と倫理を総合的に理解する。</p>